

中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団第十一回訪日報告書

目次

報告書の刊行にあたって	1
中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」寄付金申込社(者)一覧	2
2012年度中国日本商会役員一覧.....	3
2012年度社会貢献委員会委員名簿	5
2012年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿	6
程海波団長挨拶.....	7
主催、共催団体の概要	8
第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団 団員名簿.....	9
第11回訪日 ホームステイ受け入れリスト	10
第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程	11
第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト	13
< 訪日記録 >	
パナソニックエコテクノロジーセンター(11/26)/担当:北京大学	18
人と防災未来センター(11/27)/担当:北京理工大学	20
同志社大学(11/27)/担当:北京師範大学	22
トヨタ自動車(堤工場、トヨタ会館)(11/28)/担当:北京化工大学	25
日揮(11/29)/担当:中央民族大学.....	27
丸紅(11/29)/担当:外交学院	29
三井住友銀行(11/30)/担当:北京大学	31
東京都中央区清掃工場(12/3)/担当:北京師範大学	33
日比谷松本楼(12/3)/担当:北京化工大学.....	35
キューピー(野菜工場含む)(12/4)/担当:北京理工大学	37
慶応義塾大学(12/4)/担当:中央民族大学	41
住友化学千葉工場(12/5)/担当:北京師範大学.....	44
ホテルニューオータニ(12/6)/担当:外交学院.....	46
学生たちの感想文から	48
学生たちの撮った写真	76

第11回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、中国日本商会会員の総力を結集し、関係各位のご協力を得て実現した「走近日企・感受日本」事業第2弾の記念すべき第1回訪日団の報告書です。

第1弾は2007年から2012年まで、合計10回、中国大学生からなる訪日視察団を派遣し、28大学294名が参加しました。日本商会は、第1弾終了後も、引き続き未来の中国を担う若い世代である大学生に日本及び日本企業を知ってもらうことが大切であるという総意の下、第2弾の実施を決議し、3年間で6回、計210名の学生を派遣するために、会員から新たに1億5千万円の寄付を募り、このたび、無事、実施の運びとなったものです。

通算で第11回目となる今回は、北京大学、北京師範大学、北京理工大学、北京化工大学、中央民族大学に、中日友好ボランティア枠として外交学院を加えた6大学から合計35名を選抜して2012年11月25日から12月6日までの12日間、日本に派遣しました。また、11月23日に開催された壮行会には、第10回訪日団に参加した学生も参加し、交流の輪が広がりました。日中関係がこれまでにない厳しい状況下での訪日団の派遣でしたが、このような時こそ、青少年の交流を継続すべきだとの信念に基づき、今回の準備を進めた結果、成功裏に終了したことを心から喜んでおります。

視察企業は、パナソニックエコテクノロジーセンター(兵庫)、トヨタ自動車(愛知)、日揮(神奈川)、丸紅本社(東京)、三井住友銀行本店(東京)、キューピー五霞工場(茨城)、住友化学千葉工場(千葉)、ニューオータニホテル(東京)の8社。その他、中国大使館訪問、神戸震災メモリアルパーク・防災未来センター、東京都中央区清掃工場、日比谷松本楼の見学、日本の大学生(同志社大学、慶応大学)との交流、日本の代表的なソフトパワーである「三鷹の森ジブリ美術館」の見学、一泊二日のホームステイ体験など多岐にわたるプログラムが組み込まれています。ホームステイ受入に協力いただいた企業は15社(旭化成、アルプス電気、伊藤忠商事、キヤノン、JTB、新日鐵住金、住友商事、トヨタ自動車、日本航空、日立、丸紅、みずほコーポレート銀行、三井物産、三菱商事、三菱東京UFJ銀行)にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の協力によって実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会にも全面的な協力をいただいております。訪日団の日本受け入れ、本報告書の編集にあたっては、一般財団法人日中経済協会にご尽力をいただいております。加えて、寄付金の管理については、中国側では中国友好和平発展基金会に、日本側では公益社団法人 企業市民協議会(CBCC)にご協力をいただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

中国日本商会 会長 小関秀一

2012年12月

中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」 寄付金申込社（者）一覧

【寄付金】750万円

1	アサヒグループホールディングス株式会社
2	伊藤忠(中国)集団有限公司
3	新日鐵住金株式会社
4	住友商事(中国)有限公司
5	全日本空輸株式会社
6	東芝(中国)有限公司
7	トヨタ自動車(中国)投資有限公司
8	日本航空株式会社
9	日立(中国)有限公司
10	丸紅株式会社 丸紅(中国)有限公司
11	株式会社みずほコーポレート銀行
12	三井物産株式会社
13	三菱商事株式会社
14	三菱電機(中国)有限公司
15	三菱東京 UFJ 銀行(中国)有限公司

【寄付金】350万円以上～750万円未満

1	日本電気株式会社
2	キヤノン(中国)有限公司
3	住友化学投資(中国)有限公司
4	ソニー(中国)有限公司
5	三井住友銀行(中国)有限公司

【寄付金】100万円以上～350万円未満

1	あいおいニッセイ同和損保株式会社
2	旭化成株式会社
3	旭硝子(中国)投資有限公司
4	アルプス(中国)有限公司
5	岩谷産業株式会社
6	日本たばこ産業株式会社
7	日本郵船株式会社
8	NTTグループ
9	JTB 新紀元国際旅行社有限公司
10	JX日鉱日石エネルギー株式会社
11	双日株式会社
12	第一生命株式会社
13	株式会社電通
14	東京海上日動火災保険株式会社 東京海上日動火災保険(中国)有限公司
15	日揮株式会社
16	日産(中国)投資有限公司
17	野村證券株式会社
18	三井化学株式会社
19	三井住友海上火災保険株式会社 三井住友海上火災保険(中国)有限公司
20	三井住友信託銀行
21	三菱重工業(中国)有限公司

【寄付金】10万円以上～100万円未満

1	株式会社 IHI
2	アルパイン(中国)有限公司
3	株式会社荏原製作所
4	エプソン(中国)有限公司
5	華昇富士達電梯有限公司
6	住金物産株式会社
7	住友生命保険相互会社
8	ソニー生命保険株式会社
9	大和証券株式会社
10	宝酒造株式会社
11	電源開発株式会社
12	東工物産貿易有限公司
13	東曹達(上海)貿易有限公司
14	トヨタモーターファイナンスチャイナ
15	日本生命保険相互会社
16	テルモ(中国)投資有限公司
17	日本農林中央金庫有限公司
18	ハウス食品株式会社
19	日立高新技术(上海)国際貿易有限公司
20	株式会社ブリヂストン
21	北京丘比食品有限公司
22	三井不動産諮詢(北京)有限公司
23	三菱マテリアル株式会社
24	三菱 UFJ 証券有限公司
25	三菱 UFJ 信託銀行
26	明治安田生命保険相互会社
27	明宝工程塑料商貿(上海)有限公司
28	矢崎(中国)投資有限公司
29	理光軟件研究所(北京)有限公司
30	株式会社ワコールホールディングス
31	成川 育代(個人会員)
32	柳田 洋(個人会員)

2012年度中国日本商会役員一覧

12月度現在

	商会役職	氏 名	会社名	役職
1	会長	小関 秀一	伊藤忠	常務執行役員 東アジア総代表
2	副会長	杉浦 康誉	アサヒグループホールディングス	執行役員 中国代表部 北京代表
3	副会長	木戸脇 雅生	NEC(中国)	執行役員 中国総代表 総裁
4	副会長	小澤 秀樹	キヤノン	常務取締役 中国董事長
5	副会長	白須 達朗	新日鐵住金	執行役員 中国総代表 北京事務所長
6	副会長	幸 伸彦	住友商事	常務執行役員 中国総代表
7	副会長	稲田 健也	全日本空輸	上席執行役員 中国総代表 北京・天津支店長
8	副会長	佐々木 昭	トヨタ自動車(中国)投資	董事長
9	副会長	田村 暁彦	日中経済協会	北京事務所 所長
10	副会長	酒匂 崇示	日本貿易振興機構	北京代表処 所長
11	副会長	北山 隆一	日立(中国)	執行役常務 中国総代表
12	副会長	鹿間 千尋	丸紅	常務執行役員 中国総代表
13	副会長	宮口 丈人	みずほコーポレート銀行(中国)	董事長
14	副会長	瀬戸山 貴則	三井物産	専務執行役員 中国総代表
15	副会長	矢野 雅英	三菱商事	副社長執行役員 東アジア統括
16	副会長	久木田 崇彰	三菱電機	中国総代表
17	副会長	柳岡 広和	三菱東京UFJ銀行(中国)	董事長
18	理事	高橋 修	岩谷産業	常務執行役員 中国総代表
19	理事	川崎 一彦	双日	常務執行役員 中国総代表
20	理事	近藤 隆弘	豊田通商	執行役員 中国総代表
21	理事	菊池 哲	阪和興業	理事 中国副総代表華北担当兼北京所長兼大連所長
22	理事	荒川 英典	住金物産	北京事務所大連事務所 所長
23	理事	竹川 善雄	旭硝子汽車玻璃(中国)	董事長
24	理事	神谷 雅行	旭硝子(中国)投資	常務執行役員 中国総代表
25	理事	山田 晶一	NTTファシリティーズ	総経理
26	理事	武川 昌俊	JX日鉱日石エネルギー	常務執行役員 中国総代表 北京事務所長
27	理事	長瀬 裕和	月島環保機械(北京)	総経理
28	理事	松岡 豊人	東京電力	北京代表処 首席代表
29	理事	碓田 聖史	三菱重工業	中国総代表
30	理事	勾坂 行男	アルプス(中国)	総経理
31	理事	稲葉 雅人	NTT	理事 中国総代表
32	理事	堂園 憲治	NTT通信系統(中国)	北京分公司 総経理
33	理事	二方 歩	NTTドコモ	北京事務所 所長
34	理事	山田 正晴	京セラ	北京代表処 首席代表

35	理事	久保田 陽	ソニー(中国)	業務執行役員EVP／中国総代表
36	理事	桐山 輝夫	東芝(中国)	執行役常務 中国総代表
37	理事	大澤 英俊	パナソニックチャイナ	役員 中国・東アジア総代表
38	理事	箕田 好文	富士通(中国)	董事長
39	理事	庄司 周平	マルチメディア振興センター	北京代表処 首席代表
40	理事	森山 博之	旭化成	北京事務所 所長
41	理事	中村 総明	伊藤喜商貿(上海)	北京分公司 総経理
42	理事	中嶋 孝	王子製紙	参与 中国事業本部本部長 北京事務所所長
43	理事	西 広信	住友化学投資(中国)	総経理
44	理事	矢野 公一	大日本印刷	北京代表処 常駐代表
45	理事	陳 偉東	中外製薬	北京事務所 首席代表
46	理事	寺師 啓	東レ	北京事務所 所長
47	理事	得丸 洋	三井化学	社長補佐(専務執行役員待遇) 中国総代表
48	理事	瀬川 拓	三菱化学	理事 中国総代表
49	理事	家森 誠一	日本興亜損害保険	駐中国総代表処 中国総代表
50	理事	李 永梅	日本生命	北京代表処 首席代表
51	理事	福本 智之	日本銀行	北京事務所 首席代表
52	理事	宋 曉晨	みずほ証券	北京代表処 首席代表
53	理事	今川 真一郎	三井住友銀行(中国)	北京支店 支店長
54	理事	陳 志成	三菱UFJ信託銀行	北京代表処 首席代表
55	理事	須藤 信也	日通国際物流(中国)	董事社長
56	理事	山口 栄一	日本航空	執行役員 中国総代表 北京支店長
57	理事	永井 圭造	日本郵船	経営委員 中国総代表
58	理事	三枝 富博	イトーヨーカ堂	執行役員 中国室長
59	理事	山崎 道徳	JTB CHINA	執行役員 中国総代表
60	理事	飯島 茂	全日空国際旅行社	総経理
61	理事	宮本 賢治	長富宮中心	総支配人
62	理事	小宮 源太郎	電通	執行役員 中国総代表
63	理事	川畑 保	北京発展大廈	董事 総経理
64	理事	田淵 真次	日中経済貿易センター	専務理事 北京事務所所長
65	理事	中下 裕三	日本国際貿易促進協会	北京事務所 中国総代表
66	理事	石舘 周三	資生堂(中国)研究開発中心	董事 総経理
67	理事	勝又 賢一	北京日立華勝情報系統	総経理
68	理事	水谷 彰伸	三井住友海上火災保険(中国)	北京分公司 総経理
69	理事	大澤 久	三井不動産諮詢(北京)	董事 総経理
70	理事	片平 猛	電源開発	常務執行役員・中国総代表
71	理事	熊澤 一	ブラザー(中国)商業	副総経理 知識産権部長
72	理事	三谷 達巳	北京キューピー食品	総経理
73	監事	原井 武志	監査法人トーマツ	パートナー
74	監事	菊池 洋	国際協力銀行	首席代表

2012年度社会貢献委員会委員名簿

	氏 名 (会社名・役職)
社会貢献委員長	鹿間 千尋 (丸紅 常務執行役員 中国総代表)
委員	小関 秀一 (伊藤忠 常務執行役員 東アジア総代表)
委員	杉浦 康誉 (アサヒグループホールディングス 執行役員 中国代表部 北京代表)
委員	木戸脇 雅生 (NEC(中国) 執行役員 中国総代表)
委員	小澤 秀樹 (キヤノン 常務取締役 中国総裁)
委員	白須 達朗 (新日鐵住金 執行役員 中国総代表 北京事務所長)
委員	幸 伸彦 (住友商事 常務執行役員 中国総代表)
委員	稲田 健也 (全日本空輸 上席執行役員 中国総代表 北京・天津支店長)
委員	佐々木 昭 (トヨタ自動車(中国)投資 董事長)
委員	田村 暁彦 (日中経済協会 北京事務所長)
委員	酒匂 崇示 (日本貿易振興機構 北京代表処 所長)
委員	北山 隆一 (日立 執行役常務 中国総代表)
委員	宮口 丈人 (みずほコーポレート銀行(中国) 董事長)
委員	瀬戸山 貴則 (三井物産 専務執行役員 中国総代表)
委員	矢野 雅英 (三菱商事 副社長執行役員 東アジア統括)
委員	久木田 崇彰 (三菱電機 中国総代表)
委員	柳岡 広和 (三菱東京UFJ銀行(中国) 董事長)
委員	山口 栄一 (日本航空 執行役員 中国総代表 北京支店長)
委員	高羽 人志 (JTB 北京事務所 事務所長)

2012年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿

会社名	氏名	役職
【社会貢献委員長】	鹿間 千尋	丸紅 常務執行役員 中国総代表
【WG座長】	田村 暁彦	日中経済協会 所長
アサヒビール(株)	飯塚 喜美子	行政局主任
伊藤忠(中国)集团有限公司	石津 顕太郎	中国人事・総務部
キヤノン(中国)有限公司	柴丸 茂	Vice President
新日本製鐵(株) 北京事務所	長南 隆	代表
(株)JTБ 北京事務所	高羽 人志	事務所長
住友商事(中国)有限公司	畑田 好朗	中国総代表付
	米 健	総代表付
全日本空輸(株) 北京弁事処	柏木 寿州	銷售部 經理
東芝(中国)有限公司	東口 雄一郎	総裁室 室長
トヨタ自動車(中国)投資有限公司	栗田 弘毅	渉外部主査
(財)日中経済協会	高見澤 学	所長代理
日本航空インターナショナル	上り浜 健一	北京支店銷售部総經理
日本貿易振興機構 北京センター	島田 英樹	進出企業支援センター センター長
日立(中国)有限公司	稲見 浩	副総經理
丸紅(株) 北京事務所	稲積 和典	総代表助理
三井物産(株) 北京事務所	菊池 健太郎	中国総代表室 室長助理
三菱商事(中国)商業有限公司	李 征	企画發展部 經理
三菱電機(中国)有限公司	原 正英	副総經理
三菱東京UFJ銀行(中国) 北京支店	室賀 隆	副支店長
みずほコーポレート銀行(中国) 北京支店	西村 浩二	総務課 課長
【オブザーバー】	柳澤 好治	日本大使館 広報文化センター 一等書記官
【オブザーバー】	平嶋 隆幸	日本大使館 經濟部 三等書記官
【訪日中のアテンド等】	渡辺 光男	日中経済協会 (東京) 総務部参与

第11回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表团報告書 団長挨拶

第11回「走近日企・感受日本」中国大学生代表团一行40名は、中国日本商会のお招きを受け、11月25日から12月6日にかけて東京、京都、大阪、神戸、名古屋、横浜等の地を訪問いたしました。日中経済協会及び各関連企業や大学のお力添えを頂き、私達は充実した楽しい12日間を過ごすことが出来ました。ここに心より感謝申し上げます。

日本での滞在期間中、私達はパナソニック、トヨタ、丸紅、日揮、住友化学、三井住友銀行、キューピー等の有名企業や人と防災未来センター、ジブリ美術館、更には中華人民共和国駐日本国大使館を訪れ、同志社大学、慶應義塾大学の学生教員と交流を図り、また茶道、温泉等の日本の伝統文化を体験いたしました。学生達はまた、週末の時間を利用し日本の一般家庭にホームステイをし、日本人の生活を身近に体験いたしました。

訪問を通し、学生達は見識を増やし、視野を広げ、日本の経済や社会の発展状況について理解を深めただけではなく、お互いの友好も深めました。彼らは今回の訪日を通して見て聞いて感じたことを心を込めて綴っています。皆様はこの報告書の中から、中国人学生の日本の皆様への思いを感じ取ることが出来ると思います。

日中両国は互いに隣同士で、アジア地区と世界において重要な影響をもつ国であり、日中関係の健全で安定的な発展は、両国と両国国民の基本利益に直結いたします。日中双方が大々的に末端と草の根の民間交流を展開し、両国国民の相互理解と友好を深めていくことは、両国国民が今後も友好を続ける上での大事な基礎になります。中日友好協会は日本の各友好団体と共に、民間の友好の力を発揮し、民が官を後押しし、日中関係が正しい軌道に乗り安定的に発展するよう努力を続けて参ります。

最後に、この度の代表団の訪日に際し多大なご協力を頂いた中国日本商会、日中経済協会及び日中両国各界の支持者に、再度心より御礼申し上げます。

第11回中国大学生訪日代表团 団長 程海波

主催、共催団体の概要

中国日本商会

在北京企業の円滑な事業活動を支援するとともに、日中間の経済交流の活発化を通じて、日中友好を促進することを目的として、1980年10月に設立された北京日本商工クラブを前身とする。中華人民共和国国務院令第36号「外国商会管理暫行規定」に基づき認可された外国人商工会議所の第1号として、1991年4月22日に設立された。

会員数は、2012年12月末日現在、市内法人会員642社、市外法人会員54社、個人会員26名、賛助会員8名の合計730社(名)を擁している。

中国日本友好協会

1963年に中華全国総工会、中国人民外交学会など19の民間団体によって発起設立された、中国における最も代表的な対日民間友好組織である。創立以来、周恩来総理の提唱の下で積極的に対日友好交流活動を展開し、1972年の中日国交正常化と1978年の中日平和友好条約の締結においては大きな貢献を果たした。政治、経済、文化、スポーツなどの各分野で対日友好交流事業を強力に展開し、健全で安定的な両国関係の推進に重要な役割を果たしている。

中国友好和平発展基金会

中国人民対外友好協会の下部組織として、1996年に設立された。各国との友好増進、国際協力の推進、世界平和、共同发展を主旨とし、世界平和と人類の進歩に貢献するため、中国と海外各国との友好事業を始め、文化、教育、医療衛生、環境保護、スポーツ、経済、貧困支援などの数多くの分野で社会的公益活動を行っている。

一般財団法人日中経済協会

経済産業省を始めとする日本政府及び日本経済団体連合会他経済界の支援の下に、日本と中国との経済交流促進のため、1972年に設立された。

第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団団員名簿

	姓 名	性別	所 属		専 攻
団 長	程海波	男	中国日本友好協会	理事 友好交流部長	
団 員	鄧思圓	女	北京大学		数学
団 員	王娜	女	北京大学	都市・環境学院	都市計画
団 員	張岩	男	北京大学	地球・空間科学学院	地球化学
団 員	于曉雯	女	北京大学	環境科学・工程学院	環境管理
団 員	倪楊	男	北京大学	外国語学院	アラビア語
団 員	李溪月	女	北京大学	外国語学院	フランス語
団 員	白琨	女	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	林秋文	男	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	朱曼青	女	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	文勝男	女	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	高文	男	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	喬天源	女	北京師範大学	外国語文学学院	日本語
団 員	蘇杭	女	北京理工大学	機械・車両学院	熱エネ・動力工程
団 員	李雪松	男	北京理工大学	基礎教育学院	機械工程
団 員	劉芾洋	男	北京理工大学	情報・電子学院	電子科学・技術
団 員	孔垂燁	女	北京理工大学	基礎教育学院	電子科学・技術
団 員	賈鳴	女	北京理工大学	自動化学院	自動化国際教育
団 員	陳孫傑	男	北京理工大学	自動化学院	自動化
団 員	白智群	男	北京化工大学	理学院	実用化学
団 員	廖冬芳	女	北京化工大学	理学院	実用化学
団 員	胡齊峰	男	北京化工大学	情報学院	自動化
団 員	陳露	女	北京化工大学	機電工程学院	安全工程
団 員	黃改	女	北京化工大学	機電工程学院	プロセス設備・制御工程
団 員	陶羽	男	北京化工大学	情報科学・技術学院	コンピューター科学・技術
団 員	朝娃	女	中央民族大学	情報工程学院	通信工程
団 員	申東美	女	中央民族大学	朝鮮語文学系	朝鮮語文学
団 員	伊敏夫	男	中央民族大学	蒙古語文学系	中国少数民族語文学
団 員	路輝	男	中央民族大学	外国語学院	日本語文化
団 員	劉詩堯	男	中央民族大学	生命・環境科学学院	製薬工程
団 員	郭磊	男	中央民族大学	生命・環境科学学院	生態学
団 員	馬瀟華	女	外交学院	外語系	日本語
団 員	謝雪暉	男	外交学院	外語系	日本語、国際貿易
団 員	韓旭	男	外交学院	外語系	日本語
団 員	王希晨	男	外交学院	外語系	日本語
団 員	唐思南	女	外交学院	外語系	日本語
団員(事務局)	王磊	男	中国日本友好協会	都市・経済交流部幹部	
団員(事務局)	劉夢妍	女	中国日本友好協会	都市・経済交流部幹部	
団員(引率教員)	陳虎	男	北京大学	教務部総合ネットワーク室副主任	
団員(引率教員)	林涛	女	北京師範大学	日本語教師	

第11回訪日団 ホームステイ受け入れリスト

学 生				受け入れ家庭	
所属大学	姓 名	性別	言語	所属企業	姓 名
北京大学	鄧思圓	女	英	伊藤忠商事	稲穂みき
北京大学	王娜	女	英	三菱商事	谷田詔一
北京大学	張岩	男	中	トヨタ自動車	田中英穂
北京大学	于曉雯	女	英	JTB	小阪美香
北京大学	倪楊	男	英	三井物産	高橋進
北京大学	李溪月	女	英	伊藤忠商事	矢野洋平
北京師範大学	白琨	女	日	新日鐵住金	播島啓史
北京師範大学	林秋文	男	日	丸紅	吉永利幸
北京師範大学	朱曼青	女	日	丸紅	重山直美
北京師範大学	文勝男	女	日	キヤノン	中村正陽
北京師範大学	高文	男	日	キヤノン	来見田恒昭
北京師範大学	喬天源	女	日	新日鐵住金	津山佳代
北京理工大学	蘇杭	女	英	丸紅	小船井俊之
北京理工大学	李雪松	男	英	住友商事	平林竜介
北京理工大学	劉芾洋	男	英	キヤノン	野口薫
北京理工大学	孔垂燁	女	英	伊藤忠商事	梅山和彦
北京理工大学	賈鳴	女	英	キヤノン	松田晴明
北京理工大学	陳孫傑	男	英	三菱東京UFJ銀行	西條陽一郎
北京化工大学	白智群	男	中	伊藤忠商事	海老名裕
北京化工大学	廖冬芳	女	日	日立製作所	劉珊珊
北京化工大学	胡斉峰	男	英	三井物産	林敬子
北京化工大学	陳露	女	英	新日鐵住金	池田禎尚
北京化工大学	黄改	女	英	新日鐵住金	藤森剛
北京化工大学	陶羽	男	日	みずほコーポレート銀行	沢松知慧
中央民族大学	朝娃	女	英	旭化成	山本善徳
中央民族大学	申東美	女	日	日本航空	相原光
中央民族大学	伊敏夫	男	英	キヤノン	廣木直嗣
中央民族大学	路輝	男	日	旭化成	堀田真也
中央民族大学	劉詩堯	男	英	キヤノン	井上匡
中央民族大学	郭磊	男	英	キヤノン	東家良行
外交学院	馬瀟華	女	日	みずほコーポレート銀行	岡豊樹
外交学院	謝雪暉	男	日	キヤノン	野村修
外交学院	韓旭	男	日	JTB	前田周作
外交学院	王希晨	男	日	アルプス電気	和久田広志
外交学院	唐思南	女	日	住友商事	中部香世

第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程

日次	日 付	日 程	宿 泊
1	11/25 (日)	午前 国際線(JL860便)にて成田空港へ(08:25発-12:50着) 国内線(JL127便)で伊丹空港へ(羽田16:30発-17:40着)＜成田-羽田バス利用＞ 到着後、バスにて大阪市内へ	(大阪市内) ホテルニューオー タニ大阪
2	11/26 (月)	08:00 ホテル発 09:30～12:00 ●企業訪問①(関西・兵庫地区) <u>パナソニックエレクトロニクスセンター</u> (昼食:京都に移動の途中)(パナソニック～京都 約1時間30分) 午後 ★ソフト文化等視察② <u>京都市内見学</u> (清水寺、日本文化体験、高台寺茶道体験等)	(大阪市内) ホテルニューオー タニ大阪
3	11/27 (火)	09:00-09:30 ★ソフト文化等視察① <u>神戸(港)震災メモリアルパーク</u> 09:45-11:45 <u>震災関連施設(人と防災未来センター)</u> 昼食:バス車中弁当(神戸→京都 約1時間30分) 13:30-18:30 ■大学交流① <u>同志社大学</u> 19:56-20:33 <u>ひかり482号 京都→名古屋</u> (新幹線利用) 21:00頃 名古屋着	(名古屋市内) 名古屋東急ホテル
4	11/28 (水)	08:00 ホテル発 09:30-13:00 ●企業訪問②(中部・愛知地区) <u>トヨタ自動車(堤工場、トヨタ会館)</u> (昼食:トヨタ自動車) 15:00-17:06 <u>こだま662号 名古屋→小田原</u> (新幹線利用) 午後 ★ソフト文化等視察③ <u>箱根温泉(日本旅館、温泉文化体験)</u>	(箱根湯本温泉) 天成園
5	11/29 (木)	東京へ移動 10:00-13:00 ●企業訪問③(関東地区) <u>日揮</u> (昼食:日揮) 15:50-19:30 ●企業訪問④(関東地区) <u>丸紅</u> (夕食:丸紅で懇親会)	(東京都内) ホテルニューオー タニ
6	11/30 (金)	10:00-12:30 ●企業訪問⑤(関東地区) <u>三井住友銀行</u> (昼食: <u>三井住友銀行</u>) 14:00-16:00 ★ソフト文化等視察④ <u>三鷹の森ジブリ美術館</u> 都内見学 秋葉原他	(東京都内) ホテルニューオー タニ
7	12/1 (土)	終日 ホームステイ	ホームステイ
8	12/2 (日)	夕方までホームステイ 夕方 ホテル集合、東京自由行動 (お台場)	(東京都内) ホテルニューオー タニ
9	12/3 (月)	09:30-11:30 ●東京都中央区清掃工場 12:00-14:00 ★ソフト文化等視察⑤(昼食 日比谷松本楼) <u>日比谷松本楼講話(孫文と梅屋庄吉の交流)</u> 14:30-16:00 ●中国大使館訪問 16:00 都内見学 東京タワー等	(東京都内) ホテルニューオー タニ

日次	日 付	日 程	宿 泊
10	12/4 (火)	08:00 ホテル発 09:30-13:00 ● <u>企業訪問⑥ キューピー（野菜工場含む）</u> (昼食: <u>キューピー</u>) 15:00-19:00 ■ <u>大学交流② 慶応義塾大学</u>	(東京都内) ホテルニューオー タニ
11	12/5 (水)	08:00 ホテル発 09:30-11:30 ● <u>企業訪問⑦（関東地区） 住友化学千葉工場</u> 12:30-13:30 <u>（住友化学昼食：ヒルトン東京ベイ）</u> 午後 ディズニーランド見学	(東京都内) ホテルニューオー タニ
12	12/6 (木)	09:30-11:00 <u>ホテルニューオータニエコセンター</u> 12:00-13:30 <u>歓送パーティー</u> 午後 バス利用で成田空港へ移動 18:10 成田国際空港発(JL869便) 21:20 北京首都国際空港着 到着後解散	(東京都内) ホテルニューオー タニ

第11回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト

1. パナソニックエコテクノロジーセンター株式会社本社（11月26日）

池本 義寛	企画・管理部長
土田 孝江	見学担当
田坂 篤子	〃
澁谷 俊彦	松下電器(中国)有限公司 公共関係部 部長

2. 人と防災未来センター（11月27日）

蔡 勝昌	ボランティア解説員(中国語)
岩田 秀梅	〃

3. 同志社大学 今出川キャンパス（11月27日）

八田 英二	同志社大学 学長
矢田 直人	〃 学長秘書
八木 匡	〃 経済学部教授
横井 和彦	〃 経済学部准教授
西岡 徹	〃 国際連携推進機構 事務部長
中嶋 政仁	〃 〃 国際センター 国際課 国際係 係長
高木 佑一	〃 〃 〃 〃 〃
趙 理恵	〃 〃 〃 〃 〃
村上 由美子	〃 〃 〃 〃 〃
斎藤 健一	三井化学(株) 中国総代表補佐
張 潤北	〃 〃
吉田 浄	日本科学技術振興財団 専務理事 事務局長
竹本 英世	(株)日立製作所 電力システム社経営戦略統括本部 戦略企画本部担当本部長
太田 昇	京都府 副知事
八木 寿史	京都府国際課 副主査
逢 軍	京都府名誉友好大使

他に約40名の同志社大学の学生が交流会に出席。

4. トヨタ自動車株式会社堤工場/トヨタ会館（11月28日）

早川 茂	専務役員
安里 圭介	中国部総括室 グループマネージャー
福田 麗子	中国部総括室
田中 均	社会貢献推進部 部長
中山 直人	社会貢献推進部 企業PR室 室長
岩月 麻由美	〃 〃

小松 順子	〃	〃
石黒 千尋	〃	〃
今井 貴之	〃	海外グループ グループマネージャー
小川 桃子	〃	〃
矢崎 靖子	〃	〃

5. 日揮株式会社本社（11月29日）

伊勢谷 泰正	取締役事業推進プロジェクト本部長
荒谷 秀明	事業推進プロジェクト本部
笹原 勉	営業統括本部 中国事業開発室
西山 博	経営統括本部
中山 託麻	〃
中島 慧	〃
村田 祐人	国際プロジェクト統括本部
糟谷 圭一	〃
筒井 琢也	〃
児玉 晋	〃
垣本 勇希	〃
山崎 裕美子	〃
柴田 信孝	〃
近藤 亮太	エンジニアリング本部
坂田 武昭	〃
藤崎 翔	〃
前嶋 達也	〃
大脇 哲平	〃
浅沼 琢也	〃
西田 淳一	〃
坂本 惇	〃
戸田 邦彦	〃
高橋 良太	〃
USMAN BRIANTO	〃
橋本 諭	〃
西之宮 賢	〃
渡部 一良	〃
垂見 光	事業推進プロジェクト本部
茂木 智仁	〃
居林 昌宏	〃
白川 英司	営業統括本部

加嶋 良輔	〃
伊藤 彰敏	テクノロジーイノベーションセンター
廣瀬 雄	産業・国内プロジェクト本部
片山 皓介	〃
井上 隆史	〃
岩田 祐子	〃
喜多 富士雄	経営統括本部
高市 芳郎	〃
王 燦	〃
李 美穂	〃
田中 洋佑	国際プロジェクト統括本部
太田 旭	〃
全 貴蓮	エンジニアリング本部
宋 燕	〃
福岡 輝	〃
胡 希東	〃

6. 丸紅株式会社本社（11月29日）

岡田大介	取締役常務執行役員
渡辺昭彦	市場業務部長
松園 大	市場業務部中国チーム チーム長
成 玉麟	市場業務部中国チーム
栗間 涼	市場業務部中国チーム
李 雪連	丸紅経済研究所 産業調査チーム
（懇親会出席者）	
ルイ菽	化学品部門無機・農業化学品部 農業化学品課
趙 文黙	金融・物流・情報部門 アイ・シグマ・キャピタル(株)出向中
丁 倍和	法務4課 中国法弁護士
崔 浩波	法務4課 中国法弁護士
陳 婷微	金属部門 石炭部 一般炭課
呉 婷	食品部門 飲料原料部 飲料原料第一課
韓 靈	開発建設事業部 海外不動産開発室
陸 艶	営業経理部 食糧経理課 兼務 食料総括部
小船井 俊之	ICTサービスビジネス部 中国事業開発チーム チーム長
吉永 利幸	総務部 総務課
重山 直美	機能アパレル部 機能アパレル課

7. 株式会社三井住友銀行本店（11月30日）

伊藤 貴夫	グローバル・アドバイザリー部	部長
楊 永健	〃	
川端 良彦	国際統括部	部長
油井 宏一郎	〃	グループ長
富田 太郎	〃	部長代理
中嶋 一雄	〃	部長代理補
鷹取 真一	〃	
廷々 郁子	〃	
柳 欣伶	〃	

8. 東京都中央区清掃工場（12月3日）

久保 顕一	中央清掃工場	技術係	主事
廣瀬 圭一	〃	〃	〃

9. 日比谷松本楼（12月3日）

吉田 俊秀	専務取締役
小坂 文乃	常務取締役企画室長（梅屋庄吉曾孫）

10. 中国大使館（12月3日）

韓 志強	公使	
孫 永剛	一等書記官	
裴 貴春	三等書記官	公使秘書
楊 建興	三等書記官	文化担当
呂 新鋒	友好交流部	三等書記官

11. キューピー株式会社五霞工場（12月4日）

楠本 正	執行役員	五霞工場長			
荒西 明	五霞工場	次長			
田渕 弘	海外本部	中国事業推進部	部長		
橋本 浩	海外本部	新規事業開発部	新規事業開発課	中国担当	課長
佐藤 滋	技術研究所	野菜加工プロセス研究部	野菜栽培研究センター	センター長	

12. 慶應義塾大学（12月4日）

友岡 賛	商学部教授・国際センター	所長
駒形 哲哉	経済学部教授	
鶴尾 寧	国際連携推進室	課長
渡辺 仁	広報室	

棚橋 君恵 広報室
徐 一睿 経済学部講師

交流会には駒形研究室の学生および留学生約30名が参加。

13. 住友化学株式会社千葉工場（12月5日）

北浦 保彦	理事	千葉工場長		
土井 史春	千葉工場	総務部	総務チーム	チームリーダー
平岡 昭彦	CSR推進室	部長		
鈴木 美音	〃	部長補佐		
鄭 超	〃			
陳 鏐霏	住友化学投資(中国)有限公司			
平野 貴誉子	千葉ゼネラルサービス㈱			
鳥海 俊美	〃			

14. ホテルニューオータニ（12月6日）

山本 正巳	ファシリティマネージメント部	ファシリティマネージメント課	マネージャー
三浦 光昌	ファシリティマネージメント部	ファシリティマネージメント課	係長
長嶋 慶一	宿泊営業部	グローバルマーケティング&セールス課	シニアセールスマネージャー

「感謝報恩の精神」——感謝の中に財宝を見つけるPanasonic

北京大学学生代表

見学日時：2012年11月26日（月）09:30－12:00

見学場所：パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社 本社工場（兵庫県加東市）

見学概要

兵庫県加東市のパナソニック エコテクノロジーセンター（略称PETEC）はパナソニック独自資本による家電リサイクル工場である。2001年4月の設立以来10年間で800万台を超す使用済み家電を扱い、鉄、銅、アルミニウムを約15万トン回収してきた。循環型生産を推進するために、PETECは使用済み家電から回収した資源を再利用し、新商品として生まれ変わらせている。「商品から商品へ」という目標を実現し、回収過程においても環境汚染を起こさずゼロ排出を実現している。今回の見学ではPETECの概要説明、紹介DVDの視聴、現場の見学とリサイクル処理過程の紹介、そして質疑応答があった。



最初にセンター長から概要の説明を受けた。以前は廃棄家電の量が非常に多く処理も困難で、その処理も各地方が行っていたそうである。しかしその処理能力には限界があり、資源は無駄にされ使用済み家電に含まれる有害ガスなども適切に処理されず大気汚染を招いていた。後に日本の「家電リサイクル法」によりパナソニックは処理と回収を行う会社PETECを設立し、主にブラウン管テレビ、洗濯機、冷蔵庫やエアコンなどの使用済み家電のリサイクルを行っている。ここ数年はそこに薄型テレビと乾燥機も加わった。PETECの主な特長は以下の4点。1.パナソニック100%出資のもと設立された。2.センター内に自社の研究開発部門がある。3.社会教育などの機能を備えている（現在までの訪問見学者数122072人）。4.近隣との関係が良好であり、環境保全などについて話し合いの場が数多く設けられ、地域との共生、発展を非常に重視している。



続いてパナソニックの環境保護理念とPETECの基本情報についてのDVDを見た。創始者である松下幸之助氏が提唱した「感謝報恩の精神」を基に、パナソニックは「トレジャーハンティング」つまり宝探しの心で「地球環境との共存」を目指しPETECを設立した。PETECでは使用済み家電をリサイクル処理した後新商品に生まれ変わらせるという道を選択し、様々な先進技術を開発してリサイクル資源の分類と合理的な処理を進めてきたのである。

次に解説担当の方が私達学生を2組に分け、エアコン、冷蔵庫、ブラウン管テレビ、洗濯機の各回収ラインで詳しくその工程を説明して下さった。

見学後は会議室に戻り質疑応答の時間になった。ある学生が、非常に危険な物質であるフロン（フロン）の具体的な回収方法を質問した。技術スタッフの方は「冷蔵庫の圧縮機内にあるフロンは特別な吸引機を使って取り出し、専用の容器に密封する。しかし断熱層の中にあるフロンは先に粉碎、加熱して蒸気にし、そこからフロンを分離、取り出して圧縮し専用の容器に密封する。こうして回収されたフロンは全て専門の処理工場で無害化されている」との回答があった。

続いて同じ大学の于曉雯さんがPETECのコストと収益について質問をした。「日本のリサイクル法では消費者が負担する費用（例：ブラウン管テレビ2835円、冷蔵庫4839円等）が定められており、回収、運送、処理等の各工程に配分

されている。コストとしては設備投資、維持管理や人件費、そして処理できない資源の委託処理費用が挙げられ、リサイクル資源の売上と消費者からの処理費用の一部が収益となっている。パナソニックのグループ他社に比べると利益は少ないが赤字にはなっていない」との回答があった。また別の学生からは使用済み家電のリサイクル率をさらに上昇させられないかとの質問があった。それについては「技術発展に伴いリサイクル率はこれまで上昇を続けてきており、回収した金属やプラスチックの純度を上げることで消費者が負担する処理費用を少なくし、またより多くの消費者が家電リサイクルという流れに加わることになる」との回答があった。



最後に日本ではどれだけの消費者がお金を払って家電リサイクルするのかについて、日本人の約60%が実際にそのように(処理費用を支払いリサイクル券を受け取る)しており、残りの40%は自己処理を選択(おそらく収集された使用済み家電はまとめて海外に送られている)しているということが分かった。

見学の最後には程団長から「訪日スケジュール初日にPETEC訪問を選んだ意義は非常に大きい。パナソニックと中国の友好関係は長く、共に発展を続けてきた。創始者である松下幸之助さんは二度訪中され、いずれも中日友好協会が関わっている。中国にはパナソニックのグループ企業が109社あり、来月には杭州でPETECと同じような家電リサイクル工場を開設予定である。学生の専攻は皆異なるが、今回の見学で得たものは非常に大きかったのではないか」との総括があった。

知っていますか？

1. PETECでは1年に70万台の各種家電リサイクル処理が可能である。
2. 天然資源と再生資源では環境に与える影響が大きく異なる。例えば再生鉄の使用は天然鉄と比較して二酸化炭素排出を80%減らすことができる。
3. 使用済み家電に含まれる再利用可能な素材は全てPETECの関連技術により分離される。鉄は強い磁力で取り出され、その後渦電流選別機でその他の金属とプラスチックに分けられる。その金属に振動を与えその比重の違いから銅とアルミに分離される。プラスチックは高精度樹脂識別システムという近赤外線を原理としたシステムで分類される(PP、PS、ABS等各プラスチックが反射する波長が異なる)。そして直径2.5mmの穴256カ所から風を当てて異なるプラスチックを分類する。
4. PETECには多くの見学専用ラインがあり、随所にモニターが備え付けられている。管理者が工程を確認できるだけでなく、見学者にとっても非常にわかりやすい。
5. 日本は世界で最も優れた耐震技術を有しているだろう。モニター画面では巨大な機械が使用済み家電を粉砕していたが、その粉砕室のすぐ外にいる私たちは少しの振動も感じることはなかった。

感想

パナソニックは中国では誰もが知っているブランドで、その家電製品は中国人家庭の優先購入対象である。その巨大企業の背後にはどのような知られざる経営理念があるのだろうか？ 私たちはそんな疑問を抱いてブルーに彩られたPETECに足を踏み入れた。私たちはそこでヒューマニズム、イノベーションの精神と驚くべき細部へのこだわりや仕事に対するプライドとともに、一番重要とも言える企業の社会的責任を深く感じ取ることができた。

現代的な建物の2階はスタッフのミーティングエリアになっていた。広告やブランドロゴの類は一切なく、緑色のパネルに仕切られた空間ではスタッフが自由に意見やアイデアを通わせることができる。大企業の重点プロジェクトの内部空間がこのような形になっていることは、いかにヒューマニズムに重きを置いているかが現れていると感じられた。

そして私たち多くの学生が感動したのが細部へのこだわりだった。エアコンの前面に取り付けられた取り外し可能なファン、見学者のための表示や説明のパネルなど、それぞれを挙げたらきりがない。今回のPETEC見学は私たちに、見学コースの各ポイントで目にした「トレジャーハンティング」の青い文字と共に、感謝の力、母なる地球への感謝、家族や恩師、友人への感謝、そして希望に満ちた未来への期待を私たちに強く思い起こさせるものになったのである。

人類の災害予防の生きた教室——人と防災未来センター

北京理工大学学生代表

見学日時：2012年11月27日（火） 09:45－11:45

見学場所：神戸 人と防災未来センター



見学概要

見学前に私達は1995年1月17日、マグニチュード7.3の大地震が兵庫県南部を襲い、わずか10秒で都市が灰と化したことを知った。6435名がこの世を去り、44000人近くが負傷、約65万棟の建物が破損し、経済損失は10兆円に上ったとのことである。この未曾有の災害を記念するため、2002年、日本政府と兵庫県は60億円をかけ、神戸市中央区にこの「人と防災未来センター」を建設したのである。中国でも2008年、マグニチュード8.0の汶川大地震が起きていることもあり、私達も「人と防災未来センター」に大いに注目していた。

11月27日、私達は神戸震災復興記念公園の参観後、午前10時に「人と防災未来センター」に到着した。まず目に入ってきたのは、モダンな二棟の建物で、一棟は「ひと未来館」、もう一棟は「防災未来館」である。私達はまず西館に入り、阪神・淡路大震災に関するドキュメンタリーを見た。ドキュメンタリーでは、阪神・淡路大震災の発生からその後の再建に至るまでの過程が詳細に紹介されており、大地震に対しリアルな認識を得ることができ、また映像は中国語の吹き替えで、地震の状況を全体的に理解することができた。

その後、西館四階にある「1.17シアター」を訪れた。シアターではCGにより大地震発生の瞬間を再現しており、室内の大型画面と音響により大地震の恐ろしさを臨場感と共に体験することができた。ビルが一瞬で倒れ、高架橋が真つ二つに折れ、バスの先頭部分が宙吊り状態となり、炎が燃え盛る中を消防員が現場救助に走り回る情景など、参観者はまるで自分が災害現場にいるかのような体験をしたのである。シアターの出口には実物大の立体模型があり、地震後の都市で建物が倒れ、あちこちで火災が発生した情景が再現されていた。その後の「大震災ホール」ではさらに、姉を亡くした少女の手記をベースにした町が復興する様子を描いたドキュメンタリーを鑑賞した。

その後、華僑のボランティアお2人に導かれ、「防災未来館」を訪れた。ここでは地震発生及び復興・再建の過程で起きたさまざまな出来事について、模型と写真により知ることができた。人と防災未来センターでは地震の悲惨さを強調するのではなく、防災と災害からの復興の方法の紹介に重点を置いている、というのが私の全体的な印象である。

ボランティア解説員の方は、地震時の注意事項について、私達に丁寧に説明して下さいと共に、阪神・淡路大震災後の再建を通して得た経験と問題点についても解説して下さい。その解説はとても詳細で、「災害を避けることはできないが、対応することはできる」という考え方、災害に対し悲嘆に暮れるだけではなく、災害の中から学ばなければならないことを理解したのである。

その後、ボランティア解説員の方から地震発生の原理と対応措置について、丁寧な説明をいただくと共に、色々な

小実験を通して、日本がこれまでの地震体験の中から得た貴重な経験を教えていただき、非常にためになった。

時間の関係により、私たちは11時半にセンターの門の前で記念撮影を行った後、センターを後にしたが、今回の訪問により得られた収穫は、団員一人一人の心に深く刻まれたのである。



知っていますか？

Q:神戸「人と防災未来センター」の参観時、最も多く見かけたのは、どういう人たちでしたか？

A:参観時に最も多く見かけたのは、ご年配の方々である。センターを出る時には、制服を着た学生の団体がセンターを訪れているも見かけた。

Q:緊急事態に対応するための3つの手順と、揃えるべきグッズの4つの心がけを知っていますか？

A:緊急事態に対応するための三つの手順:0次準備—いつも携帯、1次準備—緊急持ち出し品、2次準備—ストック。防災グッズの4つの心がけ:年に2回チェック。その使用方法及び日用品との共通性を覚え、把握する。「自助」を基礎に対応方法と知識を身につけ、同時に「共助」にも備える。

Q:阪神・淡路大震災からの復興後、人々の生活にはどのような変化がありましたか？

A:住宅がよくなり、道路が広くなったが、人と人とのつながりが以前と比べて希薄になった。そのような変化がよいことなのか、悪いことなのかと人々は考えている。

Q:地震後の仮設住宅では、どのような深刻な問題が起きましたか？

A:老人と助けを必要とする人のために集中的に住宅を手配したが、必要な助けそのものに眼を向けず、それまで親しかった隣人や親族もそばにいないために、生活に多くの支障をきたした。したがってこの点は、その後一貫して気をつけている問題である。

感想

地震——、それは恐ろしい言葉である。蓄積された力が瞬間的に大地を震動させ、一瞬のうちに数千万の人々の命を呑みこんでしまう。そのような災害の前では、「天地をさまよい、大海の一滴となり漂う」がごとき感覚に陥らざるを得ない。それでも生命は、あくまでも力強く、屈服することなく、頭を下げることなく、災害に落ち着いて対応しており、或いはこれこそが、人と防災未来センターの核心的なテーマなのかも知れない。

日本の歴代の大地震のもたらした損失について知り、私達は逝き去った霊魂に対し哀悼の意を捧げると同時に、より人類社会の発展過程における取りこぼしと不足について考えさせられた。盲目的な都市開発、ひたすら経済成長のみを追い、自然災害への対応をまったく意識せず準備もしないことこそが、地震により莫大な損失がもたらされた主な原因であるといえる。

私達の作る社会は、脆弱な、何ら防災能力のない社会であってはならない！環境にやさしい、自然災害の影響を最小限に食い止めることのできる社会でなければならないのである。痛みの中から教訓を汲み取り、涙の中から愛おしむことを知り、その中から学んだことを本当の意味で技術に転換し、実際の社会づくりの中に活かし、地震などによりもたらされる損失を軽減しなければならない。またもう一つの面からいえば、防災教育を普及させ、防災訓練を強化することにより、一人一人が災害を前にして秩序ある対応ができるようにすることも、私達がやるべきことであるといえる。

同志社大学

北京師範大学学生代表

見学日時：2012年11月27日（火） 13:00-18:30

見学場所：同志社大学



見学概要

午前中に神戸市の震災記念館を見学した後、同志社大学を訪問した。

同志社大学は日本の四大私学「早慶同立」のひとつで、近代日本の著名な思想家、教育者の新島襄が創立し、明治維新の時期には既に、日本の高等教育の普及に大きく貢献していた。大学はその教育において、学生が固定観念にとらわれることなく、自由闊達な創造の精神を大胆に発揮することを重視し、青年たちが学びの中から、長い人生を視野に入れ、独自の思考能力を身に付けることを奨励している。高く評価される日本の教育機関の1つとして、各界に多くの優秀な人材を輩出してきた。卒業生の専門知識及び素養は、日本文部科学省及び企業、さらには各界から定評がある。

前日に渡辺先生から同志社大学との交流活動に関する通知を受けた。4つのテーマをめぐって討論会を行うため、同志社大学の学生と私たち訪日団が議題を2つずつ選んだ。同志社大学の学生が選んだ2つの議題は「中日両国の国際社会における役割」と「中日文化の相違点」だった。微妙な時期でもあり、これらの議題を見て討論が行き詰まるのではないかと心配した。このため雰囲気のを和ませるよう、私達訪日団は「中日の若者の間で流行していること。その理由は」、「中日両国の保護者は子供の学生時代の恋愛をどう見ているか」といった比較的リラックスできる議題を2つ選んだ。

緊張感と好奇心が入り混じる中、同志社大学の学生との交流の旅が始まった。司会者が同志社大学について簡単な紹介を行った後、主催者側が中日両方の学生を混ぜて7つのグループを作った。また、スムーズに交流できるよう

に、7つのグループを各自の得意な言語に合わせて、日本語チームと英語チームに分けた。チームのメンバーに簡単に自己紹介した後、同志社大学の学生達がキャンパスを案内してくれた。同志社大学はちょうど学園祭シーズンだったことから、構内の至るところに学生達が作った食品や装飾品の模擬店が並んでいた。同志社キャンパスの熱気と活気溢れる雰囲気に触れ、それまでの緊張が瞬時に和らぎ、リラックスした楽しい雰囲気の中で、同志社の学生達の独自性と自主性を実感した。

見学後は、グループ討論に入った。4つのテーマから自由に議題を選び、各チームが1つの教場で、40分間にわたって討論を行った。意外なことに、1つ目の議題はどのグループからも選ばれなかった。ほとんどのグループがリラックスできて生活に密着した2つ目と4つ目の議題を選んだ。討論は盛り上がり、お互い母国語は違うものの、自分の意見をできる限り表現した。さまざまな意見が飛び交う中で、お互いの考え方を知ることができた。討論が終了後、チームごとに討論の結果を発表した。

最後に、同志社大学の学生達と夕食を共にして親睦を深めた。交流を通じて、国境は問題ではなく言葉も障害にならず、若者の交流は永遠に活力と希望に溢れ、期待感に満ちたものであることを深く感じた。私達は大変有意義な午後も過ごし、今回の旅の中で最も忘れ難い思い出となった。

知っていますか？

Q: 同志社大学が創立された年は？

A: 同志社大学は、近代日本の有名な思想家、教育家の新島襄が1875年に「同志社英学校」という校名で創立し、その後、同志社神学校、同志社波理須理科学学校、同志社政法学校などを設置し、1912年「同志社大学」に改称した。

Q: 同志社大学の創立者新島襄の特殊な経歴とは？

A: 新島襄はアメリカの教育に憧れ、21歳でアメリカに密航した。1864年当時は日本人が海外に渡航することは違法だったが、新島は夢の実現のために、捕らえられれば生命を失う危険を冒してまで、Philips Academy and Amherst Universityで学び、日本人として初めて海外で学位を取得した。

Q: 同志社大学の校章の意味は？

A: 校章の逆三角形を3つ寄せた形は1893年に設計され、「国」を意味する古代アッシリア文字を図案化したもので、「知・徳・体」の調和した、同志社の教育の理想を表すといわれる。また、その建学の理念である「国際主義」、「自由主義」、「キリスト教主義(良心主義)」を体現している。国際主義: 外国語に精通するだけでなく、異文化や異なる思想を吸収して融合し、新しい問題を発見する能力をより重視している。自由主義: 個人の思考力、個人の行動力、学生の個性の発揮を重んじる。キリスト教主義: 精神、良心及び品行の教育と知識の両方を重視する。



Q: 同志社大学のキャンパスについて

A: 京都の中心部に位置する同志社大学は2つのキャンパスがあり、24,000人を超える学生が大学、又は大学院に在籍している。同志社大学創設の地である今出川キャンパスは、京都御所の向かいにあり、歴史及び建築学上、重要な数多くの有名な建造物を有している。京都府田辺キャンパスの学生は、人口密度が高い日本では得難い優れた教育環境の中で学ぶことができる。広々とした美しい大自然の中にあるキャンパスは、学習に最適な環境に恵まれている。

Q: 新島襄の名言

A: 「一国を維持するは、決して二、三英雄の力にあらず、実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざるべからず。」

感想

井の中の蛙がある日、井の中から飛び出して外の世界の広さを知った時、どのように感じるだろうか。同志社大学を見学した後、このような感想を抱いた。

同志社大学は、最初に見学と交流を行った大学で、偶然にも訪問した日が学園祭だった。いわゆる学園祭は、中国の大学で開催される社団文化節に相当する。同志社大学の学生の親切な案内のもとで、日本の大学生の特色豊かなサークル活動を実際に見る機会が得られた。構内を一回りすると、学園祭の活気が伝わってきた。

中国の大学生のサークル活動と比べると、日本の学生の活動はより本格的で、無駄な部分が少ないことに気付いた。中国の大学の一部の活動のように、内容が表面的で、年間に数回も活動しないようなことはない。そのうえ、日本のサークル活動はすべて学生が自発的に組織したもので、学生が中心となった正真正銘のサークル活動で、中国のサークル活動のように形だけの存在ではない、この点が印象深かった。

その後、私達中国の大学生と日本の大学生を混ぜていくつかのグループを作り、あるテーマについて討論を行い、最後に発表した。

討論の過程で、同志社大学などの日本の大学生の緻密で論理的な思考力、積極的で自発的なコミュニケーション能力及び国際的な視野に深く感じ入った。発表会での彼らの自信溢れる発言と流暢な英語が強く印象に残っている。

しかしながら、日本の大学生が中国の大学生と比べてすごく優れていると考えているのではない。交流を通じて、彼らも普通の大学生だと感じた。重要な点は、日本の大学の自由で卓越した学術環境であり、私達中国の大学生はそれに対して惹かれるのである。

日本の大学は、教授が主体となった大学管理制度によって、学術と教育が大学運営の核心的地位にまで高められている。役人の干渉が少なく、純朴なままで、学生と教師が学問に専念できる。大学は本当の意味で学術研究の殿堂となっている。

よって同志社大学を見学した後、中国の大学が優秀な人材を育成できないのは何故かという恨み言は抱かなくなった。それはハード面の格差ではなく、ソフト面でもなく、制度と理念が遅れていることに気付いたからである。

本質的な格差を知った後、卑屈になったり、焦ることもなく、かえって落ち着くことができた。中国は急速に発展しており、最終的に優位性を備えている。私たちは絶え間なく努力し、忍耐強さを持つことが肝要である。未来については、慎重ながらも、楽観的な見方をしている。

自動車を通じて豊かな社会をつくるトヨタ品質

北京化工大学学生代表

見学日時：2012年11月28日（水） 09:30-11:30

見学場所：トヨタ自動車堤工場及びトヨタ会館



見学概要

訪日4日目、早朝、我々訪日団一行は名古屋の東急ホテルを出発し、待ち切れない思いでトヨタ自動車堤工場へ向かった。トヨタ自動車は1937年に創業、創業以来「自動車を通じて豊かな社会をつくる」ため常にたゆまぬ努力を続け、国際社会から信頼されるブランドになっている。現在、トヨタ自動車は海外生産拠点51カ所を有し、世界27の国、地域にネットワークを広げている。

我々が見学したトヨタ工場は主に自動車部品のプレス溶接、塗装、最終性能検査を行っている。最初に溶接工程部分を見学した。作業場の入口に着くや否や、我々は素早く動くロボットの1つ1つに引き付けられた。ロボットは改良を経て、技術が成熟しており、車種に合わせ異なる工程に即時対応し、適切な溶接を行っていた。95%をオートメーション化し、ロボットを使用しサイドバッフルとボディ等の高精度の溶接を行う。1台の車のスポット溶接点は4000カ所余りに達している。溶接工程完成後は塗装であるが、溶接されたボディに様々な材料を塗り、カラー面塗装、仕上げの後、車体は滑らかになりツヤが出る。

我々は組立工程で真の「トヨタ生産方式」を見ることができた。「ジャスト・イン・タイム」と「欠陥品を次工程に持ち込まない」である。「ジャスト・イン・タイム」とは1度の注文に必要な量だけサプライヤーに部品を生産させ、在庫の無駄を省くことを指す。「欠陥品を次工程に持ち込まない」は訓練を通じ、作業者の動作を統一することで人間の「オートメーション化」を実現し、全ての持ち場がスムーズに任務を完成できるようにすることである。部品を取り付ける必要のある自動車には全て部品箱と看板が備えられ、作業者が確認しやすくなっている。また全作業者の持ち場には「アンドン」があり、異常が発生すれば直ちに「アンドン」を通じて監督者を呼び出すが、一定の時間内に問題が解決しない場合は直ちに生産ラインを停止し、次工程に流れる製品が必ず合格品であるようにする。

最後は検査工程で、非常に高い技術を持つ検査員が担当するが、彼らは触ることにより車体のキズや凹みを検出できる。この他にもハンドル、タイヤの角度、フロントライトなどを検査し、また一連の性能検査を行ってから、車両はや

つと合格となり出荷される。

トヨタ自動車は環境保護を最重要課題の1つと見なし、自動車の設計開発、生産、使用、廃棄等、全段階で地球環境との友好的共存という理念を実現している。例えば、マルチ・エネルギー利用可能という優位を備えたハイブリッド動力技術を最も優れたエコカー製造における核心技術とする、低燃費で動力性能が優れたエンジンとトランスミッション等を開発するなどである。現在トヨタは80の国と地域で18車種のハイブリッドカー（HEV）を販売しており、その他にもハイブリッド商用車（HEV）3車種を日本国内で販売している。

知っていますか？

Q:トヨタ自動車工場の外壁はなぜ薄緑色か？

A:この壁には特殊な光触媒塗料が使われており、汚れが付かず埃を分解する機能を備えている。同時に紫外線に反応し空気中の有害物質を分解して工場の空気を浄化する。その浄化作用は工場内に2300本のポプラを植えるに相当する。

Q:トヨタ自動車の中国での「雲動計画」には何が含まれるか？

A:2012年3月1日に雲動計画が中国で始動した。これにはガソリン・電気ハイブリッド動力技術、福祉車両、心おどる商品、サービスNo.1を目指す、事業加速、社会貢献の6つが含まれる。より多くの変化により中国での発展を加速させる狙い。

Q:作業員が頻繁に「アンドン」を使用したら業績に影響するか？

A:影響しない。それどころかトヨタ自動車は社員が問題を多く見つけ、問題を共有するのを奨励することにより、流れ作業の進歩、発展を促進させている。各工程はそれぞれ工程スタッフの状況により、その工程に必要な時間が決まり、また発注状況に基づき適切な調整が行われる。責任者は「アンドン」の使用状況により時間を調整し、作業者の快適性と生産ラインの効率アップに努める。



感想

日本の優良企業は環境保護重視という印象を常に人に与えている。数社の企業訪問を通じ、我々はこの点をより確信した。トヨタ自動車の環境保護は我々に強い印象を与えた。地球温暖化の原因となるCO₂や大気を汚染するHCやCO等の排出を減少させるため、世界にハイブリッド動力型の最も優れたエコカーを普及させ、燃料電池自動車を研究開発し、リサイクルが容易な材料を開発する等、トヨタ自動車は環境保護において多大なる努力をしている。真に実力ある企業は高額の利益を作りだすだけでなく、社会と環境に対する責任も果敢に引き受けるのである。

トヨタ社の経営の成功を総括すると、非常に学ぶ価値があるのは次の点だと思う。それは企業理念をしっかりと継承、高揚させ、企業文化を創造することである。チームは高度に統一された考えと目標を持つ必要があり、それにより各人の積極性と想像力が最大限に発揮できる。同時にチームのメンバーを絶え間なく成長させ、自身の発展を実現させることもできるのである。

都市の変容、新しいスマートシティの建設

中央民族大学学生代表

見学日時：2012年11月29日（木） 10:00－13:00

見学場所：日揮株式会社本社 日本横浜市

見学概要

日揮株式会社(日本語名称:日揮、英文名称:JGC Corporation、JGCはJapan Gasoline Company)は、日本の有名な石油類エンジニアリング会社である。東京証券取引所では一部上場で、JGC CORP ADRと称する。日揮の由来は会社創立時の名称「日本揮発油株式会社」の中の「日」と「揮」の2つの字を採ったものである。

日揮株式会社は1928年10月25日に創立、その前身は日本の石油会社で、本社は横浜市に設置され、エンジニアリング、環境保護、エネルギー利用などの開発に注力する世界上位500企業の一つである。同社は日本のエンジニアリング業界で首位を占め、医薬エンジニアリング界でも多大な成果を上げている。同社は創立以来、日本のエンジニアリングのトップ企業として、79年間に同社の業務はすでに石油天然ガス資源開発、石油加工、天然ガス処理、石油化学などの分野から、生命科学、化学工業、環境など更に広大な分野に拡がり、世界の50余りの国々と2万以上のプロジェクト協力と投資を行い、環境保護、資源再利用の分野では日本で最も著名な企業になっている。数十年の発展を経て、同社は現在すでに43社のグローバル子会社と17か所の事務所を持ち、現在の従業員数は数千人に上る。現在、グループの業務範囲には主に医薬、食品工場、化学製品工場、商業施設、環境保護施設、工業施設などの分野のエンジニアリング設計、監督管理、施工などが含まれ、GMP応用の面で世界的にかなり高い実力と知名度を有している。工事設計の面では、同社は世界的に認められたエンジニアリング設計の資質を持ち、多くの国々に良質な国際エンジニアリング関連サービスを提供している。特にLNG(液化天然ガス)のエンジニアリング面においては、すでに世界一流レベルに達し、この10年以内では、千代田化学工業、KBR社と共に、世界のLNGエンジニアリング・プロジェクトの75%の市場シェアを共有している。



知っていますか？

Q:GTL燃料とは？

A:日揮株式会社と大阪ガスは、2008年度から天然ガスを利用して石油代替品「GTL」(Gas-to-Liquid、ガス石油化)の商業施設受注を開始した。原油価格の高止まりにより、GTLは全世界で日増しに関心を集めている。ロイヤル・ダッチ・シェル社(Royal Dutch Shell)などの海外メーカーが実用化分野ではすでに一步リードしているが、新日本石油など6社の日本企業もすでに実験施設の建設を決定し、この分野に足を踏み入れている。GTLとは天然ガスを利用して灯油、軽油とナフサなどの製品を生産することを指す。これらの製品は液化天然ガス(LNG)と異なって常温下で輸送ができ、そのため輸送費用が低く、しかも自動車燃料などに用いることができる。先ず天然ガスを一酸化炭素と水素の混合気体に分解し、その後、触媒などを利用して石油製品を合成する。日揮と大阪ガスは混合気体を生産する工程の中で、大型燃焼器を使った高温加熱などの製造プロセスを省いた技術を開発した。実験施設を利用してすでに1,000時間運転し、実用化レベルに達したことを実証している。

感想

日揮での午前中いっぱいの見学学習過程で、私たちのグループは自由討論の部分では非常に異なる収穫があり、また討論を通して日揮の技術を運用して中国のいくつかの問題を解決する方法を学んだ。

◆以下が私たちの討論の成果である。

1. 協力プロジェクトの提案

中国新疆ウイグル自治区のカラマイ(克拉玛依)市でスマートシティの原型となる新たな開発区を建設する。

2. 日揮の技術と経験を利用して解決しなければならない問題

カラマイ市はエネルギー型都市であるため、豊富な石油、天然ガスなどの資源がある。しかし近年の絶え間ない開発、利用及び「西気東輸」、「西電東送」などにより、現在、同市ではすでに非再生可能資源の減少、深刻な環境汚染、大気汚染及び雇用が比較的少ないなどの問題が発生している。これらの問題は、日揮の技術と経験を利用して解決することができる。

3. プロジェクト主体:カラマイ市政府、地元の石油天然ガス公司

4. 設計者:日揮

5. 利用する技術:

環境保護技術を利用し、クリーンで環境に優しい新エネルギー、例えば太陽エネルギー、風力エネルギーを開発する。

CDM二酸化炭素排出削減技術を利用し、空気汚染を改善する。

smart city開発を通じて、雇用を促進し、都市の全面的で持続可能な発展を目指す。

6. 場所:中国新疆ウイグル自治区カラマイ(克拉玛依)市

7. 規模:10億人民元

日本の日揮株式会社はアジアのエンジニアリング企業の代表と模範であり、更には世界的なエンジニアリング受注企業の仲間入りをするべく努力を続ける中国の大型エンジニアリング企業にとっての模範でもある。日揮はアジアのエンジニアリング企業が欧米のエンジニアリング企業との競争能力を持つことをその実績で証明した。またその優れた品質とたゆまず努力する創造精神は、この企業の魂とも言え、中国企業が参考にし、また学ぶに値するものである。



つながりを通じて、世界を変える

外交学院学生代表

見学日時：2012年11月29日（木） 15:50－19:30

見学場所：丸紅株式会社

見学概要

11月29日の午後、「走近日企・感受日本」大学生訪日団の一行は日本の商社丸紅を訪れた。説明会が始まると、丸紅の担当者が私たちに同社の使命と理念「つながりを通じて、世界を変える」を紹介した。丸紅の使命は「つながり」にあり、人と物、国と国、文化と文化、心と心、現在と未来をつなげる。このような戦略的な理念に導かれて、一人一人に一種の崇高感と使命感を与えているのだ。

続いて、丸紅の代表が私たちに総合商社の概念を紹介してくれた。いわゆる総合商社は、百年前に普通の「貿易会社」から始まり、現在ではすでに貿易と投資を中核とし、金融、物流、リスクマネジメント、マーケティングリサーチ/開拓、プロジェクトの立案/マネジメントなどの総合機能を集中一体化した「大規模多国籍企業グループ」への強力な発展を遂げている。皆の理解を深めるために、丸紅はまた私たちに一枚の説明図を示し、説明を行った。

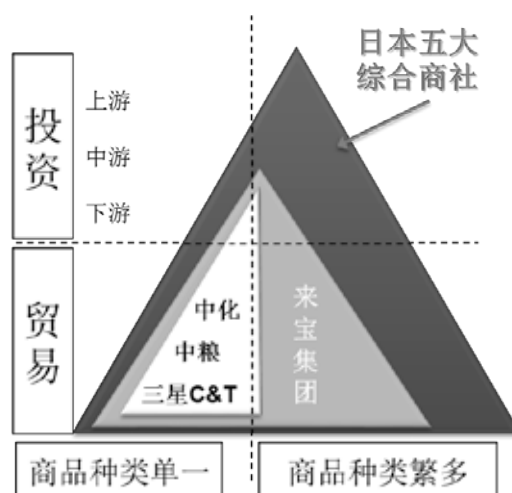
更に詳しい紹介の中で、私たちが理解したことは、優秀な総合商社として、丸紅には以下の3つの大きな特徴があることだ。1. 利益の基礎は貿易主体から投資にも転換している。2. グローバル化を重視し、海外投資を強調している。3. 主な業務分野は金属、エネルギー、機械である。

それでは丸紅はどのような規模を持つ総合商社なのか。丸紅では現在、合計13の部門が非常に大きな分野を分担しており、それぞれ食糧・食用油部門、食品部門、ライフスタイル部門、紙パルプ紙製品部門、化学製品部門、エネルギー第一部門、エネルギー第二部門、金属部門、輸送機部門、電力・インフラ部門、プラント・産業機械部門、金融・物流・情報部門、開発建設部門がある。しかも丸紅の各部門は、いずれも「国と国」、「文化と文化」のつながりを成し遂げ、しかも豊富な管理経験と革新的技術を通じて、業務能率と資源利用率を高め、子孫末裔のために恩恵をもたらし、それにより「現在と未来」のつながりを実現しているのだ。

私たちは皆、丸紅のこのような巨大で、しかも錯綜した複雑な企業のバリューチェーンに驚嘆した。丸紅の代表はまた私たちに、「丸紅はなぜ今日の規模に発展できたのか、それはバブル経済破綻後の経営大調整によるものだ」と紹介した。

これについて、丸紅は私たちのために詳細な紹介をしてくれた。1980年代のプラザ合意が急激な円高をもたらし、日本経済はいったん過熱したが、1990年代には日本のバブル経済が破綻に至り、同時にアジア金融危機が席卷し、災難に災難が重なる状態であった。21世紀に世界経済に好転の兆しが現れた時、米国を震源地とする金融危機が再び大きな痛手をもたらした。このような経済環境に直面し、丸紅は困難に立ち向かい改革を行った。財務体制を改善し、負債率を下げ、全面的なリスクマネジメントを実施し、資本コスト意識を強化し、合理的

総合商社与一般貿易公司的异同



なりリスク・リターンを追求し、しかも事業ユニットを通じてグループ全体の経営を強化した。それにより会社の経営状況を改善したのだ。

丸紅の説明会の後、私たちは夕食交流会を行った。私たちは丸紅の社員たちと一緒に夕食を摂り、そしてみんなが興味を持つ問題について踏み込んだ交流を行った。今回の交流会は極めて深い印象を皆に残したことだろう。

知っていますか？

Q: 総合商社とは何か。

A: 総合商社とは貿易を主体とし、多種のビジネスが共存し、貿易、金融、情報、倉庫・貯蔵、運輸、組織と調整などの総合機能を集中一体化した多国籍企業形式の組織キャリアーで、実業化、グループ化、国際化を一身に集中させた貿易産業グループである。丸紅株式会社は日本五大総合商社の一つとなっている。

Q: 丸紅の業績及び規模

A: 丸紅は総合企業グループで、それはブローカー、ディーラー、卸売店、代理店、リース会社、投資会社、不動産会社、シンクタンク、大型プロジェクトのオーガナイザーなどの各種機能を集中一体化し、世界経済と市場ニーズにランダムに対応している。2011会計年度の丸紅グループの収益は1,721億円と史上最高記録を創った。本社は東京に設置され、世界71か国と地区に分布する118の海外支店機構及び272社の投資会社を通じて、そして各事業分野のこれらの営業網を中核として、商社機能を存分に発揮している。

Q: 丸紅の経営理念

A: 丸紅の経営理念は「正、新、和」で、これはその社会責任の基礎でもある。いわゆる「正」とは、法律を遵守し、公明正大な企業活動を行うことを指す。「新」とは、進取と革新に富み、新たな飛躍のために絶えず挑戦することを指す。「和」とは、社会及び環境の調和した発展と、公衆の信頼を勝ち取ることを指す。



感想

帰国後に丸紅の関連資料を参照し、更に理解した後、私は中国企業が吸収する価値のある経験は2点あると考える。第一は情報に対する重視だ。丸紅の発達した情報網は同社が世界に立脚する重要な点だ。この巨大な情報網はどの瞬間、どの場所で発生した出来事でも丸紅が世界各地に設けた大小の支店機構に伝達され、それにより意思決定に役立つ。この点は同様に変化の激しい世界経済の中に身を置く中国企業にとって、学習し参考にする価値がある。第二は金融サービス機能に対する重視だ。丸紅の四川省成都市におけるフランスのビベンディ社との共同投資による都市水道水供給プロジェクトについて調べる内に、丸紅が協力者のキャッシュフローの遣り繰りがつかない状況で、自らの信用を担保に銀行に彼らのために融資を提供させたことに気付いた。総合商社として、貿易と投資は多くの分野、多くの方面、多くの産業界に足を踏み入れており、それにより関係するプロジェクトの運営効率を非常に大きく高めることは、非常に参考として学ぶに値する。

振り返って中国を見ると、経済活動の中ではこのような金融、商業と産業を一身に集中した、いわゆる総合商社のような企業体制は全く存在しない。これは政府と企業が一体となって協力し努力することが必要な多くの産業で、例えば現在の鉄道系統の高度化の中では、効率の低さなどの多くの不便をもたらしている。したがって、中国企業は現在の「高速鉄道」、「3G」、「4G」などのプロジェクトの発展の将来性が高い背景の下で、日本のこのような総合商社を中核とする財団体制に学び、政治と経済界の全体的な協力、資金提供側と産業連合体との全面的協力を通じて、世界的な範囲で市場を勝ち取り、収益をもたらすと同時に、中国の各産業の絶え間ないレベルアップを推進しなければならない。

Business is people－人間本位のサービスを重視する 三井住友銀行

北京大学学生代表

見学日時：2012年11月30日（金） 10:00－12:30

見学場所：株式会社三井住友銀行本店 東京都千代田区丸之内一丁目 1番2号

見学概要

銀行に一步足を踏み入れると、広々とした明るい大ホールが目に映った。ここでは、銀行員がすぐに銀行業務の案内を始めるのではなく、環境調和型の特徴を備えた建物の紹介があった。例えば、照明はすべて感应式照明で、ガラス外壁は太陽の光を効果的に利用することができ、屋上に庭園がある。その後、私たちは1階と2階の銀行カウンターを見学した。1階のカウンターは通常、顧客が少ない。昨今はオンライン取引が増えたため、顧客の多くは銀行に来て各種手続きを行う必要がないという説明を受けた。2階は大口顧客カウンターで、ここも来客は多くない。誰もいない部屋もあった。これについて、銀行側の説明によると、行員が週1～2回ほど大口顧客を訪問するため、銀行に出向くことなく、多くは自宅で手続きを済ませているという。



カウンター業務の見学を終えると、3階の会議室を訪れた。国際統括部の川端部長が最初に説明を行った。簡単な自己紹介を行った後、川端部長は、三井住友銀行の歴史について説明した。2001年に三井グループ傘下のさくら銀行と住友銀行が合併し、三井住友銀行が誕生した。2002年に三井住友フィナンシャルグループを設立し、三井住友銀行は同グループが全額出資する子会社となった。その後、川端部長はこの半世紀近くに及ぶ日本の銀行業の発展状況について説明を行った。第二次世界大戦後の日本は、40年間の高度成長を経て、1980年代後期は銀行業が急成長したが、1990年代

にバブル経済が崩壊して不良債権が急増し、銀行業は大きな影響を受けた。このため、1997年に日本政府は「金融再生法」を成立させ、政府が資金を提供して銀行の資金問題を解決し、銀行が経営困難を克服できるように支援すると共に、銀行も業務を拡大し、利益を増やすために努力した。このような一連の措置により、最終的に危機を乗り越えたという説明だった。

次に説明を行ったのは、グローバル市場開放コンサルティング部の伊藤部長だった。伊藤部長は三井住友銀行の中国業務の展開状況に関する一部の内容を補足した。三井住友銀行の関連会社として、2009年4月に設立された三井住友銀行(中国)有限公司(中国法人として登録された銀行)は、資本金70億元、従業員数は1,117人(実習生、臨時社員を含む)に上る。普通預金、融資、送金業務以外に、トータルソリューション(例えば、日本企業がいかにして中国で投資するかなど)を提供し、さらには、中国業務を行う日本企業向けに海外人民元建て業務とオフショア人民元業務を提供している。これらの業務は企業間の貿易に人民元決済システムを直接導入し、中間手続きを省くものである。

その後は、DVDの鑑賞を通じて、銀行の歴史に対する理解を深めた。両グループの家訓を受け継ぐ経営哲学の影響を受けて、両銀行は近代史において十分に重要な役割を果たしてきた。三井銀行は、1876年に創設され、住友銀行は1895年に創業した。2001年三井住友銀行として合併し、2010年に米国ニューヨーク株式市場で上場した。同銀行の現在の資産総額は116兆円で、口座開設者は約2,800万人に上る。このほか、三井住友金融グループ傘下に日本総合研究所(システムとコンサルティングを担当)、SMBC日興証券、クレジットカード会社、ファイナンスリース会社(例:航空機リース業務)などがある。

最後は質疑応答で、ある学生が「日本の中小企業に融資していますか」と質問したところ、「融資しています」という返答だった。同銀行では、万全なリスク評価システムを導入し、大量のデータを統計して投資利益率(ROI)の正確性を保証しているため、中小企業に融資できるのである。また、別の学生が「中国の銀聯カードをこの銀行で使用できますか」と質問すると、「使用できます」という回答だった。中国の銀聯カードは日本の三井住友銀行のすべての支店で使用できるとのこと。

昼食は同銀行の上階で弁当が配布された。この時間に私たちは社員と交流を深めた。

知っていますか？

1. 日本の3大金融グループは三井住友、三菱UFJ、みずほである。
2. 三井住友銀行は、中国業務を拡張し、中国の環境保全事業(例:「中新天津エコシティ」建設のコンサルティング、太湖水環境修復モデル・エコシティの開発など)及び三井住友銀行奨学金プロジェクト(2011年は6大学で奨学金授与式を開催した)にも参画している。
3. 三井住友銀行の中国本店は上海で、北京、天津などにも8支店があり、天津濱海などに4支店があり、大連に事務所が1カ所ある。

感想

三井住友金融グループは、三井銀行と住友銀行が合併して設立された。長い歴史を誇る再編を経たこの大手金融グループは、世界ランキングでトップクラスに位置する。これは企業が一貫して守り続けてきた「Business is people」の理念と関係がある。「お客様により価値のあるサービスを提供



し、お客様と共に成長する。事業の発展を通じて、株主価値の向上を目指す。勤勉で向上心のある社員のために、自己の能力を発揮できる職場環境を創造する。」これらのコミットメントを従来から行動力で実践してきたことによって、三井住友銀行は、銀行への国の干渉が少ない先進国の日本で、市場と一般市民の信頼を獲得してきた。

見学した三井住友銀行本店の建物には特徴があり、現代的なガラスカーテンウォールの高層オフィスビルの典型である。高度のある木製の壁、ICカード個人認証が必要な全密封型で不可視の事務室、大会議室の至るところに、国際的な大手金融グループの繁栄振りが現れている。さらに、この金融街の交差点付近に並ぶほとんどのビルが三井住友系だとわかった。これほど大きな金融グループに属する銀行の国際化された管理モデルを通じて、外国の大手グローバル銀行の風格を肌で感じた。

侮れない廃棄物回収処理

北京師範大学学生代表

見学日時：2012年12月3日（月） 09:30－11:30

見学場所：東京都中央区清掃工場 東京都



見学概要

工場の責任者が、会議室においてPPTやDVD等の資料を使い、東京都清掃工場の概要について紹介をされた。この工場は東京都23区にある21ヶ所のごみ処理施設の一つで、家庭ごみを収集・分類した後、焼却している。発生するエネルギーは、発電や熱供給等の用途に活用可能である。

その後、関係者の方から工場内部の施設を案内していただいた。大型の焼却炉、ごみを均等化するための大型ハンド、さらにはごみ処理完成品のすべてに驚きの声が上がった。科学技術の先進性に感嘆しきりであった。廃棄物処理は、環境保護だけでなく、廃棄するものを宝に変え、新たな価値を創造できるのである。

知っていますか？

見学が終わってから、職員の方に工場職員の身体への防護措置について質問をした。職員の方によると、かの工場で作業している職員は防毒マスク、防護服、耳栓等を着用するなどの措置により自身の身体の健康を守っている、ということであった。実際のところ、如何なる工場であっても、労働者の健康への保護は軽視できない問題だと思う。



感想

見学の途中ずっと、このような大型の工場を北京に置くことは可能だろうか、と考えていた。まずごみの分類回収の問題がある。次に専門の運輸車両と路線によりごみを一ヶ所に集めなければならない。続く設備、技術などは、お金さえかければ、問題はないであろう。ごみの分類回収に対する意識は、中国人にはまだ欠けているような気がする。何はともあれ、中国人もごみの分類回収を十分に重視してほしいと思う。もちろん最も重要なのは、自分自身から始めること——、ごく小さなことから始めることである。皆の意識が高まってこそ初めて、環境保護、廃棄物利用は本当に効果が上がるのだと思う。

東京都中央清掃工場、簡単にいえば、つまり東京のごみ処理場の一つである。

最初に印象深かったのは、清潔だということである。——奇妙なくらいに清潔なのだ。塵一つなく、空気もきれいで、立ち込める黒煙もない。工場全体の衛生基準は、中国の多くの都市の代表的病院よりも厳しい。一体これがごみ処理場だと誰が想像できるだろう。少なくとも、私には想像もつきません。

その後、職員の方の解説を通して、さらに具体的な作業手順について知るにつれ、さらに驚きは深まった。分類回収したごみを処理し、利用価値のあるものは、処理の過程で回収して資源にする。たとえば一部の金属製品などである。利用価値のないものは粉碎、焼却し、生じた熱エネルギーを発電等の多用途に利用し、廃棄物を宝に転換させることができるのである。

元々、私はごみ処理の過程で生じた廃棄物を再排出すれば、深刻な環境問題が起きると思っていた。ところがその後の解説の中で触れられたのは、たとえば廃気の排出は、多くの工程を経て浄化され、粉塵は濾過され、酸性気体は、中和分解されるほか、生じたスラグは、建築材料として広く使われるということであった。

このような全力でゼロ排出を目指すごみ処理プランは、本当に驚くべきものである。また我々中国のごみ処理の粗雑さを連想せずにはいられない。私自身も北京の某ごみ処理場を訪れたことがあるが、悪臭がひどく、黒煙が渦巻き、ごみが空いっぱい舞い上がっていた。中国が経済発展し、国民の生活レベルが向上するに従い、このようなごみ処理問題は中国人の正常かつ健康的な生活のための大きな問題にまでなりつつある。

職員の方に聞いて初めて知ったのは、実のところ、これらのごみ処理技術は、今や経済的な実力があり、かつ科学技術が日々進歩している中国にとっては大した問題ではなく、問題の核心は、我々がまだ完全なごみ分類処理の社会制度を構築していないことだということだった。分類されてないため、回収処理を行うことができない、これこそが、我々中国において、ごみ処理が改善されてこなかった要因となっているのである。ここまで理解して私は、社会の近代化は、ただ単純に何かの技術の近代化といった簡単なことではなく、社会全体の関連制度の整備が必要であり、そうしてこそ初めて近代化された技術が活用されるということを認識した。近代化をただ単に技術の進歩と解釈するのは、何と浅はかなことだろう！近代化への道において、近代化された工場や道路のほかにも、中国が努力しなければならない部分は、なお沢山あるのだ！

松本楼参観

北京化工大学学生代表

見学日時：2012年12月3日（月） 12:00—14:00

見学場所：日比谷松本楼 東京都千代田区日比谷公園1-2



見学概要

松本楼は東京都千代田区の日比谷公園にある、木立に囲まれたきれいな三階建ての建物である。一階はガーデンテラスやグリルで、二階には結婚披露宴会場や大小各種の宴会場があり、三階では主にフランス料理を提供している。松本楼の内部は洋風で細部にまで生き生きとした美しい装飾が施されている。



知っていますか？

1. 松本楼は20世紀の初めに建てられた、孫中山先生と梅屋庄吉先生ゆかりの場所である。
2. 松本楼の常務取締役を務める小坂文乃さんは梅屋庄吉先生の曾孫にあたる。
3. 梅屋庄吉夫妻は孫中山先生と宋慶齡女史の仲人を務め、当時結婚に反対した多くの人々を説得したが、松本楼も孫中山先生と宋慶齡女史のロマンスの証人といえる。
4. 松本楼一階ホールに置かれているピアノは宋慶齡女史も演奏したことがあり、ヤマハの前身である日本楽器製造株式会社が1907年に製造した日本初のピアノと言われている。このピアノは、もとは梅屋庄吉夫妻が娘のために買ったものだが、孫中山先生と松本楼のゆかりを記念するために、「孫文夫人ゆかりのピアノ」として、松本楼に寄贈された。
5. 日本の福田康夫元首相の父で、同じく首相を務めた福田赳夫氏はかつて福田康夫氏の母三枝さんと松本楼で結婚式を挙げた。
6. 2008年、胡錦濤氏が松本楼を訪問した。

感想

松本楼は孫中山先生と梅屋庄吉先生の友好の証しであるだけでなく、日中両国の友好の証しでもある。正に梅屋庄吉先生や松本楼が存在したことにより、日本に亡命し苦境に陥っていた孫中山先生に支持と援助が与えられ、更には中国民主革命事業に対する大きな支えになった。

私たちに説明してくれた小坂文乃さんの心のこもった熱心なことばや話の中から、私たちは小坂文乃さんの日中友好にかける熱意をひしひしと感ずることができた。これは或いは日本国民の心の声を正に代表しているのかもしれない。日中両国は、元々は互いに学びあい鑑としてきた隣人同士であり、今のような困難な時期こそ、ともに努力して困難を克服すべきである。

細部が勝敗を決する——キューピー五霞工場

北京理工大学学生代表

見学日時：2012年12月4日（火） 09:30－13:00

見学場所：キューピー五霞工場

見学概要

◆ キューピーグループ事業の核心

キューピーグループは主に調味料と加工食品の生産を行っており、事業は「サラダ・調理済み食品・卵」「健康機能」「物流システム」の3つの部分からなっている。全国に生産拠点が86カ所あり、その中8カ所が主力工場で、東京に近いのは五霞工場、富士吉田などである。

◆ キューピー五霞工場

1972年、マヨネーズの生産を手始めに、同社5つ目の工場として五霞工場が操業を開始した。敷地面積は3万1820平方メートル、従業員数279名、操業時間5:00-22:00、状況により24時間操業を行う。

1978年、ファインケミカル生産開始。1984年、ドレッシング工場を増設。1989年、事故予防システム導入。1999年ISO9001認証取得。2004年、割卵部門成立。2005年ファインケミカル部門設立(FC工場)。2011年、マヨネーズ第2工場増設生産開始。

五霞工場の位置付け: 東日本の調味料生産拠点

2011年度の生産は家庭用マヨネーズ3万6000トン、家庭用ドレッシング1万3000トン、業務用マヨネーズ2000トン。生産量は増加を続けている。

割卵数1日当たり160万個、年間2万トン。提携養鶏場は茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉に所在している。

◆ キューピー社の社訓

道義を重んずること——目先の損得にこだわらず「何が本当か、何が正しいのか」を判断基準とする。

創意工夫に努めること——商品開発、生産、販売等、あらゆる面で他人を模倣してはいけない。創意を奨励し、イノベーションに努める。

親を大切にすること——自分を世話してくれた全ての人を大切にすること。最も代表的なのは自分の両親で、その他に消費者、顧客、社員なども大切にすること。

マヨネーズは最初の中島董一郎が日本に持ち込んだ。中島は鮭や玉葱と組み合わせたマヨネーズのおいしさに魅了され、卵黄を含み栄養豊富なマヨネーズを通じて、日本人の体格改善と健康に貢献したいと願い、1925年に日本キューピー社を創業した。

◆ マヨネーズの発展史

1925年、キューピーマヨネーズが誕生、当時は裕福な人が顧客だった。1958年、プラスチックボトル誕生に伴い、マヨネーズはより多くの庶民の家に販路を広げる。1991年、カロリー半分のマヨネーズが誕生、カロリーを下げることでキューピーマヨネーズはより健康的になり、多くの人に歓迎される。

◆ キューピーの中国での販売体制

全国24カ所の販売拠点で、2社の社員合計約800名を抱える。2012年は合計約800名の見通し。2012年の予想売上高は5億元。

◆ キューピーの中国での販売戦略

1. 現地の味に合わせる——オリジナルは日本のキューピーマヨネーズと同様、卵黄と油の濃い味と食用酢の酸味の間でバランスをとった味が特徴である。甘口（1999年発売）は味覚と用途に合わせて開発、キューピーマヨネーズに比較し甘味が強く（カスタードクリームに類似）、酸味を抑え（酢の分量をおよそ1割減）、塩味を抑えている（食塩の分量をおよそ2割減）。
2. 現地の飲食文化に合わせた商品を売り出す——日本で組み合わせる食品はサラダ、サンドイッチ、お好み焼、すし、おにぎりの具だが、中国ではフルーツサラダ、焼きパン、饅頭である。
3. 品質保証（ISO/HACCP取得）——キューピーは国際規格体制を構築するため、以下の努力を行っている。理念の継承、現地の学習会、現場の改善活動、討論を通じた理解の強化、情報共有の習慣化、日本での研修。
4. ブランド戦略——2010年1月に有名ブランドに認定された。知名度の高さと、長年の実績のおかげである。日本の食品会社が有名ブランドに認定されたのは初めてである。
5. 人材養成、全員が成長できる環境作り——社内研修、商品学習会、実地研修、発表会、技術研修、学習会。

◆ 細部の設計

1. キャップ外周を波型に設計し、回して開けても手が痛くないようにした。
 2. ボトルの出し口を高くし、マヨネーズを出し口の周りに付きにくくした。
 3. ボトルを多層構造にし、酸素の進入を防ぐ。
 4. 製品は無菌輸送を採用し、ボトル口を下にしてマヨネーズを注入する。
- 国際的大企業であるキューピーは細部の設計が周到で感心させられる。

◆ キューピーのTS野菜工場

キューピーの野菜はサラダに使用するため生産している。野菜は人工光により栽培しており、毎日16時間の照射を維持し、安心、安全であり、密閉式栽培により、農薬を使わず、虫の害もなく、洗わずすぐに食べられる、これらの野菜は生産後スーパーと食品生産会社に供給される。

キューピーの野菜は通常の野菜と比較し栄養上の差がないが、野菜に含まれるカルシウム量をコントロールすることが可能である。

知っていますか？



Q: 工場でマヨネーズを作った後の卵の殻の用途は？

A: この工場の割卵数は毎日160万個に達し、大量の卵の殻が発生する。この殻には大量の炭酸カルシウムが含まれており、これを利用して子供用のカルシウム強化剤を生産している。また工場の壁も卵の殻を利用して作っている。

Q: キューピーマヨネーズはなぜこんなにおいしく、人気があるのか？

A: キューピーマヨネーズの製造過程での大きな要素は新鮮度の追求である。マヨネーズを作る卵は前日に工場へ運ばれ、翌日早朝に加工されるため、マヨネーズの食感と味に大きく影響する。

Q: キューピーマヨネーズには防腐剤が添加されているか？

A: いいえ。マヨネーズの酢、食塩、マスタードに殺菌防腐効果があるため、防腐剤は全く使用していない。

Q: キューピーグループの中国と日本でのそれぞれのシェアは？

A: キューピーグループの中国でのシェアは83%、調査によればキューピーマヨネーズの主な消費者は高所得層である。中国における利益は65億円で、グループ総利益の約1%を占めている。キューピーグループの日本での市場シェアは70%で、売上高は日本の食品生産業界で第1位である。

感想

キューピー社の解説を聞き、工場を見学して、我々は刺激を受け、大いに考えさせられた。同社がこのように成功し



たのは、社会の発展や飲食習慣等の客観的な要素の他、会社全体が細部を重視し、あらゆる問題を検討し研究するという研鑽の精神が大きな要因だと思われる。

1. 包装の改善

ボトルについて: 初期のマヨネーズは賞味期限を延ばすためにガラス瓶を使用していたが、これだと使用者が取り出しにくいので、ガラス瓶をプラスチックのソフトボトルに替えた。品質保持を考慮し、多層プラスチック技術を導入して品質保持効果を強化した。

ボトルの口について: ボトルの出し口を高くすることで出し口にマヨネーズが付くのを防いでおり、また汚れても拭きやすく、清潔で便利である。

外側のフィルムについて: 以前の垂直のあけ口では製造年月日を破いてしまい不便だったため、斜め開封式に改良した。注目すべきは右利きでも左利きでも開けやすい右開封用と左開封用を分けたことである。有名なマヨネーズの会社が製品の外部包装にこのように改良を重ねるのは、感慨深く、学ぶに値する。

2. 調味料の種類の変化

キューピーはここ数年低カロリー、低コレステロール等の製品を発表している。これらの製品の誕生は現代人の体のニーズから来ており、製品の変化も同社の長期的な洞察と細部へのこだわりを表している。食品自体に着目だけでなく、その他の要素も大いに考慮し、一つ一つの細部へのこだわりは、キューピーの発展に対し多大な貢献となっている。

3. 見学過程の細部

同社は製品自体だけでなく、我々をもてなす際のあらゆる細部においても、品格と精神が現れている。まず同社製品を紹介するビデオは、キューピーを主人公にした関門突破ゲーム形式で、卵からマヨネーズを作る全過程を見学者に見せる。注目すべきは、一貫して創意工夫がされていることで、製造過程を紹介するだけでなく、常識やマヨネーズの使い方も学ぶことができる。私達全員が短時間でこの製品への理解と興味が増し、無限の好感が生まれた。その後の試食で我々はそのおいしさをすぐ味わうことができた。このような見学コースデザインは創意工夫に満ちている。また工場見学では、見学者を歓迎するため、各作業場にキューピー人形が置かれていた。これも彼らの細部へのこだわりの現れで、感心した。最も忘れられないのは同社からの記念品である。それは我々の写真をボトルに張り付けたマヨネーズだった。彼らの代表製品である上に最も印象に残る訪問の記念品をもらい、心が温まり感動した。

細部が勝敗を決する、キューピーは細部を重視しこだわることで自社の成功と発展を手に入れた。我々は彼らのこのような細やかな精神を学び、我が国の社会経済の発展から我々の学習や生活まで、様々な細部から我々の成功を導き出すべきである。

自由で文明的、堅実な慶応大学

中央民族大学学生代表

見学日時：2012年12月4日（火）15:00－19:00

見学場所：慶応義塾大学



見学概要

慶応義塾大学、略して慶応大学または慶大は、日本の有名な思想家・福沢諭吉が1858年に創立した日本最初の私立大学として、東京都と神奈川県に位置している。1871年、校舎が現在の本部キャンパス所在地の港区三田に移転された。慶応義塾大学は日本でも最高峰の私立大学の一つであり、早稲田大学と並んで「日本私学の両雄」と呼ばれている。

1890年、慶応義塾大学は正式に日本政府の認可する私立大学となり、文学、理財、法律3科を設けた。8年後には、学制改革の要求を受け、相次いで政治科、医学科も増設した。1920年、学科は学部昇格し、法律科と政治科は併合されて法学部となり、さらにそれまでの学部を加え、慶応大学は文学部、法学部、経済学部、医学部を抱える総合大学となり、大学院も設けた。1944年、元・藤原工業大学が慶応に併合された後、工学部となり、通信教育を発展させ、新たな学部と大学院学科が次々と充実されていった。1957年には商学部を増設、1981年に工学部を再編し、2学科を増やし理工学部となった。後にさらに藤沢新キャンパスに総合政策学部と環境情報学部を設立、2008年には新たに大学院システムデザイン・マネジメント研究科、大学院メディアデザイン研究科を増設するとともに、共立薬科大学を併合し、薬学部と大学院薬学研究科を設立した。今日では慶応大学は10学部、通信教育課程1つ、日本語教育センター1つ、大学院教育学科14科、また多くの研究機構を抱える、壮大な規模を誇る大学となっている。慶応義塾大学は、日本の多くの分野で最先端を行っている。慶応医学賞は、世界的にも誉れ高く、慶応義塾大学が研究開発した電動自動車は時速310kmにも達し、世界一となっている。光電子ファイバーは、世界で伝送速度が最速であるほか、分子エンジン、幹細胞、遺伝子研究等の生命科学の最先端分野でも先導的な地位を占めている。

2005年、慶応義塾大学は国際化戦略をとり、留学生の受け入れ枠を広げ、これまでの保守路線から徐々に開放し

つつある。2008年の創立150周年を迎えるに当たり、慶応義塾大学は日本において、150周年を迎える最初の高等学府となり、天皇陛下が御自ら足を運ばれ、祝賀の意と慶応の教育事業150年来の日本社会に対する貢献に感謝の意を述べられた。日本の歴代天皇は、これまで何度も慶応義塾大学のさまざまな祝賀活動に出席してきた。これは慶応義塾大学が日本の社会において、非常に重要な地位を占めていることを示している。

慶応義塾大学では、私達はまず学生達と「大学生生活」に関する討論を行った。討論の過程では、ここで勉強する学生達の思想が開放的であることを知り、同時に多くの中国の大学生の卒業後の選択肢が、日本の大学生と違うことを知った。学内の研究会制度が多くの学生を惹きつけ、こういった教育方法の先進性も感じられた。慶応大学の紹介と討論の終了後、慶応大学の学生がさらに図書館の一角と学術講義の場所を案内してくれた。彼らが熱心に私達に紹介する有様を見て、彼らの慶応大学生としての誇りをはっきりと感じ取ることができた。ここでは慶応義塾大学の学習環境を体験し、自由でありながら、散漫ではない校風を感じることができ、また学生達の日常生活も目の当たりにすることができた。最後に私達は、慶応義塾大学の学生と夕食を共にしながら、彼らのカリキュラム体制や日常生活について、さらに詳しく知ることができた。百聞は一見に如かず。より多くの中国の大学生が慶応義塾大学に留学し、身を以って慶応大学を感じ取ることができるよう願っている。



知っていますか？

1. 慶応義塾大学の創立の主旨は何か、知っていますか？

慶応義塾大学は、日本の有名な思想家である福沢諭吉の創立した日本で最初の私立大学であり、1858年、英国式教育スタイルをモデルとして設立された。福沢諭吉は西洋列強の砲艦の背後に経済、科学技術の強力な後ろ盾を見て取り、このため学校を開き、「教育により国を救う」ことを決心。西洋の政治、経済、法律を研究し、その長所を学び、日本のために活かそうとしたのである。福沢諭吉は派手な言動を好まず、特に権力を憎み、政界に身を投じることを潔しとせず、学生にも政治の世界に入ることを勧めなかった。このような堅実な精神が、慶応の伝統となったのである。慶応の校史には、その面の記載がある。「権力紛争でそれを犯すことはできない。如何なる事も福沢の学問追求の志に干渉し、制限することはできない——。」このような特徴の校風は、今日でもなお慶応義塾大学に着実に受け継がれている。慶応の卒業生のほとんどは、政界に入ることを好まず、基礎から始め、自身の教養基礎、知力と才能、堅実な精神を武器に、局面を開こうとするのである。

2. 私立大学としての慶応義塾大学の経費源はどこから来ているか、知っていますか？

慶応は私立学校であり「皇糧(お上のお金)」を食べる条件はなく、完全に自力で経費を集めるが、それでもなお豊富な財力を持っている。1991～1992年度の財政予算は、収入が839.9億円(約6.46億ドル相当)、その内訳は、病院の診療サービス収入が37.7%、学生の学費が37.40%、学校資産及びその他の費用が13.4%、寄付及び補助が11.5%を占めている。同年度の支出は855.37億円(約6.58億ドル相当)、その内訳は病院支出(医薬品、食品、医療費用)が17.7%、教育及び研究費用15.9%、教職員給与及び賞与が48.8%、その他の費用が17.60%となっており、収支はほぼバランスが取れている。

3. 奨学金制度

①日本政府の奨学金(2010年度): 大学院の学生に対し、毎月非正規学生155,000円、修士課程157,000円、博士課程158,000円、学部生128,000円が支払われる。

②自費留学生学習奨励: 日本の大学で学ぶ成績優秀な学生に対し、日本学生支援機構が毎月、学部生に48,000円、大学院生に65,000円を支給している。

4. 慶応義塾大学は、中国の教育認証を取得しており、北京大学、復旦大学、浙江大学、中国医科大学、西安交通大学と相互学術交流関係にある。中国国際教育博覧会においては、慶応義塾大学も出展し、中国の留学生と直接の交流を持つなど、中国の学生が慶応義塾大学に入るために便宜を図っている。

感想

慶応義塾大学は、学術の自由及びキャンパス内の活発な活動で有名である。実際に見学・訪問した後、彼らの学術理念に感心せずにはいられなかった。私達の今回の討論テーマは、「大学生生活」だった。皆が気軽に日中両国の大学生生活の違いについて話をした。その際、最近緊張が続く日中関係に触れることになった。日中の緊張関係について経済学部学生は、両国間の隔たりを過度に煽り立て、一部の国民の過度の緊張をもたらすなど、メディアが日本の民衆を間違った方向に導いていると指摘していた。また日中関係に対し、彼ら自身の考えと主張を述べた。彼らとのそういった討論は少し大学生生活というテーマからは外れていたが、彼らとの話し合いの中からも、慶応大生の自由奔放な国際的思想、率直に発言する自信、堅実な学術研究の校風を見て取ることができた。日本の若者として、彼らは東アジアの隣国である私たちとの交流を望んでおり、強い社会的責任感も持っているのである。

化学工業におけるイノベーション

北京師範大学学生代表

見学日時：2012年12月5日（水） 09:30－11:30

見学場所：住友化学千葉工場



見学概要

工場の担当スタッフから、会議室でパワーポイントやDVDなどを使い住友化学の工場の概要を紹介いただいた。千葉工場は主に石油化学製品の生産機能を集約しており、1993年には経営効率を高める活動を展開し、1995年にはさらにコスト削減と業務改革を行い、各部門のコストが2～3割引き下げられた。1996年度には、関連会社を含む全工場のコストを約140億円削減し、1997年度には更に40億円以上引き下げられた。住友化学は溶媒法PP(ポリプロピレン)が年産20万トン、石油化学コンビナートである千葉工場の生産能力を含めると合計年産26.7万トンに達している。今年は千葉工場に年産12万トン級の自社技術である気相法を採用したPPプラントを投入し操業を開始するとともに、更に同規模で同じ製造技術を使ったPPプラントを建設し、新プラントの完成と同時に古い溶媒法のPPプラントを廃棄することになっている。新しい触媒を採用したことにより、プラントの生産能力は年産15万トンまで引き上げることが可能になった。2000年には、千葉工場の生産能力を含めた住友化学のPP生産能力は年産38万トンに達した。住友化学のファインケミカル部門の重点は、(1)コスト競争力を強化し、経営利益を高めること(2)販売と技術サービスを強化すること(3)研究開発から工業化へのプロセスを加速することである。

このあとスタッフの案内の下、私たちは工場の二つの分工場を見学した。工場の面積は広大で、煙突から排出されるガスはすべて水蒸気になっており、住友化学は環境との調和を図りながら有害な化学物質を化学的に分離して処理していた。

知っていますか？

住友化学(上海)有限公司は日本の住友化学株式会社が上海に作った独資の子会社である。同社は1997年12月に上海外高橋保税区で正式に登録されている。経営範囲は、国際貿易、中継貿易、貿易コンサルタントで、輸出入の権利を持つ区外の会社と直接取引を行い、国内の輸出入経営権を持つ企業と貿易代理契約を締結し、非保税企業との貿易業務、保税区の企業間の貿易および貿易代理、区内における商業ベース加工および商品の展示などを行っている。

現在、同社は主に農薬の原料および製剤の輸入販売業務、飼料添加物の輸入販売業務、さらに一般化学工業製品の輸出入業務を行うとともに、上海地区に保税倉庫を設けることにより、ユーザーの利便性を大幅に高め、取引時間を短縮すると同時に、ユーザーからの小ロット注文にも対応している。

2000年以降、会社の発展に伴い、外高橋保税区管理委員会と工商行政管理局の許可を得て、浦東新区に事務所を置いている。

感想

旅行日程最終日の前日、私たちは東京郊外の住友化学千葉工場を見学した。このような化学工場を身近に接するのは今回が初めてだったので、さまざまな感想を持った。

私は文系なので、工場側スタッフの詳しい説明によって、住友化学の発展プロセスや業務内容について概略理解し、住友化学が持つ多くの独自技術の優位性を知ることができたが、さらに詳細な化学工業の専門的知識については、やはりわかったようで実はあまりよくわからなかった。しかし最も印象的だったのは、日本企業の強い社会的責任感というもう一つの側面である。

住友化学のような重工業企業は往々にして生態環境破壊の最前線に立たされるが、もし彼らが経済的利益の獲得のみに走り、社会の持続可能な発展や全人類の将来の命運を考えないとしたら、それは大変危険なことである。

本心からであれ見せかけであれ、住友化学は企業自らの発展と社会的責任を負う上でのバランスを保つという、エコロジカルな発展の可能性を私たちに示している。たとえば発展と同時に、工場周辺の住民の利益をも考慮し、省エネ・排出削減と環境保護の社会的責任を負っている。恐らく人材や物資、財力の一部を割く必要があるが、このような発展は確かに持続的、持続的で、発展性がある。視線を遠くに置き、目の前のわずかな経済的利益にのみとらわれないためには、その産業の発展戦略と心構えの徹底的な転換が必要である。

この点についていえば、私たち中国の同業者は日本の同業者に謙虚に学ばなければならない。現在の中国の工業発展、とりわけ重工業の発展は、基本的に搾取的な性格を持っている。私たちは先に汚染した後で対策をとるという古いやり方ではいけないと口癖のように言うが、実際にはやはりかつてのやり方を踏襲しているのである。持続可能な発展を単なるスローガンにしてはならない。これは事実上すでにわが国と民族の未来にかかわる切実なことであり、国外に良い経験や技術があるのなら、私たちはそれを鑑として学ばなければならないのである。

改革と開放の30数年来、我々はずっと先進国に追いつくことを目標に、慌しく学び、発展を急いできた。しかし多くのことは短期間に目の前の功利をあせって達成できるわけではない。よって私たちは歩みのスピードを抑えて反省し、調整を行い、長い目で考えたプランを実施する必要がある。目先の利益に捉われていてはならない。そのような発展では結局のところ将来性はないのである。

ホテルのエコ発展の道

外交学院学生代表

見学日時：2012年12月6日（木）09:00－10:30

見学場所：ホテルニューオータニ（東京都千代田区紀尾井町4-1）

見学概要

今日は12月6日、今回の日本旅行の最終日。別れを控えたこの日、私たちをこの数日間「収容」してくださった東京ホテルニューオータニの環境保護施設を見学した。

山本さんのご案内の下、まず見学したのは、ホテルニューオータニの自家発電機ユニットである。ディーゼルオイルと天然ガス等の可燃気体を燃料として利用し、ホテルで使用する電気の自給自足がほぼ可能となっている。モーターのエンジン音が耳を劈（つんざ）くが、それは四台の巨獣の中の一台の稼働騒音でしかなく、もし残りの三台がそれとともに咆哮を始めたら…。だがホテルの職員によって設備室の壁に多くの吸音設備が設置されており、外部への騒音が、効果的に抑制されているとのことである。



その後、私たちは污水处理室にやってきた。ホテルの污水は、すべてここに集められて処理されている。処理室の污水の臭気はとてもひどいものだったが、沈殿、濾過、微生物分解、再消毒後の水は異臭のない、澄んだ水になっていた。飲み水の基準にまでは達しないそうだが、トイレの流し水、植物への水やり、または洗車には使うことができるとのこと。沈殿によりできた部分も廃棄物として遺棄するのではなく、さらに処理して肥料またはタンパク原料となる。ごみを宝に変えるという概念が、この污水处理室で存分に体现されている。ここではその他にもホテルの貯水、送水設備——大きな木の桶を見た。木

材特有の臭気除去、抗菌作用を利用し、水源が貯蔵・保存、輸送の過程で二次汚染を被らないようにしている。

続いてホテルの地下の曲がりくねった通路を抜け、ホテルニューオータニが数億円をかけて建設したごみ処理システムの場所にやってきた。まずは分類された台所廃棄物、生ごみ・残飯等のごみを130度の高温蒸気で消毒、その後、さらに粉碎、発酵し、最後に有機肥料にして、農家に提供する。その後、農家がその有機肥料を使って栽培した優れた果物・野菜を割安な価格でホテルに提供する。このような完全な運営チェーンのおかげで、ごみ処理費を節約できるだけでなく、果物・野菜の購入費を減らすことができるのである。一挙「多得」の方法といえるだろう。

最後にホテルニューオータニの誇る屋上のバラ園を訪れた。周囲は、摩天楼が林立する中、この艶やかな花園は、この人類文明に自



然の調和をもたらしている。さまざまな品種のバラが、寒風の中でもなお咲き誇っている。計算し尽くされた栽培エリアにより、美しい花々は、存分に太陽の光を浴びることができる。またそこは愛に溢れた場所でもあり、多くのカップルがここで挙式し、晴れの喜びの場所となっている。

知っていますか？

ホテルニューオータニは一貫して「総合的省エネ型ホテル」の実現を目指し、お客様の快適さと環境保護を最優先に考えるとともに、一連の措置を取ることで両者を両立させている。見学の中で知ったのは、ホテルニューオータニが独立した天然ガス発電システムを持っており、ホテルで日常使う30%の電気を供給することができるということだ。このような天然ガス発電は、従来の発電方式よりも環境にやさしいだけでなく、さらに特殊な状況下でもホテルの電力供給を保証、お客様により快適な環境を作り出すことができる。例えば2011年3月11日の東日本大地震の後、東京では計画停電等の一連の節電措置を実施し、多くの会社が影響を受けた中、ホテルニューオータニでは、自社の独立発電システムのおかげで、ホテルの日常運営にはまったく影響がなかった。

ホテルの厨房で生じる生ごみも回収・再利用され、ホテル自前の設備の処理により有機肥料に生成、ホテルニューオータニの野菜業者が、生産された有機肥料を使い、再び野菜を栽培する。それにより生ごみを活用するだけでなく、さらにホテルの野菜・果物の品質を保証することができるのである。

宴会フロアには、ホテル独自の特色であるバラ園があり、野外挙式の理想の場所である。実はバラ園の美しい花々はすべて、処理後の中水を与え、生ごみによりできた肥料で育ったものである。

循環利用を実現するため、ホテル地下の環境保護施設は、網の目のように通路が張り巡らされ、往来には非常に便利である。初期の無計画な設計のために後の拡大発展が阻害されないよう、ホテルの環境保護施設の絶妙な配置は、建設の当初に周到に設計されたものだそう。このような細心の考慮も、多くの再工事のエネルギーと資金を節約することに繋がっている。

感想

中国にもホテルニューオータニのような豪華な施設を持ち、周到なサービスを提供するホテルはたくさんあるが、このホテルのように完全な資源循環利用システムを持ったホテルは、恐らくまだ登場していないだろう。それが意味するのは、資源に対する姿勢、ならびに環境保護への観念上の違いである。中国が発展途上の人口大国として、どのように人と自然の関係を処理するのか、経済発展と持続可能発展の関係を処理していくのかは、すべて大変重要な課題である。ホテルニューオータニのような循環措置は、私たちにとって大変重要な参考価値があるだろう。これは非常に現実的な問題である。導入当初には確かに一部のコストがかかるかもしれないが、その後の収益は、相当なものになる。ホテルニューオータニが、すでにその点を証明してくれているのである。

ホテルニューオータニは、ホテルの斬新な発展モデルを示したといってもいいであろう。インフラとサービスレベルを上げると同時に、積極的に自然に融合し、ホテルの運営過程でチャンスを見出し、ごみを宝に変え、コストを節約するのである。これは世界的なホテル業のインフラ、サービスが比較的発達している現代において、この産業の発展に新たな発展の道を示したと言え、深く感銘を受けた。

学生たちの感想文から

学生たちは毎晩、一日のスケジュールを終えてから日記形式の感想文を書き、第11回訪日の記録とした。以下、その一部を紹介する。

日 付：11月25日（日）1日目

大学名：北京大学

氏 名：于曉霞

今日のほとんどのスケジュールは慌しい中で過ごしたが、日本の印象は私を震撼させるのに充分だった。その中で最も強い感動を覚えたのは、日本のサービスが人の身体や心に喜びをもたらしてくれるということだ。この点に関しては、今朝、日航の飛行機に乗ったときからすぐに強く感じていた。すべての乗務員の話しぶりはとても礼儀正しく真心がこもっており、乗客の要求に対しては常に笑顔で応対し直ぐに処理してくれる。出迎いのバスの運転手さんも何事に対して多少しも手を抜かず、トランクもきっちりときれいに積み込んでくれた。夕食のレストランの従業員もひっきりなしにテーブルとテーブルの間を往復し、私たちに一生懸命サービスしてくれた。実際、これらのサービスは中国でも享受することができるのだが、この日本人たちは、自分の仕事に対して深い愛情を持っているんだと私に感じさせてくれた。みんなサボることなく、大変一生懸命頑張ってやっていた。この点について私は、つまり彼らのサービスの対象である私は、彼らの熱意のこもった勤勉な姿勢に感化されてしまった。これらの人達の背中から、私は初めて日本人という民族の、生活を愛し、意欲的に前進するという民族精神を感じ取ることができた。

成田空港から市内に入る道すがら、私が最も気になったのは町の環境である。環境学院で学ぶ学生として、現在の中国の環境が劣悪であることをよく知っている。私たちの世代が早急に改善しなければならない問題である。東京の緑化率はとても高く、心を和ませ目を楽しませてくれる。しかも、北京との一番の違いは空気の質の差である。北京を離陸したとき、空気中には消えてくならない煙塵があったような気がしたが、東京に着陸する際には、すでに透き通ったきれいな新鮮な空気になっていた。確かに、日本の海洋性多雨という気候は汚染物質を洗い落としてくれるのに有利だが、私は最も重要なのは、日本の汚染処理技術が発達していることだと考えている。ゴミ焼却を例にとると、北京にゴミ焼却場を建てようとする場合、近隣住民の反対デモが起り、最終的に取止めるしかない。しかし、東京のゴミ焼却場は子供たちが遊ぶ「夢の島」に変わり、観光客の楽しむ場所となっている。この両者の違いに私は驚いた。もし中国の汚染物質排出企業がすべて日本の企業と同様に、汚染をエネルギーに変え、汚濁をクリーンに変えることができるなら、中国の汚染問題は当然自然と解決するでしょう。今後どれほどの歳月が経てば、中国の工場や企業は日本と同じように、住民と平和的に共存することができるのだろうか。

日本の美食にもとても興奮した。手の込んだ各種お菓子、街角の軽食、伝統的な居酒屋など、それぞれに特色がある。しかもそれらのお店の看板はどれも大きく、中には巨大な機械の模型を置いて特徴をアピールしているお店もある。以前テレビでしか見ることでできなかったこういったありさまが、今日ははっきりと目前に展開され、手に触れられるところにあるのだ。旅というものは自分の視野を絶えず一新していく過程である。わずか半日の日本滞在ではあるが、私はもうすでに深く感じ入り、さらにより多くのことを知りたいと思った。この12日間は私にとってこの上もなく充実した、極めて収穫の多い旅となると信じている。

今日ただ一つの心残りは、宿舎に到着したのが大変遅かったため、天守閣の夜景を見に行くことができなかったことだ。天守閣は大阪にある古城で、今は大阪のシンボルとなっている。日中両国の特色が溶け合った楼閣で、この工業都市の中にあって格別な静かさと威厳を放っている。カーテンを開けると、灯りに彩られた天守閣の美しさと、天守閣が守る大阪城の愛おしさに思わず感嘆してしまった。

おやすみなさい、天守閣。

日 付：11月25日（日）1日目

大学名：北京師範大学

氏 名：喬天源

1日中飛行機に乗り、しかも2回乗り継いだので本当に疲れたが、成田空港に到着した時、本来なら興奮しているはずなのに、外国へ来たという感じがしなかった。成田空港は首都空港と同じく近代的で、到る所に漢字が溢れていた。一瞬自分がまだ北京にいるような感じがした。傍らを通り過ぎる女の子が甘えた声で母親に「ママ、トイレ行きたい」というのを聞いた瞬間、突然ハッと意識を取り戻し、ああ、本当に外国に来たんだと実感した。

飛行機の客室乗務員であろうと、夕食のバイキング会場のサービス係であろうと、そのやさしい笑顔と細やかなサービスはみんなの心をほのぼのとさせ、行き届いた親切なサービスに確かにわが家に帰ったような気がした。

夕食のバイキングは牛肉と羊肉のしゃぶしゃぶだった。初めての本場の日本料理と言えるだろう。みんなとても楽しく食事をとったが、それは初めて外国に来たという興奮もあるからなのだろう。もちろんお腹がぺこぺこだったという無視できない面も確かにある(笑)。

ホテルに戻り、窓を開けると思いがけず前方正面に天守閣があった。澄み切った灯りと周囲の木々の緑がお互い引き立て合い、そこには静寂やもの寂しさそして、厳粛さや世の移り変わりの激しさが漂っていた。明日の朝早起きして天守閣を見に行こうと、文さんと約束した。

すぐにでも知りたいという新鮮味により、まだまだ気持ちが高ぶっていた。明日は天守閣から始まる。自分の目で、耳で、鼻でたつぷりと日本を感じよう。身近にあるすべてのものに触れ、今回の旅を満喫しよう。

大変楽しみにしております！

日 付：11月25日（日）1日目

大学名：北京化工大学

氏 名：黄改

2012年11月25日、この日は私の人生の中で最も思い出に残る一日だった。今日はまるで夢のように終わってしまった。私はこれまで、自分が外国に行くチャンスに恵まれ、別の文化に触れ、別の国に身を置き、こんなにはっきりとその国の脈拍を感じることができるなんて、考えたことがなかった。今日は訪日の初日だというのに、私はもうしきりに驚き、感心ばかりしていた。

全日空と日航の国際線と国内線の飛行機に乗ったが、最も行き届いた、最も人にやさしいサービスとは何なのかを深く理解させてくれた。空港のスタッフであれ客室乗務員であれ、私たちの旅が快適なものになるよう、みんな心からの笑顔で接してくれた。例えば、細かいことでは、テレビのチャンネルを合わせてくれたり、いろんな種類の飲料を用意してくれたりした。大きなことでは、乗客を安心させるよう、みんながシートベルトを着用しているかどうかチェックしたり、飛行状況を随時アナウンスしてくれた。

バスの中では、呂純明さんと渡辺さんが車窓から見える場所や物に隠されている日本の科学技術やその将来的見通しを紹介し、私はその都度日本人や日本という国に感服した。日本人は、昔から時間厳守し、法律を守り、何をするにしても、最も合理的な材料を使い、最も質の良い、最も人のニーズに合致するというのを極力努力して行い、また、教育を国の発展の最優先課題として位置づけ、物事を鵜呑みにせず、小さなことを基礎に、着実に大きなことを成し遂げている。ここまで書いて、私はふと気がついた。つまり、この緻密さや真面目さを拠り所として、日本は世界の強国の一つとなり、またその後も進歩を続けている。

今日の旅程の中で強く印象に残っているものとして他に日本の環境がある。飛行機から見た整然とした田畑、大きく広いグリーンベルト、バスの車窓から見えた道路の両側の青々とした並木、青く透き通った海水と青い空。このことも、高度経済成長と環境保護は両立できるということを、私たちにはっきりと認識させてくれた。

今この時まで、私は飛行機に搭乗したあの瞬間と同じように、気持ちが高ぶっている。日本——ここにはまだまだ

私が学び、感じるべきことがたくさんある。私はその息吹に寄り添いながら、日本と一体化し、真に日本を理解し、日本を好きになるだろう。

日 付：11月26日（月）2日目

大学名：北京師範大学

氏 名：文勝男

今日は日本での公式日程の2日目であるが、初めての企業訪問の日であった。午前中はPanasonicエコテクノロジーセンターを見学し、大変な衝撃を受けた。一台の廃棄処分されたテレビ、エアコン、冷蔵庫にあんなに多くの利用可能なものがあり、回収した資源をリサイクルして、商品を再生産すればどれほど多くの資源を節約することができるのだろうか。プラント設備を前にして説明を聞いていた私はふと、日本語を学んでいることは喜ぶべきことで、学んだことを実際に役立てることができるのは、この上ない満足感を感じさせてくれるものだった。中国の現在のリサイクルの状況と比べてみれば、厳しい現実が心が痛む。可能であるなら、将来中国がこのような設備を導入し、環境保護のための一助とすることができれば、日本語を学んだことも無駄にならないのではないかと感じた。

でも、私には疑問が残った。Panasonicが回収した家電製品は4、5種類だけだが、その他の家電製品はどうするのだろうか？回収の専門会社或いは組織が回収しているのだろうか？或いはその他の家電製品は大型ではないので回収しないのだろうか？質疑応答の際に挙手したが、時間の関係で質問する機会がなかったことが少し残念である。

午後のプログラムにも感動した。まず、高台寺で茶道体験をした後、清水寺を見学した。高台寺は豊臣秀吉の妻である高台院が修行したお寺なので、高台寺と呼ばれている。私は今学期の「国慶節」の長期休暇の際に、40数回にわたるNHK大河ドラマ『江～姫たちの戦国』を数日間かけて見ていた。私はこのテレビドラマで初めて高台院のことを知ったのだが、彼女の身の処し方は賞賛に値する。その当時は、自分がこんなに早く高台寺に来るチャンスに恵まれるなんて考えたこともなかったのにと感じたとき、私は自分が本当にラッキーで幸せ者だと思った。

私は日本語を学んでいるので、平素の勉強の中でも日本の社会、文化等について理解を深めることはできる。茶道については、ビデオ、書籍等を通して勉強したことはあるが、今回実際に茶室にて日本の伝統である正座により茶道を体験した。このような体験は書籍では出来ないもので、私は再度自分の幸運を感じた。

日 付：11月26日（月）2日目

大学名：北京化工大学

氏 名：白智群

今日は来日2日目、主要プログラムの初日であり、見学のテーマは環境保護である。

Panasonicエコテクノロジーセンターは松下の会社である。こういう大企業は利益のみを重視するというのが私の印象だが、しかし、Panasonicエコテクノロジーセンターは意外にも利益はほぼゼロであり、国の環境保護に貢献すべきとするその理念はとても貴いものである。これ以外にも、Panasonicは地域との共存も重視し、常に近隣の住民に対しPanasonicは近隣住民の生活に影響を与えることはしないと説明しているが、中国国内ではこういった状況は非常に稀である。

大企業は国の環境保護に貢献するという理念を持ち、日本人も環境保護の重要性を認識している。このことがPanasonicの事業が成り立つ主な要因となっている。日本人が使用済み家電のために2000円～5000円の処理費用を支払って、使用済み家電の回収リサイクルを支援する必要があるということを誰が想像できるだろうか。将来中国も日本と同じようにこういう処理をしてほしいと思っているが、その実現はそんなに遠いことではないと私は信じている。なぜならPanasonicはもうすぐ杭州に同様の工場を設立し、我々の回収リサイクルを手助けしてくれることになっているからだ。

私は高台寺と清水寺の見学で日本の美しい景色を堪能し、茶道体験によって文化を守ることの重要性を理解した。今日のプログラムでは多くの驚きと喜びがあった。明日を心待ちにしている。

日 付：11月26日（月）2日目

大学名：外交学院

氏 名：韓旭

今日は全員で兵庫県にあるパナソニックエコテクノロジーセンター（PETEC）を見学した。このセンターではたくさん のことを学んだが、それと同時に日本人がリサイクル技術を重視し、その実現のために努力していることに感動を覚えた。回収したすべての家電製品はまず分解、分類、粉碎し、その後選別という工程を経なければならないので、回収物の分類収集技術が決定的な役割を担っている。中でも「近赤外線プラスチック選別機」というプラスチックを分類する先進的な機械にみんな強い関心を持った。この機械は、材質の異なるプラスチックが近赤外線を反射する波形と波長の違いを利用し、圧縮空気を正確に吹き付けることにより、加速度と慣性を用いてターゲットであるプラスチック材料を打ち落とし回収するものである。この機械の原理は大変簡単だが、発想はすばらしい。この他、フロンガスなどの回収方法についても、みんな強い興味を示した。松下がこの産業でわずかな利益しか得てないということを知ったみんなには疑問が生じた。わずかな利益しかないのに、なぜこんなに多くの労働力や物資をこの産業に投資するのだろうか？企業の創業目的と相矛盾するのではないか！しかしながら私は、そういった中で松下に勤務する人達、そして「有料回収」を支持している60%の日本の国民の価値観が、この当面の状況に対して決定的な役割を果たしているのではないかと考えている。日本では、「粗放型」の経済発展モデルはすでになくなり、資源に乏しい国としては、自国の持続可能な発展ということを考えざるを得ないのだ。これは百年の大計である。廃棄物のリサイクルはその中の極めて重要な一部分であり、その公益的意義は経済的意義を大きく超えている。資源がないということは、よりよい生活どころか、基本的な生活すら保証できないかもしれないのだ……。変革が起こるくらい、より多くの中国人がこのことに気付くよう、心から願っている。

昼食後、私たちは日本の美しい古都——京都を訪問した。雨に煙る京都の町は少し寒かったが、かえって静謐をもたらし、世の変転を感じさせてくれた。私たちはまず高台寺を訪問し、茶道を体験した。40分間余の正座にはなんとか耐えたが、その代償はかなり大きかった。数時間後私がホテルに戻り休憩するまでずっと、足の先が痺れていた。正座を終えた直後はなおのことひどく、立つことさえできなかったのだ！茶道の先生が立てて下さったお茶はとても美味しく、前かがみでお茶を立てているときの先生の所作はとても上品で控えめで、「大和撫子」を彷彿とさせた。

その後、私たちは慌しく清水寺に向かった。すでに黄昏が近づき、小雨が降る中、私たちは世界的に名を馳せる神社を参拝し、様々なお守りを買ひ、おみくじも引いた。結果は半吉だったが、今までくじに当たったことなど一度もない私は、この「吉」とついたおみくじを引き当てたことがとてもうれしかった。もちろん、清水寺に来たからには、「鎮寺の宝一音羽の三泉」を見逃すわけにはいかない。私は幸運にも財運のご利益のある水を飲むことができた。

当日の夜、私たちは京都の噂の「懷石料理」を味わった。聞くとところによれば、懷石料理は日本ではお客様をもてなす際の最高級の料理だということである。でも、残念なことに、私は生ものが少し苦手なので、この懷石料理の雅な趣を充分味わうことができなかった。

ここで特に取り上げたいのは、京都ではいたるところで紅葉のグラデーションが見られ、この古都の町をより一層優雅な雰囲気包んでくれたということだ。清水寺の境内から遥か遠くに目をやると、多くの緑に混じったその深紅が感動的で美しく、小雨に洗われて更に一層鮮やかさを増し、そのまばゆさに私は目を奪われた。

時間の関係で、京都の街をそぞろ歩きしながら名物を味わうことができなかったことが、残念でたまらなかった。私は、必ずもう一度この町に来ようと思った。

日 付：11月27日（火）3日目

大学名：北京理工大学

氏 名：蘇杭

毎日がとても充実していて、一日一日それぞれ新たな収穫があった。今日私たち訪問団は防災センターを見学し、午後は同志社大学の学生たちとの交流を図り、お互いの共通の関心事について討論を行った。また、大学で丁度行われていた「学園祭」を見学し、最後に同志社大学の友人達との懇親会に出席し、お別れとなった。

日本は地震帯に位置する地震多発国であるが、このような情勢に対し、国や国民全体が、各種の状況を改善するために努力している。自然災害に対して人類はなすすべもないが、人々のさまざまな取組みにより、災害のもたらす損失を大幅に減らすことができる。国は多くの対策、例えば、建物を補強する、建物の基礎地盤を厚くする、地震防止指揮センターを設立するなどさまざまな対策を講じているが、人々は自分の置かれた状況を決して否定的には捉えず、逆により一層結束し、知恵を絞り、積極的に乗り越え、この状況がもたらすであろう最悪の結果を改善しようと努力している。私たちの目の前にいるのは、たくましく、自信にあふれた、勇敢に困難に立ち向かう強い民族である。防災センターはただ単に展示しているだけでなく、これまで起こった地震を追悼し、人々に警告し、重視するよう促すとともに、如何にして災害を防止するか、地形を利用してどう自分や家族を守るかといった内容も含まれている。このような防災センターの存在は国内外の多くの人々にこういった危機意識を持たせ、より一層地球を愛し、一生懸命働いて、身近な人を大切にするなど、根本からすばらしい考え方を育んでくれるのである。これは、国の発展にとって非常にプラスになることである。

同志社大学の学生との交流は大変楽しいもので、私にとって非常に忘れがたい思い出となるだろうと思っている。私の人生において、こんなにたくさんの外国人と心おきなく話したのは初めての経験であり、両国、ひいては全世界の友好を思う気持ちををはっきりと感じた。文化的背景は異なるが、私たちと同じく活力ある潑刺とした青年たちとの交流で、友情や討論の結果以外にも、視野の拡大、思考の解放を得ることができた。しかも今年は、日中国交回復40周年という記念すべき年にあたり、また多くの課題に直面している時期なので、日本の大学生とこのような交流の機会を持つことは非常に意義深いことであり、重要な意味がある。私たちの討論グループのグループ長である平田篤史先輩は、とても親切な方だった。彼は私たちとの活動に楽しそうに参加し、上手な英語を操り私たちとのコミュニケーションもスムーズに進んだ。私たちのグループは「両国の若者たちのトレンド」について十分に話し合った。その中で私たちは、両国の同年齢の人達には多くの共通点があり、また面白い相違点が存在していることに気が付いた。それ以外に最も印象深かったのは、平田先輩が、日本の学生は中国のことが好きで、友好的な気持ちを持っていると教えてくれたことである。日本には、中国に対して偏見を持ったり、良くない見方をしている人はいない。このことは、今回の交流イベントへのボランティアの申し込みにもはっきりと表れており、多くの学生が中国の大学生との交流に関心を持っていた。

懇親会が終了し、私たちがバスに乗り会場を離れる際、車窓の外は離れがたい気持ちで一杯の温かい人達であふれ、車窓の中には同じく別れがつかなくて、感動で胸が一杯になった私たちがいた。

車窓の内と外には、中国と日本という2つの国の人達がいたが、友好の思いがお互いをしっかりと結びつけていた。私たちは両手を挙げ、お互いに手を振りながら別れを惜しんだ。2012年11月27日、日中両国の大学生同士の貴重な友情、この感動的な場面は永遠に私の記憶に残るだろう。

日 付：11月27日（火）3日目

大学名：北京師範大学

氏 名：朱曼青

今日は訪日の三日目である。毎日大変充実しており、様々なスケジュールがびっしり無駄なく組まれており、日本人の時間厳守の習慣を改めて感じた。

私は向学心に火がついたように早朝からホテルのロビーにおいてコンシェルジュに話しかけ、目にした日本語を手当たり次第カメラに収めた。日本の美しい文字にも日に日に慣れてきて、目新しい単語を見つけると胸が高鳴った。

今日、最初の訪問先は阪神淡路大震災記念館・人と防災未来センターである。ここでは2二人の華僑のボランティアの方にお世話になった。私達の訪日スケジュールなどを熱心に尋ねて下さり、その台湾、香港訛りの中国語には親近感が湧いた。特に年配の方が話す中国語は時々日本語の「ね」が混じっており、優しさ以上にお年寄り特有の可愛らしさを感じた。ここでは映像を通して阪神淡路大震災の惨状を目の当たりにした。私達にとっては中国の四川大地震も記憶に新しいところだが、このセンターでは震災当時の映像が生々しく記録されており、崩れた壁やその惨状を目にすると胸が押しつぶされるようなより強烈な衝撃を受けた。また、翻訳自動案内機が足らなかったのも私達日本語専攻の学生は翻訳機なしでの見学となったが、日本語のブラッシュアップにはいい機会となった。どの展示も大変興味深く、映像を見た後はボランティアのお二方から色々な模型で日本の耐震建築の原理や応用について説明頂いた。耐震、免震構造には莫大なコストがかかるが、日本のような地震多発国には必要不可欠である。日本はちょっとした技術原理を実践に应用到することに非常に長けていると感心した。

昼食には初めて温めたお弁当を食べ、その後、同志社大学へと向かった。

実は同志社大学は中国ではあまり知られておらず、私自身も同志社大学についての知識はほとんどなかった。しかし、今日の午後の交流で同志社大学に好感を持った。キャンパス内は清潔で整然としており、建物がバランスよく配置され、学生達も親切で礼儀正しく、初めて参加した学園祭はどれも大変印象に残った。グループ別のディスカッションでは同志社の学生さんは私達が聞き取り易いようにゆっくりと話してくれた。また学園祭の合間には同志社の学生さんにたこ焼きをご馳走になった。ずっと前から食べたいと思っていたタコ焼き、本場の味とまではいかないが、学生さんの手作りということでより一層美味しく感じた。

私は彼らの明るく誠意の溢れる笑顔、創造的な考え方がとても好きだ。彼らと接していると日中間の政治的な摩擦などは元から存在せず、友情あるのみという気さえした。

今、私は新幹線でこの日記を書いている。先程の整然とした乗車風景を思いながら、明日への期待がより高まった。

日 付：11月27日（火）3日目

大学名：中央民族大学

氏 名：劉詩堯

昨晩は2時近くに就寝し、今朝は6時半にモーニングコールで起こされ身支度を整えた。今日一日ハードスケジュールだったのでさすがに疲れ、京都から名古屋の新幹線の中では眠くて仕方なかったが、本当に充実した一日で、日本の友人もできた。

午前中は神戸の阪神淡路大震災記念館・人と防災未来センターを見学し、1995年に発生したマグニチュード7.3の阪神淡路大震災を再現した3D映像と震災前後の被災地の比較映像等を見た。地震発生後、瞬く間に家屋は倒壊し地盤が沈下し、僅か10分足らずの間に街全体が廃墟と化し、瓦礫の山となった。何万トンもの瓦礫の回収と復興には10～20年かかるとされ、復興までの期間多くの被災者は慣れ親しんだ我が家を離れ仮設住宅での生活を余儀なくされた。しかし、こうした災害の後こそその民族の底力と意志が試されるのだと思う。大地震と言えば中国でも震度8の四川大地震により一つの都市が一瞬にして廃墟と化した。四川大地震では全中国人は一丸となり力を合わせ被災地に支援の手を差し伸べた。そして僅か1ヶ月で被災者は安全な生活を送れるようになったのである。阪神淡路大震災も震災の半年後には瓦礫が見事一掃されたわけだが、ここには祖国を愛し困った人がいたら手を差し伸べるという日中の共通点があると思う。またこうした時こそ真の人間性が問われるのだと思う。ビデオの中に震災で姉を失った少女が登場したが、この少女は避難所で人々の温かさに触れ互いに励まし助け合う中で再び生きる希望を見つけ、人生の目標を持つことができるようになった。このように人の逞しさ、命の輝きは安きに居て危うきを思うという心構えと常に感

謝の気持ちを忘れてはならないと私達に教えてくれている。

午後は同志社大学を訪れ、同志社の学生さんと討論をした。私はアダムがリーダーを務めるFグループになり、各テーマの中でも一番面白そうな「parents' perspectives on students' love」(学生の恋愛についての親の考え方)について討論をした。日本と中国の親の考え方の違いから両国の習慣、若者の恋愛観や恋愛の仕方、そしてプロポーズ、婚約、結婚、ハネムーン、結婚相手に求める条件などについて大変意義深い話し合いができた。また同志社の学生さんと英語で交流出来たことは、これまで学んできた英語力を試すいい機会でもあり、私自身としても楽しむことができた。夜の懇親会では日本の学生さんからプレゼントを頂き、互いの連絡先を交換した。大菅さんは楽しく美しい日本の歌を持ってきて、浅井さんは簡単な日本語を私に教えてくれた。皆さん本当にありがとう。お別れの時は本当に名残惜しく、手を振ることしかできないのがもどかしく感じた。あの次第に小さくなっていく姿はいつまでも私の胸に焼き付いている。

今日はここまで。明日は何と言っても温泉が楽しみだ。

日 付：11月28日（水）4日目

大学名：北京化工大学

氏 名：胡齊峰

今日はトヨタ自動車堤工場を見学した。トヨタ自動車は日本の自動車市場の半分以上を占める自動車業界最大手である。またハイブリッド車の技術は世界トップレベルにある。

堤工場ではまずはんだ付けの工程を見学した。補助ロボットが車のボディの千カ所にも上るはんだ付けをすごいスピードで正確にこなしていた。私は電子情報工学の自動化が専攻なので良く分かるのだが、このように高速で正確かつ複雑なはんだ付けの作業は、簡略化を進めた大量のプログラムコードによって支えられているのである。また、正確な位置の把握にはどのような技術が採用されているのかまだ私には分からないが、恐らく理論上は平面から立体への変換を行えばよいのだと思う。いずれにせよ、これは沢山の従業員の知恵の結晶に他ならない。続いて出荷前検査の過程を見学した。トヨタの自動車は店頭に並べられる前に千項目余りの安全チェックを受けていることを知った。経験を積んだ作業員が一つ一つチェックしていく。また品質を保証するためこのラインの照明は一般の照明よりも3倍明るく設定されており、欠陥商品が市場に出回らないよう厳しくチェックされている。トヨタの生産ラインにはある特別な仕掛けがある。白い紐とアンドンと呼ばれる電光表示板だ。アンドンには生産ライン上の各工程番号が表示されるようになっており、作業員が異常を見つけ白い紐を引くとアンドンにその異常が表示される。アンドンに工程番号が表示されるとチームリーダーが状況を把握し、問題解決後に再度白い紐を引くとアンドンの表示が消える。これはトヨタの「自動化」の作業理念を象徴しているといえる。従業員が問題を発見するのを奨励し、会社側もこの白い紐を引くことを提唱しているのである。こうすることで問題が発生しても出荷品質をしっかりと保証できる。このようなフィードバックシステムはあらゆる機械製造業にとって大変重要である。生産作業の進捗状況を把握することが必要となるが、それには判断基準が必要で、実際の作業の進捗状況をこの判断基準と照らし合わせ、問題をフィードバックさせることが必要なのである。

工場から出ると工場の屋根に大きな太陽光パネルが設置されているのが見えた。今日、太陽光パネルは特に珍しいものではないが、太陽光エネルギーは無尽蔵のエネルギーであるのでこれを積極的に開発していくことは大変重要である。また、これ以外にも工場上部の外壁には光触媒を塗装しており、化学変化により塵が屋根に付着しないように工夫していた。これは素晴らしいアイデアで、限られた空間と資源を生かし生産による環境への悪影響を低減させているのである。

日本の工場は工場近隣の住民と良好な関係を築いており、一緒に話し合ったり問題の解決に取り組んだりしている。トヨタも例外ではなく地域住民と植樹などの活動を行っている。一方、中国の状況は日本とは正反対で、企業は企業利益のみを追求し、地元政府は政治的な得点稼ぎに躍起になっており、環境や住民の健康問題などそっちのけで

危険な施設や工場を居住区の近くに建設している。企業、政府と住民の間の軋轢は深まるばかりで社会問題に発展し、多くの人が反対デモに参加し、人々の政府に対する信頼は低くなるばかりで、社会の安定を図ることが益々難しくなっているのが今の中国の現状である。幸いなことに中国も少しずつ今の発展モデルは長続きしないことに気付き始め、そして人を基本とした理念を掲げ、持続可能な科学的発展観を推し進めている。中国の企業も日本の企業に習い、人の力を信じ、地域住民と一丸となって問題解決に取り組んで欲しいと思う。そうしてこそ事業も着実に推し進めていくことができると思う。

夜は学生間の親睦を深める懇親会が開かれ、様々な余興が披露され、互いにお酒も酌み交わした。そのあと湯元温泉(天成園)で温泉に入った。本当に癒され血行も良くなったが、今はもう眠たくて仕方がない。

明日が楽しみだ！それでは、お休みなさい。

日 付：11月28日（水）4日目

大学名：中央民族大学

氏 名：郭磊

今日はとてもいい一日だった。ホテルで朝食のビュッフェを済ませた後、私達は日本最大の企業―トヨタ自動車の堤工場とトヨタ記念館に向かった。ここでは先進国日本を支える進んだ科学技術を目の当たりにすることができた。

トヨタ堤工場に到着するとまずガイドさんがトヨタの環境保全への取り組みについてお話し下さった。この数日の間にも日本人全体の環境意識の高さを強く感じた。子供から老人まで常に環境に配慮しているようだ。しかし中国では環境問題に関心を持っているのは主に若い世代に限られ、全体的に環境への意識はまだ低いと言える。トヨタ自動車を一大企業に育て上げたのは、何といってもその技術力に他ならない。自動車ができるまでの全生産過程を見学したが、車の金型プレスからはんだ付け、組み立てに至るそこかしこにトヨタの進んだ技術を見て取ることができた。ロボットが正確にはんだ付けをしており、その自動化率はなんと95%で本当に感心せざるを得ない。しかもロボットが行うのは単一作業ばかりではなく、生産車種によって違う作業を行っているのである。どのようにしてそれが実現可能なのか私にはさっぱり分からないが、異なる車種ごとの作業内容全てをロボットにプログラミングして制御しているのだろうか。本当に驚きだ。また、工場を出ると魚が水中をスイスイ泳いでいるのが目に入った。私達はてっきり工場の環境を快適にする一環で魚を飼っているのかと思ったが、なんとその水は生産過程で出た排水を浄化したものを使っているというのだ。

トヨタ記念館は堤工場よりも更に興味深く、各種完成車や楽器を演奏できるロボット等、至る所に科学技術の息吹を感じることができた。ここではトヨタの中国事業の歩みと中国での経営理念について聞くことができた。トヨタは「In China, for China」を掲げており、利益を追求するだけでなく、国内そして海外に置いても自分の為ではなく、人の為をモットーに事業を展開しているとのことだ。トヨタ自動車の環境保全助成金や中国での自動車生産が中国の科学技術や経済の発展に貢献していることを強く感じた。中国の日系企業はトヨタ自動車だけではない。中国の経済発展は日本なしでは不可能であり、日本企業の経営理念は中国の人々の考え方にも大きく影響していくことだろう。日本企業から学ぶ所は沢山ある。

とうとうずっと楽しみにしていた温泉に入る時が来た。箱根の山あいにある温泉宿に到着した時には、外はもう暗くなっていたが、みな興奮を隠しきれず、部屋に荷物を置くとすぐにタオルなどを持って温泉へ向かった。私も温泉は初めてである。暖かいお湯の中につかると立ち上がる湯煙の後ろに丸い月が顔を出しているのが見えた。その瞬間、日本人は本当に幸せだなと感じた。日本人は長生きで100歳を超える老人も沢山いると聞く。きっと温泉も長生きの秘訣の一つなのだろう。

夜の懇親会とはとても盛り上がり、食事をしながら、歌を歌ったり学校ごとの余興を披露したりと本当に楽しいひと時だった。改めて私達にこのような機会を与えて下さった全ての方々への感謝の気持ちが湧いてきた。ハードスケジュールの一日が終わりようとしている。今日の素晴らしい一日をいい夢で締めくくることが出来ればいいと思う。

日 付：11月28日（水）4日目

大学名：外交学院

氏 名：馬瀟華

「どこにも必ず道が開ける、道ある所にトヨタ車あり」と言いますが、遂に待ちに待ったトヨタ自動車見学の日がやって来た。

解説をして下さったのは来日して20年以上もたつ中国出身の女性である。この数日、多くの日中間を行き来する方々にお会いすることができ、「一衣帯水」「日中両国の古くからの付き合い」の意味を改めて強く感じる事ができた。

私はこれまで工場の生産ラインといえば大きな機械が沢山あり、その中で作業員が忙しそうに働いているという、いわばチャップリンの「モダン・タイムス」の場面のようなものを想像していたのだが、実際に工場に入ってみると最終検査の工程で3、4人の作業員が働いている以外、他の工程ではほとんど人を見かけることはなく、その代わりラインの両側では沢山のロボットが一生懸命作業をしていた。ロボットは私が想像していたように大きなものではなく、コンパクトで小回りが利くものだった。大卒ができて上がったばかりの車が運ばれて来て停止した途端、数台のロボットが車の下に潜り込んだり、車の中に入ったりしてはんだ付けの作業をしていた。一瞬で定位置につき作業に取り掛かり、まるでF1レースのガソリン給油やタイヤ交換の場面のようなようだった。作業を完成させたロボットはアームを収納し、元の位置に戻り緑のランプを点灯させて待機している。その様子がとても可愛らしかった。

一つの生産ラインでも異なる車種を製造しており、サンルーフがあるタイプ、ないタイプと車種も様々だが、ロボットははんだ付けの位置や数を自分で判断できるのだろうか。解説の方によるとトヨタはお客様のニーズに答えるため、生産ラインの車種、カラー、仕様等を注文順に設定し、ロボットは自分で車種を判断し何処を何カ所はんだ付けすればいいのか分かっているとのこと。ロボットがこんなに賢いなんて思いもよらなかった。

午後は新幹線に乗って温泉のメッカ箱根へ向かった。前回乗車したのは夜だったので外は真っ暗で何も見えなかったが、ラッキーなことに今日は雲一つなく晴れ渡っていたので、遠くに富士山を望むことができた。雲の中に浮かび上がった富士山は一際美しく、沢山写真を撮った。中国に帰ったら家族に見せたいと思う。

日 付：11月29日（木）5日目

大学名：北京理工大学

氏 名：劉滄洋

今日は訪日5日目である。名残惜しい気持ちで箱根の温泉を後にした私達は横浜へ向かい日揮を見学し、続いてまた東京に戻り丸紅総合商社を見学した。夜は東京の街へ繰り出し、日本を肌で感じる事ができた。

昨日、箱根の温泉旅館に到着したのは夜だったので、私達は今朝初めて箱根の美しい景色を拝むことができた。そこには紅葉で色づいた山々、澄み渡った青い空、静かで長閑な景色が広がっていた。

今日見学した日揮の前身は日本揮発油で、そこから徐々にEPC業務をメインとする会社へと成長したとのこと。EPCとはEngineering, Procurement, constructionを指す。同社は大型プラント、プロジェクトの請負により利益を得ている。まず初めに日揮の業務内容を聞き、それからいくつかのグループに分かれて私達が考えた架空のプロジェクトについて日揮の社員の方々と1時間程の話し合いを行った。私達のグループのテーマは総合発電所の建設である。クリーンな新エネルギーを利用し、発展の遅れている沿岸地域における総合発電所の建設を推し進め、地域間の格差を是正し、また世界のエネルギー産業をリードし、よりクリーンなエネルギーの利用を目指すというプランである。他のチームも自分達のプランについて話し合いを進めていた。その後、昼食は日揮の社員の方々とご一緒し、日本社会に対する理解をより深めることができた。

丸紅を見学する前に訪れた皇居はとても美しかった。丸紅は総合商社である。しかしこれまで私は総合商社とはどういった会社なのかよく分からなかったが、丸紅の社員の方が丁寧に説明して下さいのおかげで、総合商社とはただの貿易会社ではなく、上流、下流のサプライチェーンを抱えており、サプライチェーンを広げることに利益を更に拡

大することが可能であると知った。また、丸紅にはきちんとした価値評価システムがあり、各投資プロジェクトを慎重に評価した上で実際の投資を進めている。丸紅の社員の方とお話する中で丸紅は中国のプロジェクトも沢山抱えており、中国の事業に大変関心を持っていることを知った。これらは全て日中の良好な友好関係に支えられているのだと思った。

夜はホテルの周辺を散策し、日本のお土産をたくさん買った。また多くの店で中国人を見かけた。残念なことに途中で雨に降られ、早々とホテルに引き返すことになった。

また明日が楽しみだ。

日 付：11月29日（木）5日目

大学名：北京師範大学

氏 名：林秋文

遂に丸紅総合商社見学の日がやって来た。丸紅は投資、貿易事業に従事する日本最大の総合商社の一つである。部門が多く、業務は多岐にわたるが、柔軟な経営を行っており、その収益の高さには驚かされた。私が最も感心したのは「リスク資産」という考え方である。発生するであろう損失を事前に想定し、資金準備を進めたり、プロジェクトの内容を調整したりして、プロジェクトの継続か中止かを判断するというものである。中国の企業もこの考え方を取り入れるべきだと思う。また、「バリューチェーン戦略」からも丸紅の知恵を感じることができた。丸紅は製品の原料、加工、販売の全プロセスに目を向け、各プロセスを慎重に見極めることで最大限の利益を出しているのである。

夜の懇親会の席ではこれからホームステイでお世話になる吉永利幸さんとお会いした。とても優しい中年の男性で、中国語はできないが、私の拙い片言の日本語でなんとかコミュニケーションを図ることができた。ホームステイが楽しみになったが、同時に自分の日本語のレベルは自分が思っていた程高くはなく、これからもっとしっかり勉強する必要があると感じた。また、法務部の方とお話する中で、今後の自分の目指す方向が見えてきた気がした。日本語と法律、語学と法務の両方の知識を身につけた「法律顧問」は会社の中でもなくてはならない存在である。私も日本語と法律の知識を身につけ、この方向へ進んでいこうと決意を新たにした。

また午前中は日揮を見学した。日揮はもともとケミカル企業から成長してきた企業であり、この間、環境保全、技術革新等の面で様々な努力を重ねて来たのである。日揮がこれまで積み上げて来た知見を今後の日中協力の中にも生かしてくれればと思う。

また今日一日の中で行った一番突拍子もない事といえば、東京の道のど真ん中で短い青信号の間に国会議事堂をバックに写真を撮ったことだ。

日 付：11月29日（木）5日目

大学名：北京化工大学

氏 名：廖冬芳

今日は6時に起床、同室の友人と共にもう一度温泉に浸かり、日本式の生活を堪能した。

朝食後、箱根から横浜に出発、日揮株式会社を訪問した。日揮は主に石油化学工業産業を手掛けるほか、石油化学工業産業以外の医薬、環境保護等と言った分野にも若干関わりがあるとのこと。社員の方から会社の概況の説明を受けた後、チーム・ディスカッションによりプロジェクトを決定――、即ち日揮が中国と協力できるプロジェクトについて話し合い、4つのプランを提出した。一目見て選択できない場合、各プロジェクトのいくつかの面における点数評価を出すことにより優劣を比較・決定する。聞いたところでは、日揮ではよくそういう方法により対象を選ぶそうである。その後、昼食の時に日揮の社員の方々と交流をした。あまり日本語が得意ではないことをいうと、日揮の社員の方は「それなら日本語、英語、中国語を混ぜて交流しましょう。」と言ってくれた。この時、言語というのはあくまでも交流の

道具でしかなく、相手の母国語に長けていなくても、多面的な方法で交流することができるということを認識できた。たとえば筆談することもできる。(双方の文化に)漢字があるのだから。

交流を通して、両国の人々の日中関係の正常化に対する願いが共に強いこと、日中双方が共に努力して初めて隣国との友情を作り出すことができることを学んだ。

午後は丸紅を訪問した。会社では、PPTと映像により会社の概況の説明があった。丸紅は総合商社として貿易活動に従事するだけでなく、投資業務も展開している。丸紅は日本、ひいては世界的にも有名な企業である。これもその「正新和」の理念と切っても切り離せない関係にあるのだろう。

その後、夕食を取りながら、社員の方々と交流をした。社員の方々は皆、中国人の方を手配してくださり、詳しく質問に答えていただいた。そのためよりよく丸紅のことを知ることができた。

東京の夜は美しかった。今日は東京で、自分の眼で東京という都市の近代化、先進性を実感することができた。

日 付：11月30日（金）6日目

大学名：北京化工大学

氏 名：陶羽

今日参観した企業は、東京千代田区にある三井住友銀行本社である。

三井住友銀行は、元のさくら銀行と住友銀行が2002年に合併して成立し、今では100兆円の総資産を抱える日本第二の大銀行である。

会社の説明会では、第二次世界大戦後の経済復興期の経験や、苦しい経済危機を乗り越えた事、外資系銀行の圧力の下、再編合併の道を選び、ついに日本三大金融グループに躍り出るまでの長い道程について聞いた。

「Business is people」。当時の住友銀行の会社理念について、私は今でもはっきりと覚えている。人材こそが企業の核心であり、企業の各代の奮闘の歴史は、創造力にあふれた真面目な各代の社員無くして語ることはできないのである。

人材の重視こそが、企業が発展をつづけ、成功するための鍵である。

三井住友の社員の方々と共に昼食を取った後、三鷹の森美術館にやってきた。ここは、宮崎駿作品を主体とした美術館である。そこには多くの見慣れた場面、一枚一枚の懐かしいシーンがあり、幼い頃の思い出を呼び起こしてくれた。

宮崎駿作品は世界的にも有名であり、日本アニメの代表の一つである。

アニメ・漫画の故郷ともいえる日本のこの文化は、世界各地の多くの旅行客が日本を訪れる動機の一つといえる。

ここまで書いて、先日新幹線の中で見た一幕を思い出した。髪も白くなったおじいさんが、両手にマンガ本を抱え、若者と同じように楽しそうに見入っていた。日本のアニメ・漫画文化が、さまざまな年代の人に浸透していることがわかった。

旅の最後に、秋葉原のショッピングセンターに買い物に行った。

それはショッピング好きの私にとっては、常に辛くまた楽しいものである。

福沢諭吉(一万円)と夏目漱石(千円)どんどん自分から離れ、小銭入れが少しずつ膨らんでいくのを目の当たりにし、ああ、また生活費を節約しなければ、と心に思った。

日 付：11月30日（金）6日目

大学名：外交学院

氏 名：唐思南

宮崎駿の美術館を参観し、建造者のアニメの原シーン、原人物の再現力に感激した。

宮崎駿アニメが一番好きな理由は、その素朴さや懐かしさ、また特に深さを強調はしないが、何度も考えさせられる点にある。何か壮大なシーンで震撼させるのではなく、平淡な表現、言葉に出さない感情の中、それぞれの瞬間により、私たちの心に訴えかけるのである。

宮崎駿はヨーロッパの早朝の街角を散策するのが好きで、光と影の変化を見ながらそれらを一枚一枚の絵の中に記録し、最終的にはそれらすべてを美術館として完成させたのだそうだ。

美術館内に特に決まった路線図はなく、解説用テープや解説員もなく、それぞれが自分の心の赴くままに探検することができる。このアニメのシーンに入り込んだような美術館の中では、宮崎駿のもつ童心を詳しく見て取ることができる。例えば一階の階段のそばにある高さ1メートルに満たない小さな部屋の入口にある絵、壁の中にはめ込まれた三葉虫、タツノオトシゴの古い化石、庭の中のヨーロッパ風の水飲み場などを見れば、それを感じることができる。

まさに童話の世界が、待っているのである。

日 付：11月30日（金）6日目

大学名：外交学院

氏 名：王希晨

今朝は三井住友銀行に行った。銀行、金融に興味を持っている人が多く、皆興味津々であった。また皆にとつての三井住友銀行も一目置かれる存在だったので、銀行内部の運営体制に関する討論が、皆の話題の中心となった。

三井住友銀行に関する討論では、銀行の発展にとって「信用」が非常に重要だという点に、皆が同様に気付かされた。そのように重要な「信用」は、銀行業の発展においてだけではなく、すべての企業と国の発展に必要なもので、その重要性は言うまでもない。

午後は非常に楽しく過ごした。というのは、宮崎駿のテーマパークに遊びに行ったからである。一気に視野が広がる思いだった。色とりどりのアート要素が次から次へと目に飛び込み、皆称賛しきりだった。日本のアニメや漫画プロダクションは、世界で唯一無二の地位を築いていると言っていいだろう。まさにこのようなアニメや漫画の巨匠輩出により、日本のアニメ・漫画界の地位があるのだ。

夕食は本当においしかった。おやすみなさい。

日 付：12月1日（土）7日目

大学名：北京大学

氏 名：李溪月

今日はHome-stayが始まる日である。皆興奮を抑えられない様子だ。待ち切れずに会議室に座りつつも手に持ったお茶を一口も飲む余裕もなく、覚えてたの日本語を慌ただしく復習するかと思えば、自分のhost family の様子を思い浮かべてあちこちろついたり、皆がまるで幼稚園に入ったばかりの幼い子供のようにだった。同級生がやさしそうな日本人のおじいさんおばあさんに引き取られ、または可愛らしい子供たちに連れられる様子を目の当たりにし、残された皆は焦り始めていた。多くの耳が大きくそばだてられ、渡辺さんの読み上げる名前に聞き入る。「一家歡喜几家愁」（一人の喜びは、皆の憂鬱）とはまさにこのことである！

ついに私のホストである矢野洋平さんが迎えに来てくれる時がやってきた。会議室にはもう何人も残っていない。洋平さんと奥さんが共に三十二歳と、とても若いことを事前に知っていたが、オレンジ色のカシミアのマフラーをかけ、ベージュ色のジャケットとカーキ色のカジュアルなパンツを身に着けた渋い髭をたくわえたカッコいいお兄さんが入口から現れた時、「すごくハンサム！」、「なんて格好いいの～～」、「わあ、私のホストもあんなにかっこよかったらいいのに！」という声が皆から上がった。私たちが手続きを終え、出ていく時でもまだ背後から少しずつ小さくなっていくどよめきの声が聞こえていた。

矢野さんは道すがら、とてもシャイな様子だった。中国語はあまり流暢ではなかったが、一生懸命私と交流しようとしていると感じ取ることができた。ちょうど私が英語を話す場合もとても緊張するのと同じことである。そうして互いに目が合つては微笑み合い、自然とうち溶けることができた。私たちの行先は小江戸川越市である。そこには江戸時代の東京の伝統的な風情のある古い街並み―蔵造り街、各種商店、住宅が林立しており(多くが耐火構造の木造建築物)、菓子屋横丁などがそのままの状態で保存されている。80m余りの細長い小さな通り(綿飴、麩菓子、せんべい、みたらし団子等の伝統的な「駄菓子」を売っていた。特に矢野さんが、ご自身いわく子供の頃一番好きだったという飴を買ってくださり、2人で飴を口の中に入れポリポリ音を立てながら食べたのは、最高に楽しかった)、ならびにそのシンボリックな建築である鐘楼(後にとある芸術品店で、この鐘楼に関する日本の伝統的な版画を鑑賞した)等。

長いこと電車に乗り、大体一時間半から二時間くらいだろうか、ついに埼玉県にやってきた。間の悪いことに、私たちが駅から外に出て行こうとした瞬間、雨雲でどんよりとしていた東京の空から突然、豆粒ほどの大きな雨が降り始めた。心の中で「ああ。なんてついていないのだ」とため息をついたが、矢野さんはしばらくして傘を二本買って来てくれた。ごく普通の透明な傘だが私にはその瞬間、この傘が万華鏡のように雨の水滴も多彩な色に反射しているように思えたのである。

昼食もごく簡単に取った。一路雨の中を歩きながら、あるラーメン屋の前を通りかかり、矢野さんは私に食べてみるかと聞いてきた。それは願ってもないことだった。というのはそれまでの私たちの昼食、夕食、朝食はすべて精魂を込めて作られた「(食べ)放題」の御馳走、懐石料理、お弁当…などだった。日本のラーメンは熱々でさまざまな具が入ってとても美味しい、とずっと評判を聞いていたのに、この「庶民の味」を味わうチャンスがなかったのだ。そこで、すぐうなずいた。この「頑固(がんこラーメン)」という名のラーメン屋は、矢野さんによると大変有名であり、中には十五席しか席がないため、それ以外の人は皆、外で待っていないといけないのだそうだ。だが美味しいラーメンのため、この寒空の下で並ぶ列はどんどん長くなっていく。待っていると、矢野さんが熱いウーロン茶を一杯、注いでくれた。それを手にしていると、手が暖かくなり、心も暖かくなった。その後に食べたラーメンは、その評判に違わないものだった。普段食べる「味千拉面」やその他の日本料理店で食べるものとは異なり、「がんこ」の麺とスープ、具は、完全に分かれていた。麺はコシの強い手打ちラーメン、スープは豚肉、鶏肉、かつおぶしに昆布を長時間煮込んだもので、たまごはつるんとした歯触りだった。皆、「ずるずる」と大きな音を出して食べていた。それは先生が以前教えてくれた、音が大きいほどそのラーメンがおいしいことを現しており、店の主人が喜ぶのだ、というとおりだった。かつて本で読んだ「ラーメンから立ち込める湯気とずるずると吸い込む音」を今日、ついに身をもって体験することができたのだ、と思った。

午後のひと時は、思いもかけず、青空の下で過ごすことができた。雨上がりの川越は、汚れを洗い落した後のように澄み渡り、空気も土の淡い香りを含んでいた。矢野さんは私を連れてあちこち歩き、伝統と現実の間を何度も行き来した。通りの両側には、和菓子、日本刀、お箸、装飾物(瀬戸物、版画etc.)等の小さなお店があるのだが、木の香りを放つ小さな家、かの古色蒼然とした木のテーブル、木の椅子、木の看板、さまざまなお菓子、雑貨…これだけでも美しく、特別な、忘れ難い思い出を綴ることができる。

夕方近くに、私たちはまた電車に乗って新宿まで帰ってきた。矢野さんのお宅のあるところである。情けないことに、この数日の過密スケジュールのためだと思うのだが、帰りの電車の中では耐え切れずに手すりにもたれて眠りこけてしまい、最後に電車から降りる時、矢野さんに揺り起こしてもらったのである。その後、矢野さんはしょっちゅう、使い慣れない中国語で私に「你累吗？(疲れた?)」と聞いてくれた。マンションにつくと、Cappuccinoを一杯入れて私の目を覚まさせてくれた。本当に感謝だ。

矢野さんのお宅はあまり広くはなかった。後におしゃべりの中で、不動産価格についての話題になったが、東京エリアの不動産価格は、北京と同じように、あまりにも高くしてぞっとする。お二人のように働き始めたばかりで結婚して間もない若い人にとっては大きな出費である。夜、入浴の際、奥さんは私に何度も「ごめんなさいね。うちは狭くて」と言ってくれた。だが部屋が小さくてもインテリアには独特の風情があった。壁一面に貼られたタイルが、ほかの部分のシンブルな白と合わさり、個性的且つ爽やかで、さらに部屋のあちこちに様々な小さな工芸品が置かれている。ほとんどが矢野さんが海外でお仕事をされた時に持ち帰ったおみやげだそうだ。奥さんが後にうれしいことに、私が贈った京劇

の人形もテーブルに飾ってくれた。

それから夕食になった。矢野さんは私を歓迎するため、数人の同僚を呼び集め、ともにフランス料理のレストランに行き、食事をした。日本でフランス料理のフルコースをいただき、chefと少しフランス語を話すことができる、それは日本語も話せず、経済も好きではない私にとっては、大いにうれしいことだった。皆初対面だったが、矢野さんの同僚の方々は、自分たちだけで食事をするのではなく、話の内容をよく説明してくれ、中国や北京、私のことについて質問したり、たまに私をからかったり、大変にぎやかであった。食後は、皆で入口で記念写真も撮った。コックさんは帰り際に特に私に「Bonne fin d ' année」と言ってくれ、とても感動した。この見知らぬ国で私は孤独ではなかったのである。

一日目の夜は、あっという間に過ぎていった。入浴を済ませ、パジャマに着替えると、リビングのソファに矢野さんと奥さんの間に座り、たくさんおしゃべりをした。私は地図上の都市の名前を指し、食文化、年中行事、風俗習慣等について話をした。また私の学校、私の家、私の生活について話し、二人は終始辛抱強く、興味を持って耳を傾け、よく質問してくれた。たとえば「中国には何本くらいの鉄道があるのか」、「今でも一人っ子政策はやっているのか」、「毎日、何時間くらい勉強しないといけないのか」…。最後は私をゆっくり休ませるため、名残惜しい中、おしゃべりを打ち切り、その後温かい布団の中にもぐりこみ、眠りについたのである。

翌日は9時過ぎまで寝てしまった。奥さんの作ってくれた栄養たっぷりの朝食をいただき、大体11時くらいに共に出発し、東京の有名なSkytreeを見に行った。その後の散策、写真撮影は、特に変わった内容はなかった。それから浅草寺、雷門等を参観した。時間はあっという間に過ぎ、お別れの時間が来たとわかった時には、もう夕暮れ時近くになっていた。

私のHome-stayにはドライブ、夕日、富士山のロマンチックな場面はなく、眼下一面に広がるオーシャンビューのサプライズもなく、4階建ての別荘、ベントに誘導される豪華さもなく、ごく平凡なものだった。だが平凡であるからこそ、本当の体験であった。矢野さんと奥さんは他の一般の日本人と同じように、生活のために懸命に働き、おしゃべりしたり、笑ったり、喧嘩をしたりする。同じように友達がい、趣味があり、夢があり、中国に対してとても好奇心を持ち友好的で、さらに多くの交流と協力を望んでおり、誠実で暖かだった。

私は枕元に小さな羊のぬいぐるみを置いて眠った、あの異郷の地での安らかな感覚を永遠に忘れることはないだろう。

「吾心帰処是吾郷」(吾が心の帰する処、吾が郷なり)。感謝いたします。

—2012.12.1～2@東京、自宅にて。

日 付：12月1日（土）7日目

大学名：北京大学

氏 名：王娜

建築を比べる旅

私のホームステイ先について聞いた時はワクワクした。28歳と31歳の若いご夫婦と可愛い犬一匹というご家庭には、日本の堅苦しいしきたりや、伝統的な生活環境などはなかったが、そこには温かみのあるお宅と私に対して妹のように接してくれる親しさがあつた。若いお二人ということもあり、彼らも日本の伝統的なことに興味を持っていた。そして私が都市設計を学んでいることを知ると私と過ごす2日間を細かく計画して下さり、私は現代建築と伝統建築の明確な対比を体感することができた。

スタートは現代建築からだった。ご夫婦は街の中心部にある大企業の高層ビル群に私を連れて行き1つ1つ説明して下さった。私は街を彩る公園にも目を奪われた。続いて伝統的な日本庭園を見せるためにお茶席を予約して下さっていた。庭園は和風の外装を施した日本最大のホテルの中にあり、有名な茶道庭園を縮小・復元したものだそう。茶道の先生は私たちに畳のお茶室での冬のお点前をして下さった。周りの木々は50数年の歴史があり、庭園や室内の設えはとても手の込んだもので、随所に茶道における禅が感じられた。

お昼は本格的な中華料理を頂き、皆行った事のない国分寺に向かった。到着すると、その風景にとっても驚き興奮した。広場のようなところに古い建物があるだけだと思っていたら、そこはなんと原生林の中だったのだ。

曲がりくねった小径や小さな清流、生い茂った枝葉は歴史や神聖さを感じさせた。さらに奥に進めば地産地消の農家を見かけた。自然の果物や野菜を東京で初めて目にすることができた。こうして東京の郊外にでかけたことは貴重な経験だったと思う。その後さらに20分あまり歩いたところでやっと国分寺に到着したのだった。中国の伝統建築と比べると、こちらは木の構造がそのまま保たれており、塗装や派手な装飾がない。色鮮やかな木々の緑とのコントラストが素晴らしかった。中国の伝統に日本的な風格が加わったその建物を私は旅行者としての立場を超えて堪能した。

自然を満喫した帰り道、夕食のデザートにと新鮮な柿を買って帰った。家族一緒に旅を楽しみ、美味しい夕食を頂いた。心温まる経験だった。

そして夜は可愛い犬と楽しいひと時を過ごしたこともここに書き加えたい。

日 付：12月1日（土）7日目

大学名：北京化工大学

氏 名：廖東芳

今日は心躍らせながらいち早く日中経済協会にやってきた。なぜなら今日と明日はホームステイだからだ。

私を受け入れてくださるご家庭には中国人の奥様と日本人のご主人、6歳と4歳の男の子がいた。奥様が4歳の息子さんを連れて私を迎えに来てくれた。最初その息子さんは私をあまり相手にしない様子だった。恥ずかしかったか、私のことをあまり好きではなかったのかもしれない。手を繋ごうとしても振り払われてしまった。それでも私は微笑んで「これは中国結びです」と小さなプレゼントを彼に渡した。彼がお母さんに私のことを「あの人」と話しているのが聞こえた。

お昼はお店でカレーを食べた。彼はトイレに行きたいと1人で席を立ったが、心配に思った私は一緒について行った。彼が「トイレ」と叫びながら押したドアには事務所と書かれていた。私は急いで彼の手を引きトイレに連れて行った。食べ終わると外は大雨で、傘を持っているのは私だけだった。その小さな傘にはどう見ても3人は入れないし、風も強かったので困ってしまった。私は傘のほとんどを彼にかざした。年は幼いながらも私の真心が伝わったのか、私を見上げたその視線は優しいものに変わっていた。家に着くと「ゆうき、お姉ちゃんが来た！」と大きな声で叫んでいた。とても嬉しかった。子どもに限らず、相手を思う真心があれば人と人はわかりあえると私は信じている。

ここはごく普通のご家庭だと思う。お父さんはパソコンに向かって仕事をしており、明日は中国出張だそう。午後にはお母さんと一緒にスーパーに買い物に出掛け、夕食を準備する間私は優樹ちゃんと俊樹ちゃんと遊んでいた。他の人たちのようにショッピングモールや観光に出掛けるのではなく、日本の普通の生活をリアルに体験できた。少しテンポは速かったかもしれないが心温まる、楽しい時間だ。

ゲストということで私が最初にお風呂に入ることになった。そして優樹ちゃんと俊樹くんが次に続いた。お風呂上がりの2人はすぐにパジャマに着替え「お姉ちゃん」と叫びながら私の部屋に飛び込んで来た。

今夜は彼らの可愛い声を聞きながら眠れそうだ。本当に可愛い2人。きっと明日も楽しい1日になることだろう。

日 付：12月1日（土）7日目

大学名：中央民族大学

氏 名：路輝

今日は待ちに待ったホームステイだ。滞在するお宅が神奈川県と東京から少し離れていること、ご家族に2人のお子さん（7歳と4歳）がいるとのことで、自分がちゃんと仲良くやっていけるか心配だった。日中経済協会では、興奮と緊張が入り交じった心持ちでステイ先のご家族のお迎えを待っていた。顔を合わせた当初は子どもたち特有の言葉や

彼らの質問に困ってしまい、さらに緊張してしまった。しかしお話しするうちに、堀田さん(ご主人)の奥様が中国人であること、堀田さんご自身が中国に興味を持っていることや、私たちが共に歴史好きということがわかった。そして車で小田原城に向かった。堀田さんは、日本の戦国時代の三大武将である豊臣秀吉と徳川家康の、小田原城との関わりを詳しく教えてくれた。

徐々にお子さんたちとも仲良くなってきた。夜は温泉に入った後、お宅でお好み焼きを作って食べた。日本の若者に人気の食べ物だ。みんなでビールを飲み、笑い声が絶えない時間だった。洗面所に行った後は二次会だった。堀田さんと任さんと一緒に飲みながら、彼らのこれまでのことを伺い、気がつけば夜11時を回っていた。

翌日はみんなで早起きして海辺を散歩した。話が日本経済に及ぶと、堀田さんはご自身の経験を交え90年代のバブルについて話してくれた。彼は中国経済は今急速に発展しているが、ある一定の地点を過ぎれば日本と同様に困難な状況に陥るだろうと教えてくれた。彼が当時感じた困惑を避けるためには私にも心の準備が必要なのだろう。お昼には日本の有名な国宝である大仏を観に行った。時が経つのは非常に速いもので、気がつけばお別れの時間が迫っていた。名残惜しいけれども堀田さんと任さん、可愛い2人のお子さんに手を振った。

2日間という短い期間ではあったが、中国人学生に対する日本人の心からの歓迎と、日中友好交流活動へのサポートを深く感じる事ができた。普通の日本人家庭での生活を体験し、子供教育を重視する日本人の姿勢を知った。親たちは子どもたちの時間管理なども含め、良い生活習慣や行動を身につけさせようとしていた。今の中国の「金持ちの子女」や「すねかじり」などの問題を我々も改めて考えなくてはならないだろう。徐々に社会問題化しているこうした問題は、子ども自身だけでなく家庭教育の問題として軽視できなくなっていると思う。

日 付：12月2日(日) 8日目

大学名：北京大学

氏 名：張岩

ホームステイ2日目、幸せな気持ちは続いていた。まずは日本の朝ご飯を味わった。おにぎり、ホットミルク、コーヒー、パン、サラダ、盛りだくさんだ。食べ終わるとみんなで埼玉県草加市の大通りを散歩した。大きな犬と一緒に歩きながら、田中英穂さんは草加について話してくれた。親しみを感じれば普通の街の風景や習慣が自然に思えた。

散歩を終えると稜介さんが車を運転して、私と剣吾さんを東京エリア最大のイオンショッピングモールに連れて行ってくれた。そこではコミックストア、ペットショップ、おもちゃ屋さんやCDショップなどを見てまわり、日本のモノをたくさん買い、そして大阪焼きを食べた。確かに大阪には美味しいものがたくさんありそうだ。ショッピングセンターからの帰り道、もうすぐホームステイが終わるのだと感じていた。帰宅してご家族全員と記念写真を撮り、プレゼントを贈り合った。私に贈られたプレゼントはどれも心を込めて準備してくださったもので、コナンの切手や有名人のフィギュア、幸せが詰まった美しい箱はとても印象的だった。それから5人で車に乗り込みホテルニューオータニに向かった。途中スカイツリーや浅草寺も通ったが、時間がなかったので少しだけしか見られずとても残念だった。

ホテルに到着、私は名残惜しい気持ちでいっぱいだった。英穂さんご一家とは1日あまりご一緒しただけだが、日本の家というものを味わい、剣吾さん、稜介さんとはフェイスブックを交換した。別れを惜しみながら、日本人の中国人に対する温かさ、私にしてくれたことを思い感動していた。

集合後のスケジュールは、楽しみにしていたお台場での買い物だ。100円ショップでは食べ物や小物類を沢山買ってしまった。日本の物価は高いが、100円ショップなら理想的な買い物ができる。

今日は本当に名残惜しい1日だ。英穂さん、千代子さん、ありがとう！剣吾さん、稜介さん、ありがとう！本当にお世話になりました！

日 付：12月2日(日) 8日目

大学名：北京理工大学

氏 名：李雪松

昨晚眠る前に私たちはしっかりスケジュールを立て、ぐっすり眠ることができた。目的地は、明治神宮、原宿、そして渋谷だ。東京の地下鉄はとても便利で順調に巡る事ができた。明治神宮では美しい紅葉と鏡のような池、そして幸運にも日本の伝統的な婚礼衣装に身を包んだ新郎新婦を目にすることができた。渋谷ではテレビで親しみのあった風景を眺めることができた。

ホテルでお別れした後、私はこの2日間がとても速く過ぎてしまったと感じた。楽しさと温かい家庭の雰囲気がそう思わせたのかもしれない。だから私をご家族の話をまったく理解しなかったとしても、皆さんの変わらぬ温かさが、ホテルの部屋に戻った後の寂しさを際立たせたのだろう。お別れの時、この2日間があまり充実した内容ではなかったとしきりに私に謝っていたが、私はちっともそうは思わなかった。ご家族皆さんの歓迎を受け、私は日本の家庭というものを心から味わうことができたのだ。

実のところ今日のスケジュールが一番リラックスできる、純粋な観光だった。3名の現地ガイドも一緒だ。観光ルートにあまり詳しくない3人は、本当の家族の一員のように私に接した。知り合ってから数十時間も経っていない私たちは特殊なご縁で他人から友達になった。とても不思議だし面白い。私は今回のホームステイを決して忘れないだろう。平井さんの連絡先も頂いたことだし、今後も交流を続けていつか3人が中国に来ることを願っている。何度も口にした言葉だが、最後に伝えたいのはやはり「ありがとう！」だ。

お台場に向かう途中、学生たちは皆自分のホームステイについて話した。皆様々な経験をしていた。富士山へ行った人もいれば、都内各所を観光した人もいた。またご家族と一緒にスポーツをしたという人もいた。どれも得難い経験だ。

お台場の夜景は素晴らしかった。でも私は心の中で過ぎ去った数十時間を想っていた。本当に忘れられない時間だった。

日 付：12月2日（日）8日目

大学名：北京理工大学

氏 名：陳孫傑

日本に来て8日目、ホームステイも終わった。短い8日間ではあるが、本当にたくさんのことを経験した。ここ数日、時が過ぎるのを速く感じた時は楽しくて時間が飛んで行ってしまうようだったし、遅く感じたことがあったのは思い返した時にはそのことがずいぶん前のことに思えたからだろう。しかしどの日も非常に楽しく過ごしたのは確かだ。

ホームステイ2日目、目を覚ますとホストファミリーの5歳になる娘さんがいた。昨日と同じように彼女とじゃれながら過ごした。言葉の壁はあるが私たちは仲がとても良かった。だっこをせがんだり、木登りしながら私によじ上ってくる彼女はとても可愛かった。彼女を見ていると、人と人之间には言葉を超越した感情があり、文字による表現は必要ないのではと感じた。国や人種の差、そして利害のない関係、これこそ人類が努力すべきことだと思う。

朝食を簡単に済ませた後、ホストファミリーと一緒におしゃべりをした。話題はとりとめのものだった。そして銀座に出掛けた。銀座は王府井に似ていると感じた。記念品を急いで選び、お昼を食べてホテルニューオータニに行った。

ホームステイはとても平凡で、素朴そのものだった。正直なところゆっくり休んだ2日間だった。しかし私はホストファミリーの、多くのモノや力を注いで特別なことをしようとするのではない、その落ち着いたところに感動していた。彼らには互いに支え合える温かい家があり、笑い合える家族がいて、一緒に祝うことがある。その平凡で静かな生活があれば十分なのだと私は思った。

夜私たちはお台場に行った。ゴミを埋め立ててできた島に感銘を受け、日本の環境分野での努力に驚いた。中国国内の環境についても考えなければならぬと感じた。そしてお台場での買い物時間はなんといっても楽しかった。

残りの日程も非常に楽しみである。せっかくの機会だから日本の多くのことを見て行きたいと思う。

日 付：12月2日（日）8日目

大学名：北京師範大学

氏 名：白晧

今日は朝早く起き、おなじみのピンク色の部屋を見て親近感が倍増した。お母さんは親しげに私にあいさつし、早起きに感心したと言った。朝食はお母さん手作りのおにぎりだった。食べる時、昨晚お母さんに何を食べたいか尋ねられ、「おにぎり」と答えたので朝食に出してくれたことに突然思い当たり、その瞬間とても感動した。お母さんはわざわざ食後のデザートプリンも用意してくれた。

昼、お父さんとお母さんと未佳は東京名物のもんじゃ焼きを食べに連れて行ってくれた。行先はもんじゃ焼きで最も有名な月島だった。お父さんは嬉しそうに私と未佳の写真を撮ってくれた。最初にもんじゃ焼きを自分で焼いた時は緊張したが、何とか成功し、とてもおいしかった。食べ終わった後、時間の余裕がなかったので、みんなで急いでニューオータニに戻り、ついに別れの時を迎えた。お母さんはとても名残惜しそうだった。たった2日だけだったので、親しくなってしまう。だが、まだいい。3カ月後の来年2月、未佳が北京師範大学に来るので、また一緒に勉強し、おしゃべりできる。それから来年の夏、お父さんとお母さんが北京に来る時、中国語でおしゃべりしようと約束した。

スケジュールは慌ただしく、ニューオータニに戻って10分も経たないうちに、私たち一行はお台場に向かった。お台場の思い出は、もちろんフジテレビの丸い展望台だ。時間の関係で上まで行かなかったが、十分楽しかった。フジテレビ1階のホールに行き、ワンピースの宣伝パネルを見て感動した。やはり国民的アニメである。劇場版が出ると全国で宣伝するので、子供達も喜ぶ。フジテレビが見られ、お台場の旅は行った甲斐があった。その後ブラブラ歩いて、海浜公園へ行ったが、巨大な観覧車のロマンティックな雰囲気寒さを忘れた。カップル達が観覧車を並んで待つ様子を見て、心から彼らを祝福した。

それからアクアシティお台場で伝説の100円ショップを見た。食品を除き、大部分の物が中国製で、非常に感慨を覚えた。私たちが望むのはクリエイティブ・イン・チャイナ、中国独自ブランドであるべきで、中国の資源を利用し大規模に世界のその他のブランドを作るということではない。

今日も収穫の多い一日だった。私は日本の家庭の一日、日常生活を理解し、中国がいかに世界へ出て行くことができるか再び考えた。大学生は素晴らしい、やはり大学生は素晴らしいと思う。自分の頭を使って行動することができる。この中国のため何かしよう、一緒にがんばろう。第11回訪日団のみんな！

日 付：12月3日（月）9日目

大学名：北京大学

氏 名：李溪月

今日のスケジュールは、「色とりどりで美しい」以外、他に説明する言葉はない。第1の目的地は東京都中央清掃工場だったが、みんなが想像するような「素敵な」場所ではないかもしれない。なぜならゴミ捨て場と聞いて、大部分の人、特にゴミの分別、回収、再利用がまだあまり普及していない中国では、その第一印象は臭気がただよい、地面は汚い粘液だらけで、あちこちにハエが飛び回るといった光景で、すぐ無意識に鼻をつまみ、頭を振りながら嫌な表情を浮かべるだろう。だが今回の「ゴミの山に勇敢に乗り込む」旅で、ゴミに対して以前とは異なる認識を持つようになった。おそらく、「少しもいい所がない」のではないのだ。

東京都中央清掃工場の外観はかなりおしゃれで、ガラス素材で作った外壁が太陽の下でまぶしく輝き、高い煙突が傍らにそびえていた。煙突は三角柱の形である！周囲は植物のカーペット、路面には汚れもなく、空気も十分きれいで、乱れ飛ぶ焼却灰や鼻を刺す臭い等は全くない。工場内部に入ると、中は快適なベージュ色で統一され、シン

ブル、爽やかで堅苦しくない。全ての処理過程は生物解剖図のように明らかで、火格子、触媒反応塔、ゴミ回収車の画像など、あるべき物は全てある。説明の中で私は“Harmony with the local and community(地域とコミュニティとの調和)”という点に特に注目した。周囲の建物には居住区も多く、商業ビル等もあり、この工場が人や環境との調和やバランスを維持するのに多大な心血を注いでいるのが見て取れた！

昼の昼食は非常に高級だった。2008年5月6日に福田康夫元首相が10年ぶりに日本を訪問した胡主席を招待した場所——かつて梅屋庄吉が孫文を招待した場所でもある——松本楼である。日比谷公園内に一棟の素朴な小さい洋館が草木のうっそうと茂った中に隠れているのだ。灰色をベースにしたシンプルな西洋風デザインを見て、私は思わず故郷にある民国時代の小さい建物を思い出した。孫文とこの建物と梅屋庄吉の親交の縁を理解したからかもしれないが、それでもここには一種の風格、一種の革命精神、尊い日中友好の証があると私は強く信じる。

ごちそうを食べ、次に家に帰った。

在日本中国大使館で韓公使から熱烈な歓迎を受け、私たちはこの9日間に見聞きし、感じたことを積極的に報告した。中国の青年世代として、私たちは逃れられない、また当然担うべき民族の責任を担っている。まるで100年前に梁啓超が言った「少年強則国強、少年富則国富、少年自由則国自由、少年勝于欧州則国勝于欧州、少年雄于地球則国雄于地球！（青年は祖国の未来・希望であり、より努力し祖国の発展に貢献しなければならないの意）」のとおりである。私たち中国の青年は国外に出て外の世界を見るべきだが、戻ること、家に戻ることを忘れるべきではない。

「君が公明正大であれば、国は暗くならない」私はついに6年間暗唱した校訓「中国魂と世界の度量を持つ南外人（南京外国語学校人）になれ」の本当の意味を理解した。今こそ、私たちがそのように勇敢に責任を担い、探求し、前進の歩を進める中国人になるのだ！

Tomorrow will be better(明日はもっとよくなる)

@Hotel New Otani. (2012.12.3)

日 付：12月3日（月）9日目

大学名：北京化工大学

氏 名：陳露

今日は東京都中央清掃工場を見学した。この工場には3つの特徴があるが、最も印象深かったのはその3つ目だ。まず3つの特徴を挙げる。1に充実した公害防止対策、2に近隣の建物との調和、3に資源エネルギーの循環利用である。この清掃工場には火格子焼却炉が2台あり、それぞれ1日当たり300トンのゴミ処理が可能で、更に1万5000キロワットの発電ができ、この工場自身の電力需要にあて、余りを電力会社に売り周辺住民に供給している。中央清掃工場には太陽光エネルギー輸送システムと太陽エネルギー発電システムがあり、工場では焼却灰の熔融処理により床材（室外）を作ったり、廃ガラスを使用しガラススタイル（室内）を作ったり、古紙を使用し壁用石膏ボードを作ったりしているが、もちろんメインは焼却熱の利用である。このような工場にいと、頭からつま先まで、中から外まで、工場内の全てが「ゴミが宝になる」を実践していると感じられる。遠くない将来、このような環境保護技術と持続可能かつ長期使用という価値観が人々の生活の各方面に応用されることを願っている。

昼は日比谷の松本楼で西洋料理を食べた。松本楼は孫文と梅屋庄吉の友情、孫文と宋慶齡の愛情の証人だ。梅屋庄吉と孫文は共に「アジアを強大に」という考えを持っており、意気投合した。かつて梅屋庄吉は「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて君を支援す」と言ったが、彼の孫文への支援は武器、飛行機に止まらず、感情の交流もあり、彼の両親は孫文を自分の子のように接した。孫文の死後はその業績を広く伝え日中友好を促進するため、梅屋庄吉は孫文の銅像を4体铸造した。さらに孫文と日本のゆかりを映画に撮影するつもりだったが、惜しくもその頃日中関係が悪化した。現在の日中関係も微妙な段階にあるが、一衣帯水の近隣であり、日中友好は代々続くと感じている。

その後、私たちは非常に興奮して「帰宅」した。在日本中国大使館で、みんなは話したいことを存分に話し、感想を語り合った。こんなに近距離でこんなに深く日本の庶民の生活や文化や習慣を体験し、日本の工場や企業を訪れ、

全面的にこの隣人を理解する機会を持つことができ、私たちは非常に幸運だと思う。だから私たちには自分たちが見た真実の日本を身近な人に客観的に話し、自国人に進んだシステムを学ばせ理性的な愛国を促進させる責任がある。もちろん、経済科学技術においても社会文化面においても、日本には学ぶべき所が多くある。進んだ物を学んだら、技術を持ち帰り、私たちの国を強くしよう！

日 付：12月3日 (月) 9日目

大学名：中央民族大学

氏 名：朝娃

2日間のホームステイも終わり、私たちの今回の訪日活動も終わりに近づいた。あと2日で私たちは日本を離れる。最後のいくつかの視察訪問はより熱意を持って真面目な態度で向き合わねばならない。

まず見学に行ったのは中央清掃工場だ。この工場のゴミ処理燃焼方式は全連続燃焼式火格子焼却炉で、その燃焼能力は1日当たり600トン(焼却炉2基、1基当たり1日300トン)である。この工場の敷地面積は約2万9000平方メートルで、日立造船、前田、日本国土建設が共同で設計・施行し、高さは地上31.7メートル、地下14.2メートル、煙突の高さは約177.5メートルだ。印象深かったことが2つある。第1に燃焼後に発生するスラグの有効的な再利用である。焼却灰を1200度以上の高温で溶かした後に急速冷却すると、砂状のスラグになる。その容積は灰のわずか2分の1だ。溶融スラグになると、灰の中のダイオキシン類が分解され、重金属を封じ込めることができるため、安全で有効な建築資材として利用できる。第2に燃焼後に発生する熱エネルギーの有効利用で、主に発電と熱供給に応用しており、発生する電力と熱エネルギー等は施設内で清掃工場の稼働に利用され、電力と燃焼費のコストを削減している。また電力の一部は電力工場に販売している。このようにしてすぐれた循環型工場となり、資源有効利用という目的を達成している。

最も収穫があったのは在日本中国大使館の訪問だ。日本ではここが私たちの家で、韓志強公使や程団長と共に皆が思い思いに話をした。おしゃべりの中で、全員が自分の感想を話した。

日本では書道や中国製の商品、中国料理など、あちこちで中国の要素が見られ、それを見ると中国人は自信と活力を強める。ある参加者の言葉が適切だった。それはこの自信と活力があって、私たちは「中国」という列車に乗ることができるのである。訪問時、私たちは日本にはあって中国にはない細部を発見できたが、これらの細部のデザインとサービスは最終的に人間のために作られ、「人間が中心」「ヒューマニゼーション」を体現していた。また日本人との付き合いを通じ、彼らの親切心、厳しさ、暖かさ、周到さに気づき、日本の声を真に感じた。

韓公使の素晴らしいスピーチから、私たちは色々な事をわかりやすく学んだが、実は大使館の業務はとても大変で、また複雑、困難、敏感という特徴を持っている。私たち中国人、特に若い世代は私たちの隣国をより客観的、全面的に理解すべきである。「こちらか、あちらか」、「白か黒か」だけではない。日本も中国の発展を正確に認識すべきで、両国関係の複雑な局面においては平和共存のみが正確な選択である。

日 付：12月4日 (火) 10日目

大学名：北京大学

氏 名：鄧思圓

今日のスケジュールは午前中がキューピー工場、午後が慶応義塾大学の見学である。

キューピー工場はドレッシングとマヨネーズの生産を主とする食品工場だ。ドレッシングの原料の大部分は卵であるため、キューピー工場では卵関連の産業にも手を広げている。ドレッシングとマヨネーズの主な原料は卵黄だが、同社は原料を十分に活用するため、卵白、卵黄、卵殻膜、卵殻を分離した後、卵白は卵白を主な原料とするクリームケーキ工場に売却し、卵殻膜で化粧品を製造している。また卵殻は主にカルシウム強化剤の製造に使用する他、塗り壁材の製造に使用している。塗り壁は空気中の有害物質を取り除く機能があり、リサイクル処理が容易である。

特に印象深かったのは割卵機だ。割卵機の作業効率が1分間に600個という高速であるため、割卵の過程は見えないほど速く、一つ一つの卵黄がピンポン玉のように受卵器に飛び込む様子しか見えない。近くにいた作業者が正常に処理されなかった卵を素早く見つけて取り出す様子を見て、その場にいた参加者たちは非常に驚いた。私達に解説してくれた従業員も以前そこで作業したことがあるが、長時間作業すると気落ちすると話していた。また清潔を保つため、割卵機は2時間毎に停止して洗浄する。

次の女性解説員はマヨネーズの包装の変遷を説明してくれた。新鮮さを長く保つため、マヨネーズボトルは何層もの異なる材質で形成されている。ただの薄いボトルの層に見えるが、実は奥が深い。日本企業は取り組みがきめ細かく、驚かされる。また高齢者にも子供にも食べやすくするため、同社は元々プルリングだった中栓を反対方向にひねればすぐ開けられる中栓デザインに変えた。顧客がボトルのフィルム包装を外す時に説明書きも一緒に外れないようにするため、元々は垂直だった開け口を斜めに変え、また左利きの人にも便利のように考慮して、左と右それぞれに向かって開け口をつけた。このように顧客へサービスする態度は、ボトルデザインに表れているだけでなく、キューピー生産の全ての部分に表れている。キューピーだけがこのような理念を持っているわけではなく、日本企業全体が同様なのだ。顧客が思いつかないことはあっても、会社にはできないことはない。この言葉はここ数日何度も言われているが、日本人の厳しく、まじめで、こまやかな勤務態度と目につかない細部への努力は非常に驚くべきものだ。

昼食時にはキューピーの様々なドレッシングを試食したが、確かにとてもおいしい。ある女性のドレッシング混ぜご飯を見て、キューピーの従業員が驚いた。見学の最後に、全員が自分の写真を貼ってあるマヨネーズももらった。

午後は日本の著名な慶応義塾大学を訪問した。慶応大学は経済学部が有名で、日本の光華管理学院と言われている。

自由討論の際、驚くことに各グループの討論テーマが一致していた。どれも就職を巡り展開したのだ。日本では卒業予定の大学生は通常大学3年生の時に就職活動を開始し、順調であれば大学4年生になる前にオファーを手にする。研究を続ける人は学術関係の仕事に従事することが多い。それに対し中国の大学生が研究継続を選ぶのは、一般的に本科生が満足できる仕事を見つけるのが難しいためであって、就職せざるを得ない学生は通常、大学4年生になってから準備を開始する。日本企業は卒業予定者を採用しOJTを行う傾向があるが、中国企業の研修の仕組みは不健全なため、研究能力がより優れている修士卒業者や博士卒業者を採用する傾向がある。しかし私の認識では職業能力は大学ではなく企業が育てるべきである。職業技能ではなく素養を育てる、これも中国の教育が日本の教育から学ぶべき一つの方角性だろう。

日 付：12月4日（火） 10日目

大学名：北京理工大学

氏 名：孔垂燁

今日は朝から雨が降り始めた。私たちはバスに1時間半乗ってキューピー五霞工場に行った。キューピーと聞くとドレッシングやジャムを連想するが、それは同社の中国市場における目標である。まず、工場長が工場の概況と歴史を紹介し、その後非常によくできたビデオが放送された。ビデオの主人公はキューピーのマークになっている天使で、その天使とマメ博士がマヨネーズの全生産過程を案内する。言葉が生き生きとし、最初から最後までかわいい作風で皆を引き付けた。これもヒューマニゼーションの1つだと思う。その後五霞工場を見学したが、印象深かったことが2つある。1つめはフルオートメーションの連続生産ラインで、作業者は10人にも満たないことだ。中でも一番興味深かったのはキューピーが自ら発明した割卵機で、人間の目では見分けられない程速い速度で卵殻、卵白、卵黄を分離する。全生産ラインの速度は1分間240本にも達する。2つめはキューピーのヒューマニゼーションデザインである。キューピーの従業員は繰り返しこの点を強調していた。同社は消費者のアドバイスを常に集めて調査し、それにより細部から自社製品を改善している。例えばボトルキャップの突起、包装フィルムの開け口方向、様々な人の習慣に合うユニバーサルデザインなどである。工場を見学してから、キューピー独自のTS farm—完全制御型植物工場を見学した。この

工場では完全無菌、無農薬状態で栽培を採用し、三角パネル設計により土地利用を大幅に高めている。

午後、慶応大学へ行き、日本人学生と中国人留学生と交流した。慶応大学の教育方法は中国と異なっていて一種の啓蒙教育の傾向があり、授業は少ないが授業後に読むべき本、完成させるべきレポートが非常に多い。同大学の学生もみんな堂々と自分の考えを述べ、若者のパワーが溢れると同時に思考も十分深く、私たちが学ぶ価値があった。交流の過程で多くの新しい友人にも知り合い、とても嬉しく楽しかった。現在、日中間の関係は緊張状態にあるが、これは両国民間で相互に理解と交流を強める必要があることを意味している。今日、私たちが接した日本人学生は友好的で親切だった。私たちの祖国と一衣帯水の隣国—日本の友好が続くことを私たちはやはり信じている。

日 付：12月4日（火） 10日目

大学名：中央民族大学

氏 名：郭磊

日本に来てもう10日になる。これ以前にも日本の多くの大企業を見学し、多くの進んだ技術を見聞したが、今日の見学先—キューピー五霞工場と慶応義塾大学は私たちの生活により身近である。

キューピー五霞工場は調味料、特にマヨネーズの生産を主としている。ただマヨネーズに比べドレッシングの方が自分としてはイメージが強い。この日の朝食でもキューピーのドレッシングを使っただけである。マヨネーズの生産と包装過程の紹介を聞いた時、同社従業員の品質への追求と顧客への責任感を感じることができた。調味料の味が酸化により変化するのを防ぐためだけに、同社のプラスチックボトルは多層構造で、口部は窒素で空気を排出するようになっている。このような細かい作業には実に感心する。工場見学の過程で、日本企業の高度なオートメーション化と資源の最大限利用を目の当たりに出来た。毎分600個割卵する割卵機の手回しは想像を絶し、割卵の間に卵黄と卵白を分ける。その他の作業プロセスも言うまでもない。卵殻の利用にも大変驚いた。卵殻の利用率は100%である！卵殻を使い建築資材を作り、卵殻の中の薄い膜で衣料を作る。これらは、中国では恐らく浪費されている。オートメーション化と廃棄物利用率は高いが、労働需要を減らすことにもつながっている。日本でも現在多くの人が就職難に直面しており、それに相応して結婚率の低下と晩婚化が人口減少をもたらしているが、これも日本政府が解決すべき問題である。見学後、同社で栽培している野菜とドレッシングで作ったサラダを食べた。本当に楽しい午前だった。

午後、ずっと期待していた慶応義塾大学へ行き、親切なもてなしを受けた。一番印象深かったのはやはり討論会だった。討論グループが多数あり、みな文化の異なる国から集まったのだが、同じ大学生の私たちは申し合わせたかのように仕事と就職問題を討論した。みんな自分の未来に関心があり、いい仕事が見つかるよう期待しているのがわかった。現在の日本と中国はどちらも大学生の就職難に直面しているが、比較すると日本の大学の研修はやはり手本として学ぶに値する。例えば彼らは自分が好きな研究会に入り、その中で自分が興味のあることを学び、徐々に物事を処理する能力を養い、卒業後は直接企業に入り仕事をする。それに対し中国ではみんな大学で学ぶ知識では足りないと感じ、研究を続けるか、研修を受けてから職務に就くかで、就職活動の難易度も増している。また日本の教授は関連企業に直接人材を推薦できるが、中国ではこのような現象は見られない。この面では参考に値するかもしれないが、中国の国情に基づき適切に調整する必要がある、そうすれば中国の大学生により適合し、大学生の就職問題をより効果的に解決できると思う。

感動的だったのはホテルに戻った後も慶応大学の学生が交流に来たことだ。彼らの熱意に日中関係の希望を見ることができた。スケジュールはまもなく終了するが、ディズニーランド行きもアレンジされており、とても配慮されている。早めに寝て、明日は楽しく遊ぼう。

日 付：12月5日（水） 11日目

大学名：北京大学

氏 名：倪楊

今日は全日程の中で一番面白い一日だっただろう。なぜなら今日の午後は、有名な「Tokyo Disneyland」で思いっきり遊び回る機会に恵まれたからだ。朝からの晴れ渡った天気、この忘れられない十数時間を運命づけた。朝、部屋の窓から外を眺めると、最初の驚きのプレゼント、東京都の高層ビルの向こうに、忘れ難い富士山があった。やっぱり思い描いていたあの「雪を被った山頂」だった。ただ今回の遭遇には、日程がもうすぐ終わるという名残惜しさも心の中に多少感じられた。どうであれ、この日は良い兆しから始まった。同じく忙しいスケジュールの中、私たちは朝早くから車を飛ばし日本の重要な工業地帯にある「住友化学」を訪問し、工場の概要などに関して説明を受けた。そして今日私が記録しようと思っているのは、道中で見聞きしたことである。

日本の重要な工業地帯に位置していると上述したが、この巨大な工業ベルトは東京都の東部にあり、約70km余りに及んでいる。その中には、非常に多くの化学工業工場が集中している。特に強調すべきことは、すべての工業ベルトは沿岸に分布しており、工場の建屋の上からは、ほぼ太平洋の雄大な美しい景色を一望できるということだ。さらには、工場は、直接コンテナを積み込み出航できる埠頭を持っている。化学工業工場といっても、中国では間違いなく大型重度汚染物排出企業であると言えるが、日本では、工場区域は清潔で生態バランスをうまく保っているのである。工場の区域内には専用の污水处理システムが設置され、隣接した海洋区域はほぼゼロ汚染である。こういった状況は中国ではおそらく想像できないことだろう。

移動の途中、私はずっと何故日本の企業はどれもこのような人的・文化的理念を持っているのだろうか、何故日本人はこれほどの環境保護というコンセプトを実践に移し、しかも、ゆっくりとそこから発想や技術が生まれ、その技術を外国に輸出して利益を得ることができるのだろうか？と考えていた。

答えは間違いなく、多くの要因が相互に作用した結果なので、いろいろあると思う。しかし、その中でみんなが認める最も重要な答えは、大自然が「溺愛」と「破壊」を繰り返す中にいる日本民族は、自身の民族の個性の中に、全てに慎重に対応し、事前に備える、転ばぬ先の杖という芽を出したということだ。そしてこの芽は、日本民族が高度成長した時期に光り輝き、しかもこの生命の源泉は絶えず日本民族と日本の国に付与され、たとえどんなに大きな困難に遭遇しても試練に耐えることができるのだ。

訪日日程が間もなく終わるので、よりマクロ的な視点から全日程の中で日本に対して感じたところを振り返ろうと思うようになった。日本に対する「人から聞いた噂話」に始まり、この10数日間を通して得た日本に対する基本的な理解に至るまで、私の頭の中で「日本」という単語の概念に、すでに大きな変化が起こっている。清潔な日本から、人的・文化的雰囲気溢れた日本、これは私に日中両国の青少年が相互理解を深める必要性和緊急性を益々認識させている。

日 付：12月5日（水） 11日目

大学名：北京師範大学

氏 名：高文

私たちは今日午前中、千葉県にある住友化学の工場を見学し、住友化学の発展の歴史や中国との業務に関する説明を受けた。私は文系出身のため、化学工業分野の専門知識がほとんどないが、企業の社会的責任についての説明が強く印象に残っている。日本の工業分野の企業、とりわけ重工業企業は、生産と環境との調和、近隣地域との調和を特に重視し、また単純に経済的利益を追い求めるのではなく、発展と環境保護及び社会的調和との結びつきに配慮している。中国の企業はまだ多くのことを日本の同業者から学ばなければならないと感じた。

午後、みんなが期待に胸を膨らませずっと待ち望んでいたディズニーランドについてやってきた。私たちの世代の若者はほとんどがミッキーマウスやドナルドダックを見て育ったので、ディズニーのあらすじは私たちの世代の人間に

しか理解できないかもしれない。日本国内の観光客がほとんどで、そして遊べる時間は短かったけれど、みんな限られた時間をいっぱい楽しんだ。そして、自分たち共通の子供時代の思い出に浸った。ああ、明日は日本を発つ日だ。本当に離れがたい気持ちで一杯だ。

人はいつもある場所に愛着を感じ始めたと思ったら、その場所とさよならをしなければならないものだ。こう思うと、自然と感傷的になってしまった。

車窓からもう一度東京の夜景を眺めよう！今度はいつ来られるだろうか。

日 付：12月5日（水） 11日目

大学名：外交学院

氏 名：謝雪暉

朝、私たちは住友化学の千葉工場を見学した。私は理系に関して疎いので、工場見学の感想は表面的なものになってしまった。

まず、住友化学は安全面で大変立派だと思った。私たちが見学した際、ヘルメットが渡され、注意事項が伝えられた。この他には、住友化学は衛生管理の面でも大変優れていた。

午後、有名な東京ディズニーランドに行った。

園内に入り、まずカリブの海賊というアトラクションを楽しんだ。私たちはボートに乗り水路に沿って室内に入った。そこは部屋の中だったが、建物の建っている場所はまるで真実の世界のようだった。人物、建物のすべてがきめ細かくリアルに作られているだけでなく、空も果てしなく延々と続くように作られていて、実際そこに屋根があるなんてまったく感じさせなかった。

もう一つ強く印象に残っているアトラクションは、スペース・マウンテンである。観光客はジェットコースターに乗るのだが、実際に身を置いている場所は「宇宙」である。ジェットコースターは室内にあり、室内は星空、宇宙のようになっているので、観光客はより刺激され、魅力を感じるのだ。

ホーンテッド・マンションもとても魅力的なアトラクションだった。このお化け屋敷では、オーディオアニマトロニクス技術で構成されたリアルで立体的な幽霊がいた。観光客は本当の幽霊を見ているように幽霊を目の当たりにすることができる。

夜のパレードは実に豪華で美しかった。美しい衣装、迫真の演技、きらびやかなライト、心地良い音楽、盛大なパレードの花車の隊列は、園内全体を高揚の渦に巻き込んでいった。

明日私たちは日本を離れ帰国の途に着く。

日 付：12月6日（木） 12日目

大学名：北京理工大学

氏 名：賈鳴

今日は日本での最終日である。

朝、私たちはホテルニューオータニのエコ設備を見学した。汚水処理室、発電室を見学し、日本では3.11大地震以後、全国で計画停電が実施されたが、その間、ニューオータニの電力はこの発電室から供給された。見学の際最も印象深かったのは、これまで私たちの印象の中のニューオータニはとてもハイレベルで豪華な五つ星ホテルであるが、今日初めて、その裏には縁の下を支える数多くのスタッフ達の知られざる努力や苦労があるということを知ったことである。

荷物を運ぶ際、私がパスポートをスーツケースの中に入れてしまったので、ロビーにいるwaiterにスーツケースを取ってくれるよう頼んだところ、waiterはにこやかに、上に載せてあった7、8個の荷物を大変辛抱強く降ろしてくれた（私

の荷物は一番下にあったので)。パスポートを取り出した後には、またそのスーツケースを1個ずつ元の位置に戻してくれた。この一連の所作が大変心地良く、温かさを感じた。この12日間、私は日本流のサービスに常に感動していた。中国のhotelのwaiterのサービスが日本と同じとはとても思えないが、外国人が中国を旅行する場合に、最も多く接するのはwaiterである。ならば外国人は中国や中国人に対してどんな印象を持つだろうか、彼らの接客態度や行動がとても重要な意味を持つと思う。

引き続き、歓送会が開かれた。私のホストファミリーも会いに来てくれた。私は彼らと楽しい2日間を過ごした。帰国してからでも彼らと常に連絡を取り合いたいと思っている。

我が家に帰るときが近づいて来た。祖国を離れた12日間、家族や友達がとっても恋しかったが、日本で出会った友人達と離れるのはもっと辛かった。

今両国の間には少し問題が起こっているが、それと人と人の交流とは違うと思う。私たちが誠意を持って耳を傾け、交流する意志がありさえすれば、お互いの間には多くの共通点があり、異なる点も一部あるが、お互いに許容しあい、理解しあえることに気づくと思う。

日本の真の姿が私たちの目の前にあるが、私たちがこれまで聞いていたこととやはり大変違っていた。私は今、私たちが平等に、また平和に付き合っていけるという自信、更には共に発展するという自信をより強く持った。

日 付：12月6日（木） 12日目

大学名：北京師範大学

氏 名：文勝男

今私は飛行機に乗って、今日の一日、そしてこの12日間のことを思い起こしているが、まるで夢のように美しく、その夢から覚めたくない気持ちで一杯だ。お昼にはホテルニューオータニで歓送会が開かれ、また感激した。多くのホストファミリーが歓送会に出席して下さったが、残念ながら中村さんと葵さんには会うことができなかった。でも最後に驚きのプレゼントがあった。歓送会が始まってから、一人の女性が私を呼んだ。彼女は、「あなたのホストファミリーの中村さんは仕事が忙しくて歓送会に出席できないので、あなたへのプレゼントを預かってきたのよ。遊びに行った時の写真のCDよ」とCDを手渡してくれた。全く想定外のことで、とても感動した。2日間のホームステイで過ごした時間がありありと目の前に浮かんできた。中村さん一家の温かいおもてなしを受け、まるで自分の家に帰ったような気持ちになった。中村さんと葵さんは私に日本建築の伝統美を紹介し、日本の国民の友好の思いや親切な心を教えてくれた。このすばらしい時間をずっと大切にしたいと思う。中村さんのお陰でもらった感動なので、また必ず、もう一度日本を訪問したいと思う。ありがとう！中村さん、葵姉さん、お母さん、ありがとう！ありがとうございました。

感謝の気持ちを書いていたら、感謝の言葉を贈らなければならないのは中村さんご一家だけではないことに気づいた。渡辺先生、趙記者、呂ガイド、団長、先生たちみんなに感謝しなければならない。この旅で、いろんな人達にお世話になったお陰で、この12日間がこんなに楽しく思い出深いものになった。この他、舞台の表や裏で支えて下さった数多くの皆さんにも、むろん感謝しなければならない。日中関係が微妙な今、このような活動を実施するのは非常に大変だと思うが、私は幸運にも訪日団のメンバーになることができた。間もなく帰国するが、私は今回の訪日を契機として、さらに努力して日本語をマスターし、もう一度日本を訪問し、中村さん一家と再会し、もう一度温泉に浸かり、ディズニーランドを再訪し、再度日本文化を感じ、再度日中両国の国民の友好を目にしたいと思っている。

PS: 以下は私のささやかな提案である。

1. 日本の古本屋(古い本を売っているお店)の見学をアレンジしてほしい。日本文化を理解するために、読書は非常に重要な手段である。新しい本は大変値段が高く、学生には買いにくいし、そういうお金はあまり使いたくない。でも古本はとて割に合う。文庫本でも単行本でも、100円で買えるのは非常にお得だと思う。

2. もっと的を射た企業見学にしてほしい。企業見学がただ企業の宣伝だけなら現場見学の意義が失われてしまう。私たちはもっと本物の、もっと意味のあるものを見たり学んだりしたい。宣伝ビデオならどこでも見ることのできるの

で、遠くから、「わざわざ」時間と労力をかけて、会社に行って見る必要はないのだ。企業見学は、単に見せるだけでなく、一部の企業でもいいから手を触れ自ら体験できる参加型の見学になれば、申し分ないと思う。

3. スケジュールは大変充実していて良かった。毎日日記を書くという視点は大変良いが、実際の状況から見ると、毎日のスケジュールはぎっしりで、ホテルに戻る時間も遅かった。そんな状況で毎日日記を書くことは出来るだろうか？できるとは限らないし、たとえ書けたとしてもさらっと表面的に書いているだけで、深みも幅もないはずだ。そういう内容になるより、むしろ少し数を減らし、質を重視するということで、何日かを選択して日記を書いた方がいいと思う。その数日間は、1つのテーマを見つけ、見たこと聞いたこと、思ったこと、考えたことをすべて書き止め、深く突っ込んだものにするとあるいは別の効果が現れるかもしれない。勿論、これには時間と精力が必要だということが前提にある。

4. 訪日団の参加者の幅をもう少し広げることができればいいと思う。このようなチャンスは本当に少なく貴重なので、もっと多くの中国の大学生、中国の中西部地区の発展途上にある地域の大学生も中国から出て、日本企業を理解し、日本を感じることができれば、彼らの感動はもっと大きく、もっと強烈ではないかと思う。そしてより良い訪日団になるかもしれない！

以上は私の稚拙な見識にすぎず、不適當なところがあったら、お許し下さい。

日 付：12月6日（木） 12日目

大学名：北京化工大学

氏 名：黄改

よしんばもっと多くの名残惜しさがあろうとも、離れなければならない。

私たち「走近日企、感受日本」大学生訪日団35名は、先生方のご努力の結果、順調に且つ成功裏に任務を全うした。この12日間に、私が見聞き感じたことは必ず一つも漏らすことなく身近にいる家族や友人達に伝え、日中友好のために協調して互いに邁進し貢献する力にしたいと思う。

12日前には、私は発展と発展途上との間にどれほどの差があるのかということを意識したことはなかった。しかし、今日祖国へ帰る飛行機の中で、本当に多くのことを考えた。私は、中国の社会や文化意識と似通ったものを持ちながら、これほど異なる日本という国を実際に見て、突然これまでの自分が井の中の蛙だったような気がした。視野がとても狭く、ほとんど物事を考えていなかったことに気がついた。

12日前には、私は、外国留学は非常に難しいことだと考えていたが、同志社大学や慶応義塾大学でたくさんの留学生が自分の夢の実現のために国を出たことを聞き、また、自分で苦勞してアルバイトをして学費を稼いでいるということを知ったとき、私は、自分ももう大学三年なのだから、一人の大人として、将来のために独立すること、強い心を持つこと、難しいことに挑戦するということを学ぶべきだと、深く反省した。ありがとう、異国の友人達。

この12日間、私は日本の食文化、伝統工芸や寺社、近代化、環境保護そして、人にやさしいということを重視した食品、エネルギー、工業、貿易、金融など、各分野のさまざまな事柄に触れることができた。日本は確かにすばらしい国であり、わずかな土地と資源の中で、このように人にやさしく、エコな発展を遂げ、また、あらゆる資源も最大限余すところなく利用していて、大変感服させられた。

今日の歓送会の席上、私のhomestay先のお母さんとお父さんも忙しい中時間を作って私を見送りに来てくれたので、本当に感動した。そして、彼らと離れるのがとてもつらかった。特におじさんは、お昼休みの昼食の時間を割いてまで来てくれた。彼らは私のことを我が娘のように可愛がってくれた。私はこの感激の気持ちをどう表わせればいいかわからなかった。もし私が日本に留学することができたら、必ず再び彼らを訪ねるつもりである。

一生の中で人は何度か忘れられない経験をするものであり、自分の人生の目標を変える転機が訪れるものである。また、luckyな時もあり、より夢の中で生きているような感覚になるものだ。この12日間、私はこういう時間が一挙に訪れたような気がした。夢のような12日間は、直ぐにやらなければいけないことが沢山あることを教えてくれ、私も自分が今まで積み重ねて来たものでは足りない、外国に行って優秀な大学生になるには足りないものがある、自分のやりたい

ことをやるには不十分であること、国に新たな馬力を注入するには不十分だ、ということに気づかせてくれた。私は必ず日本語の勉強を始めると決めた。

最後に、このような機会を提供頂き、私のような農村出身の子供にも外の世界と触れる機会を下さり、私が考えたこともなかったすばらしいものを見ることができたことに対し、中日友好協会と中国日本商会に心から感謝申し上げる。程団長、渡辺先生、呂ガイド、王磊さんと夢妍先生それから陳先生と林先生、ありがとうございました。皆さんの行き届いたお世話により、私は初めての新しい環境の中でも病気をすることもなく、また新しい民族について新しい認識を得ることができ、心から感謝している。皆様は私の人生の恩人である。

日中両国が早くこのぎくしゃくした関係から抜け出し、共に発展することを願い、また両国の国民が幸福な生活を送ることができるよう心から願っている。

日 付：12月6日（木） 12日目

大学名：中央民族大学

氏 名：申東美

今日は訪日の最終日だ。到着したばかりのときは12日間は本当に長いと感じていた。でも、今日になってみると12日間は、まるで夢のように、あっという間に過ぎ去ってしまった。非常に複雑な心境である。

朝、12日間を過ごした東京のホテルニューオータニの環境保護と省エネのプロセスについて見学した。見学を通して、ゴミがどのようにリサイクルされるかを理解することができた。まず、回収したゴミを分類し、野菜果物などの生ごみは機械に入れ脱水をすると泥状の物質になり、これを農家が購入し地中に40日間ほど埋めておくことで有機肥料に変わる。これはとてもエコだし、効率が高い。ニューオータニのスタッフは廃水の利用に関しても紹介してくれた。微生物を使って廃水をろ過して水に変えることにより、水のリサイクルを実現するのである。

ごく短い時間でニューオータニの施設を見学した後、私たちは最後のプログラムである歓送会の準備に入った。皆が二列に並んで入口でゲストの方々を出迎えた。この12日間に私たちが見学したすべての企業の皆さん、Homestay先の家族の皆さんの代表が出席し、私たちを見送りに来て下さった。会場はとても熱気にあふれ、私たちを受け入れて下さった日本の友人の皆さんにまたお会いすることができて大変うれしかった。そして、みんなとの話に花が咲き、非常に楽しい時間を過ごすことができた。

私たち6つの大学は順番に壇上に上がり、12日間の感想や成果を報告した。私が壇上に上がったとき、日本の友人たちが舞台の下で熱心に聞き入り、また私たちのために写真やビデオを撮ったりしている姿を目の当たりにし、とても感動した。最後に、私たち全員が舞台に上がり『海よ、故郷よ』を合唱した。何度も練習したわけではないが、みんな心を込めて歌いあげた。大きな明るい歌声だった。

今日Homestay先のホストである相原さんと奥様が一緒に歓送会に来て下さった。相原さんは用事で出張しなければならなかったが、なんとか時間を作って私にお別れを言うために来て下さったので、とても感激した。Homestayは本当に感動することばかりで、みんな私のことを本当の家族のように接して下さった。相原さんとマリコさん(真理子)に心から感謝している。お二人の事はこれから先もずっと私の心の中に留め、これからは相原さんとずっと連絡を取りあって行きたいと思っている。

日本語を勉強したことのある私にとって、これまでの日本の情報は、教科書で見たこと、他人の口から聞いたものだったが、今回チャンスに恵まれ実際に日本を訪問し自ら体験できたが、本当に百聞は一見に如かずだと感じた。今回の訪日を通して、私は日本に対してより具体的に理解することができたとし、また日本人の持ついろんな面に非常に敬服させられた。

今回の私たちの訪日が日中関係にどれだけプラスになったか自信はないが、もし私たちがお互いに聞いたこと見たことの真実を身近にいるすべての人に伝えたならば、日中民間交流は非常に重要な意味を持つと私は信じている。日中双方は今年、日中国交正常化40周年を迎えた。こういう特別な時期に、また日中双方が困難な局面に直面し

ている時期に、このような活動を行うことは非常に意義深いと思う。

最後に、私に日本を体験し、日本に近づき、日本を感じるというこのような貴重な機会を与えて下さった中日友好協会、日本商会、日中経済協会に心から感謝申し上げます。今後もこのような交流の機会が続くことを願い、また、今回の訪日団の皆さんと連絡を取り合い、末永い友情が続くことを願っている。

学生たちの撮った写真



日本到着

未明に起床。昼過ぎに成田空港到着。疲れてはいるが初めての日本に感激。思わず笑顔が浮かぶがこれから羽田空港から伊丹空港へ移動です。



パナソニック

パナソニックエコテクノロジーセンターを見学。日本の見学日程の最初の見学で学生たちも力が入る。テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機を解体し資源として回収しています。



人と防災未来センター

人と防災未来センターは阪神淡路大震災の記念館ボランティアの方からの液状化の実験と対策の説明に耳を傾ける。



トヨタ自動車

堤工場で溶接ロボットの作業を見たあとはトヨタ会館でロボットの演奏に感動。この後は昼食懇談会です。



横浜の日揮本社

会社の概要を聞いたあとはグループで日揮社員と一緒に日揮の技術を利用した中国での事業展開の提案を検討する。

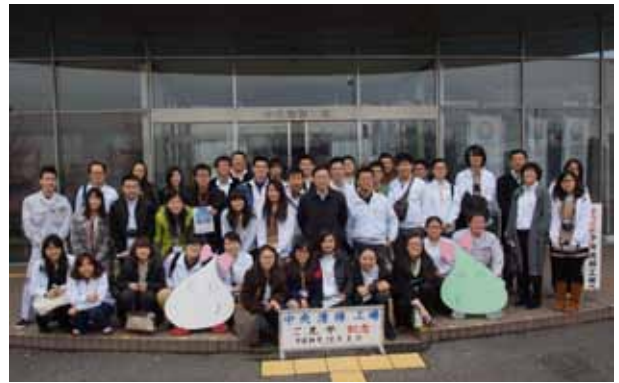


丸紅本社

総合商社の機能と中国での事業展開を傾聴。貿易と投資の機能を併せ持った業容に皆興味津々。この後は懇親会でした。



三井住友銀行本店
巨大金融グループの概要を勉強したあと昼は行員の方も入って懇談しながら弁当をいただく。



東京都中央(区)清掃工場
東京都の可燃ごみを燃焼して発電及び熱水供給を行う。道路の向かいはマンションなので環境には十分配慮してある。



キューピー五霞工場
マヨネーズ ドレッシングの主力工場。見学の前にキューピーのマスコットと一緒に記念撮影を行う。



住友化学千葉工場
合成樹脂等の生産および開発を行っている。3ヶ所の敷地にパイプラインが縦横に巡っている巨大工場でした。



日比谷松本楼
辛亥革命の指導者孫文とその支援者梅屋庄吉の交流の場となった松本楼。宋慶齡の愛用したピアノを前に梅屋庄吉の曾孫の小坂文乃さんと一緒に記念撮影。



中国大使館
中国大使館訪問は里帰りしたような親しみを感じる。韓志強公使に今回の訪日の感想を次々に報告する。



ニューオータニエコツアー

豪華なホテルの裏側で地道なエコ活動。厨房の食物屑はホテル内で堆肥に加工し農家に提供。ごみを出しません。



同志社大学

丁度学園祭の日でした。同志社の学生の案内で模擬店やライブ演奏を見て回る。学生の熱気が伝わって来ます。



同志社大学でのグループ討論会

小グループに分かれて4つのテーマで討論会。国境を越えた若者同士の交流に思わず熱中しました。



慶應義塾大学

憧れの慶應義塾大学を訪問。大学概要の説明を聞く。中身の濃い交流に中国大学生も感激でした。



慶應義塾大学

慶應義塾大学でも小グループに分かれて討論と意見交流。学生たちの眼が輝きます。



歓送会

企業・大学・ホストファミリーの皆さんと一緒に記念撮影。この後は12日間の忘れ難い日々を胸に成田空港へ向けて出発です。

ホームステイ



ホームステイ1 日中経済協会の前で記念撮影。出発前は期待で胸が膨らみます。表情は若干緊張気味です。



ホームステイ2 これからホームステイに出発。子供が作ってくれたウェルカムボードを手に嬉しさが一杯。子供はお母さんの後ろに隠れてしまいました。



ホームステイ3 こちらもウェルカムボードの歓迎です。一家の歓迎に笑みがこぼれます。



ホームステイ4 見送りに来られたホストファミリー一家と記念撮影です。1泊2日のステイでしたが一生忘れない思い出となりました。



ホームステイ5 一家と過ごした2日は楽しさ一杯でした。子供たちとも一杯遊びました。また日本に来たいと思いました。



ホームステイ6 2日目は赤ちゃんも一緒にお見送りでした。家庭の一員となった感激で一杯です。

日本点描



高台寺の月真院で寺前住職から茶の文化の話を伺う。正座をして茶道体験する学生も。脚の痺れも体験の内。



清水寺で和服の女性と会い早速交流。写真を撮らせていただいたら逆に撮っていただいて有難うと感謝されました。



同志社の交流を終えて新幹線に乗り込む。外は暗くなっていますが初めての新幹線の体験に心が弾みます。



箱根湯本の天成園では温泉 浴衣と羽織を着ての日本食と日本酒の宴会 そして懇親会と初めての経験でした。日本の温泉は最高でした。



三鷹の森ジブリ美術館は宮崎駿の世界。中学生のころ宮崎駿のアニメで育った世代にとっては夢のワールドでした。ジブリグッズもいろいろ買いました。



ディズニーランドには帰国前日にやっと来ることができました。今日は童心に帰っていざ出発です。今日は幾つ回れるか？